TOSHIBA
Leading Innovation >>>

1

準備しよう
パソコンの準備と設定

1章 パソコンの準備
−セットアップ− 11

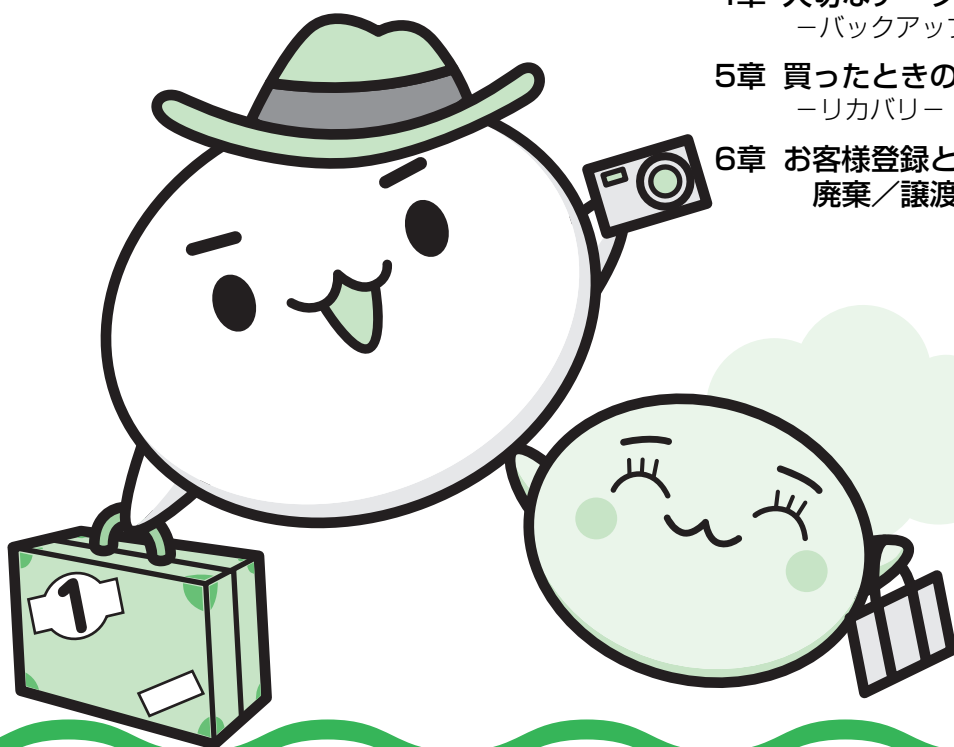
2章 買い替えのお客様へ 51

3章 インターネットを
快適に利用するために
−ウイルスチェック／セキュリティ対策− 59

4章 大切なデータを失わないために
−バックアップ− 75

5章 買ったときの状態に戻すには
−リカバリー− 99

6章 お客様登録と
廃棄／譲渡について 123

dynabook

もくじ

もくじ 1
はじめに 4

1章 パソコンの準備 －セットアップ－ 11

1 使う前に確認する 12
2 最適な場所で使う 13
3 Windowsを使えるようにする －Windowsセットアップ－ . . . 14
4 使い終わりと使いはじめ 36
　1 スリープにする 37
　2 電源を切る. 41
　3 電源を入れる 42
マニュアルで見るパソコンの使いかた 45
　1 本製品に付属しているシート・冊子マニュアル. 45
　2 パソコンで見るマニュアル. 47

2章 買い替えのお客様へ.......................................51

1 前のパソコンのデータを移行する －PC引越ナビ－ 52

3章 インターネットを快適に利用するために －ウイルスチェック／セキュリティ対策－ ...59

1 インターネットとメールを使うには 60
　1 ブロードバンドで接続する. 61
　2 メールの設定をする 64
2 ウイルス感染や不正アクセスを防ぐには
　－ウイルス・インターネットセキュリティ－ 67
　1 コンピュータウイルス対策. 67
　2 インターネットをより安全に楽しむために 68

3 ウイルスバスターによるウイルス対策. 69

1 ウイルスチェックの方法 69

2 ウイルス対策以外の機能 72

4 有害サイトの閲覧（アクセス）を制限する 73

4章 大切なデータを失わないために －バックアップ－ 75

1 バックアップをとる 76

1 ファイルやフォルダのバックアップをとる 78

2 データのバックアップをとる. 80

1 バックアップ用に使用できる記録メディア 80

2 データをコピーしてバックアップをとる. 80

3 CD／DVDにデータのバックアップをとる 81

4 Windowsが起動しない状態で、データのバックアップをとる. 86

3 リカバリディスクを作る 95

5章 買ったときの状態に戻すには －リカバリ－ 99

1 リカバリとは 100

1 リカバリをする前に確認すること 100

2 リカバリ（再セットアップ）の流れ. 102

3 リカバリをはじめる前にしておくこと 103

2 リカバリ＝再セットアップをする 105

1 いくつかあるリカバリ方法 105

2 ハードディスクドライブからリカバリをする 105

3 リカバリディスクからリカバリをする 110

3 リカバリをしたあとは 117

1 アプリケーションを再インストールする 119

2 Office製品を再インストールする 121

3 バックアップしておいたデータを復元する. 122

6章　お客様登録と廃棄／譲渡について 123

1 **お客様登録の手続き** **124**

1 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ 124

2 **捨てるとき／人に譲るとき** **126**

付録 131

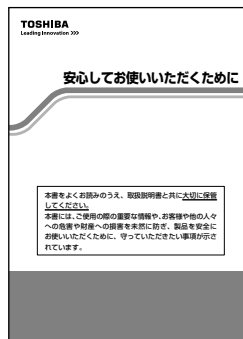
1 **ご使用にあたってのお願い** **132**

さくいん **138**

リカバリ（再セットアップ）チェックシート **140**

はじめに

このたびは、本製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。
本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、付属の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。
必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

必ずお読みください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

1 記号の意味

⚠警 告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠注 意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	このマニュアルやほかのマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合…「　」 ほかのマニュアルへの参照の場合…『　』 パソコンで見るマニュアルなどへの参照の場合…《　》 《パソコンで見るマニュアル（検索）：XXXX》と書いている場合、《パソコンで見るマニュアル》の［キーワード検索］に「XXXX」を入力すると、目的のページを検索できます。 パソコンで見るマニュアルにはさまざまな情報が記載されています。

＊1　重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
＊2　傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
＊3　物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

2 用語について

本書では、次のように定義します。

システム

特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムはWindows Vistaです。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows Vista

Windows Vista® Home PremiumまたはWindows Vista® Home Basicを示します。

MS-IME

Microsoft® Office IME 2007、またはMicrosoft® IMEを示します。

パソコンで見るマニュアル

パソコン上で見ることのできる、電子マニュアル「パソコンで見るマニュアル」を示します。
デスクトップ上の［おたすけナビ］アイコンをダブルクリック→［パソコンで見るマニュアル］タブの［パソコンで見るマニュアルTOP］ボタンをクリックして起動します。

ドライブ

DVDスーパーマルチドライブを示します。

参照 詳細について『いろいろな機能を使おう 1章 4 CDやDVDを使う』

Premiumモデル

Windows Vista® Home Premiumが搭載されているモデルを示します。

Basicモデル

Windows Vista® Home Basicが搭載されているモデルを示します。

Office 搭載モデル

Microsoft® Office Personal 2007がプレインストールされているモデルを示します。

PowerPoint 搭載モデル

Microsoft® Office PowerPoint® 2007がプレインストールされているモデルを示します。

TXシリーズ

dynabookシリーズで、モデル名が「TX」で始まるモデルを示します。

TXWシリーズ

dynabook Satelliteシリーズで、モデル名が「TXW」で始まるモデルを示します。

AXシリーズ

dynabookシリーズで、モデル名が「AX」で始まるモデルを示します。

EXシリーズ

dynabookシリーズで、モデル名が「EX」で始まるモデルを示します。

EXWシリーズ

dynabook Satelliteシリーズで、モデル名が「EXW」で始まるモデルを示します。

PXシリーズ
dynabookシリーズで、モデル名が「PX」で始まるモデルを示します。

PXWシリーズ
dynabook Satelliteシリーズで、モデル名が「PXW」で始まるモデルを示します。

CXシリーズ
dynabookシリーズで、モデル名が「CX」で始まるモデルを示します。

CXWシリーズ
dynabookシリーズで、モデル名が「CXW」で始まるモデルを示します。

ご購入のモデルのシリーズ名、モデル名、仕様については、別紙の『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

3 記載について

- 記載内容には、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルの場合」や「＊＊＊＊シリーズのみ」などのように注記します。
- インターネット接続については、ブロードバンド接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは付属のCD／DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- ［コントロールパネル］画面には「コントロールパネルホーム」と「クラシック表示」の2種類があり、本書では、「コントロールパネルホーム」に設定していることを前提に説明しています。「クラシック表示」になっている場合は、［コントロールパネルホーム］をクリックしてください。

（表示例）

- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

4 Trademarks

- Microsoft、Windows、Windows Live、Windows Media、Windows Vista、Aero、Excel、Outlook、PowerPoint、SkyDriveは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- おたすけナビは、株式会社東芝の商標です。
- TRENDMICRO、ウイルスバスターはトレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
- 「PC引越ナビ」は東芝パソコンシステム株式会社の商標です。
- デジタルアーツ/DIGITAL ARTS、ZBRAIN、アイフィルター/i-フィルターは、デジタルアーツ株式会社の登録商標です。
- Fast Ethernet、Ethernetは富士ゼロックス株式会社の商標または登録商標です。
- メモリースティックはソニー株式会社の商標です。
- YouTube、YouTubeロゴはGoogle Inc.の登録商標です。

本書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

5 インテル Centrino® 2 プロセッサー・テクノロジーについて

次の3つのコンポーネントを搭載したパソコンをインテル Centrino 2 プロセッサー・テクノロジー搭載と呼びます。

- インテル® Core™ 2 Duo プロセッサー
- モバイル インテル® GM45 Expressチップセット
- インテル® WiFi Link 5100AGN

6 プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ACアダプタを接続せずバッテリ駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
  目安として、標高1,000メートル（3,280フィート）以上をお考えください。
- 目安として、気温5～30℃（高所の場合25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。
これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。
なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

■64ビットプロセッサに関する注意

64ビット対応プロセッサは、64ビットまたは32ビットで動作するように最適化されています。
64ビット対応プロセッサは以下の条件をすべて満たす場合に64ビットで動作します。

- 64ビット対応のOS（オペレーティングシステム）がインストールされている
- 64ビット対応のCPU/チップセットが搭載されている
- 64ビット対応のBIOSが搭載されている
- 64ビット対応のデバイスドライバがインストールされている
- 64ビット対応のアプリケーションがインストールされている

特定のデバイスドライバおよびアプリケーションは64ビットプロセッサ上で正常に動作しない場合があります。
プレインストールされているOSが、64ビット対応と明示されていない場合、32ビット対応のOSがプレインストールされています。

このほかの使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝PCあんしんサポートにお問い合わせください。

7 著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

8 リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。
必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［はじめに］→［リリース情報］をクリックする

9 使い終わったとき

パソコンを使い終わったとき、電源を完全に切る方法のほかに、それまでの作業をメモリに保存して一時的に中断する方法があります。この機能を、「スリープ」と呼びます。
スリープ機能は、次に電源スイッチを押したときに素早く中断したときの状態を再現することができます。その場合スリープ中でもバッテリを消耗しますので、ACアダプタを取り付けておくことを推奨します。
なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（増設メモリの取り付け／取りはずしや、バッテリパックの取り付け／取りはずしなど）は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。

参照 スリープ／電源を切る「1章 4 使い終わりと使いはじめ」

10 お願い

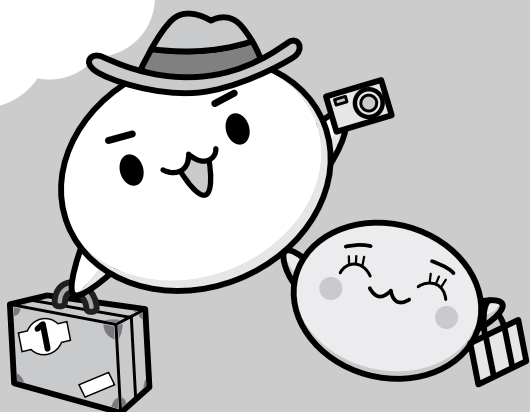
- 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows Vista Home Basic搭載のモデルでは、Windows Vista Home Premiumに搭載の一部の機能（Windows Aeroインタフェース、フリップ3Dなど）はご利用になれません。
- Windows標準のシステムツールまたは本書に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 内蔵ハードディスクにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- 本製品に内蔵されている画像は、本製品上で壁紙に使用する以外の用途を禁じます。

- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。有償にてパスワードを解除します。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有償です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- 本製品はセキュリティ対策のためのパスワードの設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。
セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、弊社は一切の責任を負いません。
- 「ウイルスバスター」を使用している場合、ウイルス定義ファイルおよびファイアウォール規則などは、新種のウイルスやワーム、スパイウェア、クラッキングなどからコンピュータを保護するためにも、常に最新のものにアップデートする必要があります。最新版へのアップデートは、ご使用開始から90日間に限り無料で行うことができます。90日を経過するとウイルスチェック機能を含めて、すべての機能がご使用できなくなります。
ウイルスチェックが全く行われない状態となりますので、必ず期限切れ前に有償の正規サービスへ登録するか、市販のウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを導入してください。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする取扱説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。
- アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書が表示されなくなります。リカバリを行った場合には再び使用許諾書が表示されます。
- 『東芝保証書』は、記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。弊社ホームページで登録できます。

参照 詳細について「6章 1 お客様登録の手続き」

11 ［ユーザー アカウント制御］画面について

操作の途中で［ユーザーアカウント制御］画面が表示された場合は、そのメッセージを注意して読み、開始した操作の内容を確認してから、［続行］または［許可］ボタンをクリックしてください。
パスワードの入力を求められた場合は、管理者アカウントのパスワードで認証を行ってください。

1 章

パソコンの準備
－セットアップ－

この章では、パソコンの置き場所、Windowsのセットアップ、電源の切りかた／入れかたなど、お買い上げいただいてから実際に使い始めるまでの準備と、ほかのマニュアルについて説明しています。

1　使う前に確認する 12
2　最適な場所で使う 13
3　Windowsを使えるようにする
　　－Windowsセットアップ－ 14
4　使い終わりと使いはじめ 36
マニュアルで見るパソコンの使いかた 45

1 使う前に確認する

1 箱を開けたらまずはこれから

■箱の中身の確認

『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照して、付属品がそろっているか、確認してください。足りない物がある場合や、破損している物がある場合は、東芝PCあんしんサポートにお問い合わせください。

参照 東芝PCあんしんサポート『東芝PCサポートのご案内』

■型番と製造番号を確認

パソコン本体の裏面に型番と製造番号が記載されています。保証書に同じ番号が記載されていることを確認してください。番号が違う場合や、不備があった場合は、東芝PCあんしんサポートにお問い合わせください。

参照 記載位置について『いろいろな機能を使おう 1章 1 各部の名称』

2 忘れずに行ってください

■使用する前に

本製品を使用する前に、必ず本書をはじめとする取扱説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』を読んでください。

■保証書は大切に保管

故障やトラブルが起こった場合、保証書があれば保証期間中（保証期間については保証書を確認してください）は東芝の無償（無料）保守サービスが受けられます。
保証書に記載の内容を読んで、確認したあと、大切に保管してください。

本書は、取扱説明書等の注意書きによる正常なご使用において故障した場合、裏面の「無料修理規定」に準じて、無料修理をお約束するものです。

★お買い上げ日(Purchase Date) 西 暦 年 月 日

★お客様情報 お名前 フリガナ
ご住所 〒□□□-□□□□
電話：

本書は日本国内での保証と、ILW対象製品（上記※欄に ILW が記載）の海外保証（制限付）を証明します（ILWについては、対象製品に付属の「東芝PCサポートのご案内」をご覧ください）。
If " ILW " appears at the top of this section, this product is covered by the ILW from the date of purchase for the period shown in parenthesis.
※本書の再発行はいたしませんので、紛失しないように大切に保管してください。
ご販売店様へ：必ずお買い上げ日、貴販売店名等をご記入の上、お客様にお渡しください。

★ご販売店名、住所、電話番号

株式会社東芝 PC&ネットワーク社
PC第一事業部 (Printed in China)

■海外保証を受けるには

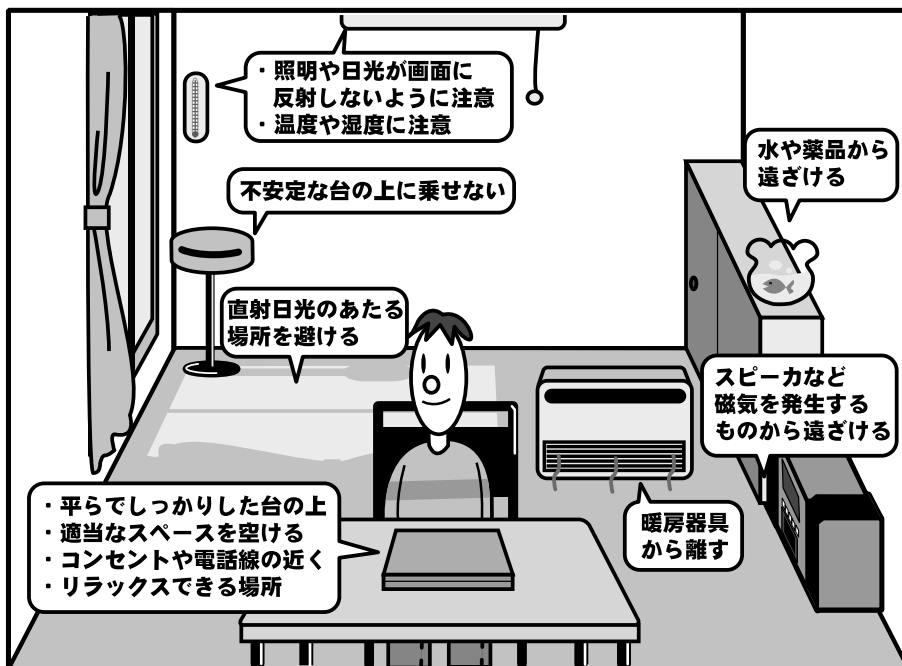
海外で使用するときは「海外保証（制限付）」（ILW:International Limited Warranty）により、海外の所定の地域で、保証書に記載の無料修理規定および制限事項・確認事項の範囲内で修理サービスを利用できます。
利用方法、保証の詳細については『東芝PCサポートのご案内』の記載内容および保証書に記載の無料修理規定を読んで、確認してください。

■Product Keyは大切に保管

本製品には、パソコン用基本ソフト（OS）としてマイクロソフト社製のWindowsが用意されています。このWindowsにそれぞれ割り当てられている管理番号を「Product Key」といいます。
Product Keyはパソコン本体に貼られているラベルに印刷されています。
このラベルは絶対になくさないようにしてください。再発行はできません。
紛失した場合、マイクロソフト社からの保守サービスが受けられなくなります。

2 最適な場所で使う

1 パソコンに最適な環境とは

人間にとって住みやすい温度と湿度の環境が、パソコンにも最適な環境です。

次の点に注意して置き場所、使う場所を決めてください。

- 安定した場所に置きましょう。
  不安定な場所に置くと、パソコンが落ちたり倒れたりするおそれがあり、故障やケガにつながります。
- 温度や湿度が高いところは避けましょう。
  暖房や加湿器の送風が直接あたる場所はよくありません。
- 強い磁気を発するものの近くで使用しないでください。
  磁石はもちろん、スピーカ、テレビの近くは磁気の影響を受けます。磁気ブレスレットなどもパソコンを使用するときははずすようにしましょう。
- 照明や日光があたる位置も考慮しましょう。
  照明や日光が直接ディスプレイにあたると、反射して画面が見づらくなります。
- ラジオやテレビの近くで使用しないでください。
  ラジオやテレビの受信障害を引き起こすことがあります。
- 無線通信装置から離してください。
  携帯電話も無線通信装置の一種です。
- パソコンの通風孔をふさがないように置きましょう。
  通風孔はパソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。ふさぐと、パソコン本体内部が高温となるため、本来の性能を発揮できない原因や故障の原因となります。

3 Windows(ウィンドウズ)を使えるようにする —Windowsセットアップ—

初めて電源を入れたときは、Windowsのセットアップを行います。
Windowsのセットアップは、パソコンを使えるようにするために必要な操作です。
セットアップには約10～20分かかります。
作業を始める前に、付属の冊子『安心してお使いいただくために』を必ず読んでください。特に電源コードやACアダプタの取り扱いについて、注意事項を守ってください。

1 操作の流れ

パソコンの準備

- 電源コードとACアダプタを接続する
- ▼
- 電源を入れる

▼

Windowsのセットアップ

- 国または地域を確認する
- ▼
- ライセンス条項に同意する
- ▼
- ユーザの名前とパスワードを入力する
- ▼
- コンピュータの名前を入力する
- ▼
- Windowsの保護の設定をする
- ▼
- 時刻と日付の設定を確認する
- ▼
- セットアップ完了

お願い セットアップをするときの注意

■ **周辺機器は接続しないでください**

- セットアップはACアダプタと電源コードのみを接続して行います。
  セットアップが完了するまでは、プリンタ、マウスなどの周辺機器やLANケーブルは接続しないでください。

■ **途中で電源を切らないでください**

- セットアップの途中で電源スイッチを押したり電源コードを抜くと、故障や起動できない原因になり、修理が必要となることがあります。

■ **操作は時間をあけないでください**

- セットアップ中にキーボードの操作が必要な画面があります。時間をあけないで操作を続けてください。
  30分以上タッチパッドやキーボードを操作しなかった場合、画面に表示される内容が見えなくなる場合がありますが、故障ではありません。
  もう1度表示するには、*SHIFT* キーを押すか、タッチパッドをさわってください。
  SHIFT キーやタッチパッドでは復帰せず、Power ⏻ LEDが点滅または消灯している場合は、電源スイッチを押してください。

2 電源コードとACアダプタを接続する

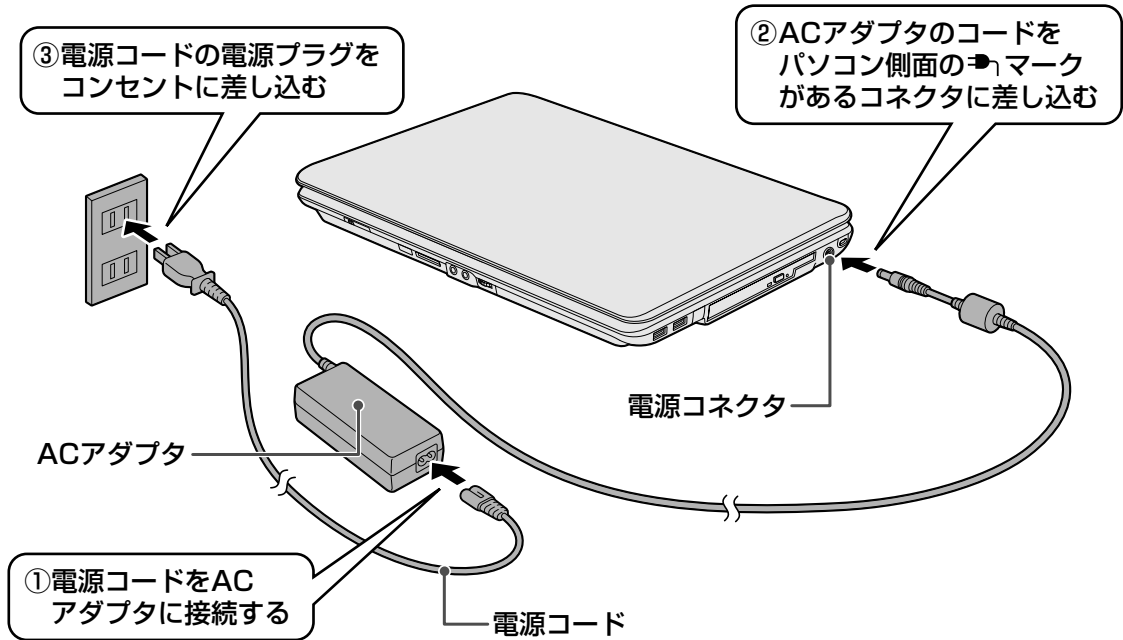
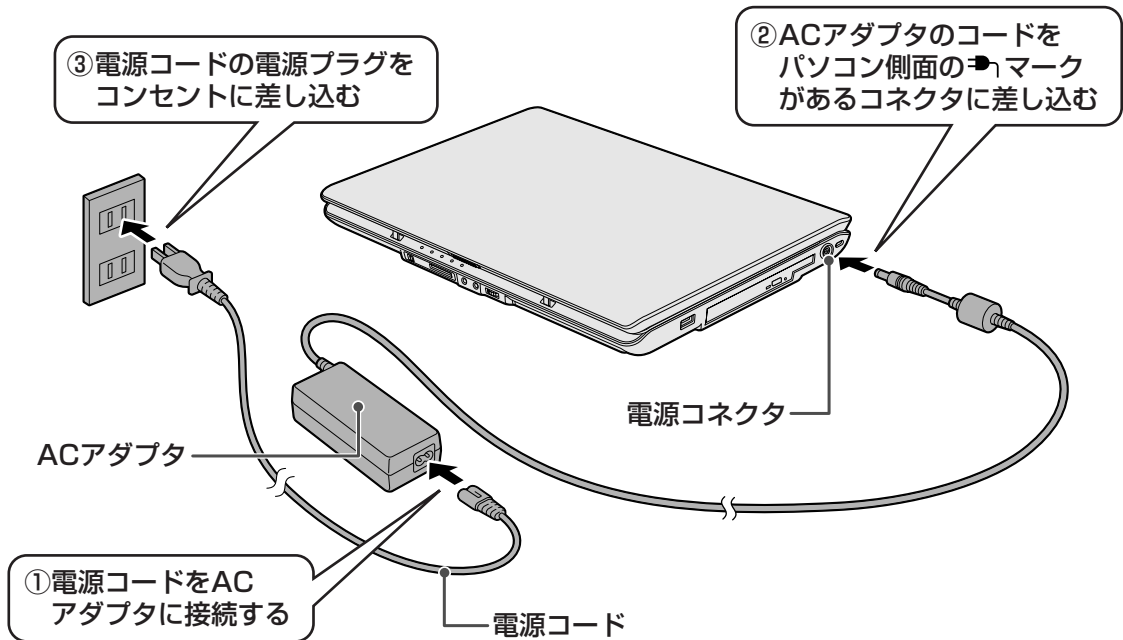
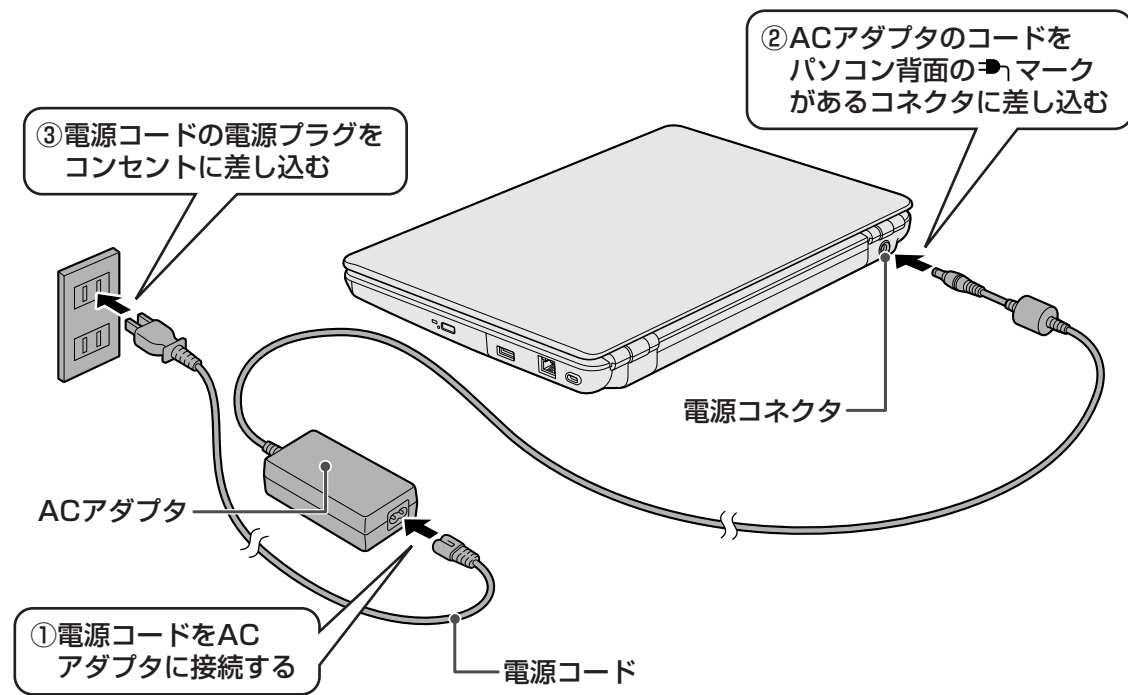
⚠ 警 告

- **ACアダプタは本製品に付属のものを使用する**
  本製品付属以外のACアダプタを使用すると電圧や（＋）（－）の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- **パソコン本体にACアダプタを接続する場合、本書に記載してある順番を守って接続する**
  順番を守らないと、ACアダプタのDC出力プラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。
  また、ACアダプタのプラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

お願い 電源コード、ACアダプタの取り扱いについて

- あらかじめ「付録 1 - 1 電源コード、ACアダプタの取り扱いについて」を確認してください。

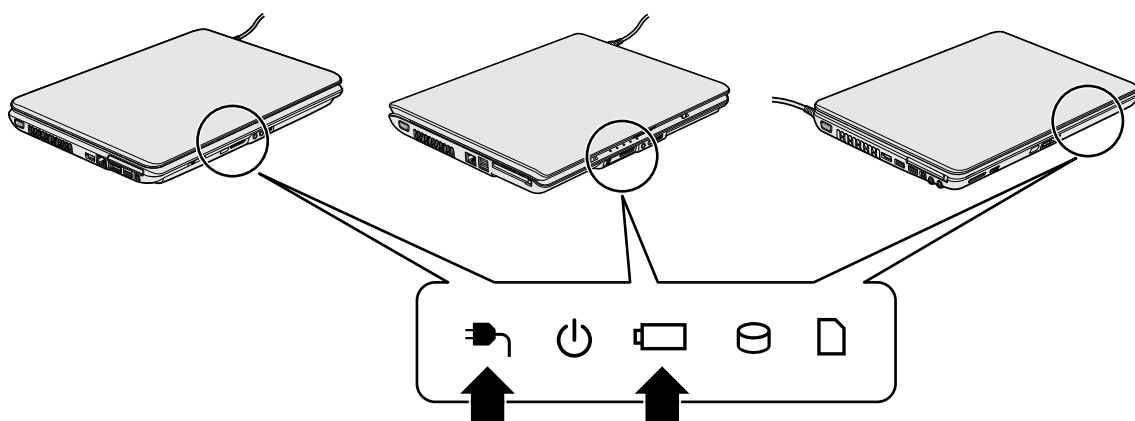
次の図の①→②→③の順で行ってください。

■TXシリーズ、TXWシリーズ、AXシリーズの場合

■EXシリーズ、EXWシリーズ、PXシリーズ、PXWシリーズの場合

■CXシリーズ、CXWシリーズの場合

接続すると

DC IN LEDが点灯します。また、Battery LEDがオレンジ色に点灯し、バッテリへの充電が自動的に始まります。

■TXシリーズ、TXWシリーズ、AXシリーズの場合　■EXシリーズ、EXWシリーズ、PXシリーズ、PXWシリーズの場合　■CXシリーズ、CXWシリーズ、の場合

メモ

- バッテリ充電中でもパソコンを使用することができます。

参照 詳細について『いろいろな機能を使おう 4章 1 - 1 バッテリ充電量を確認する』

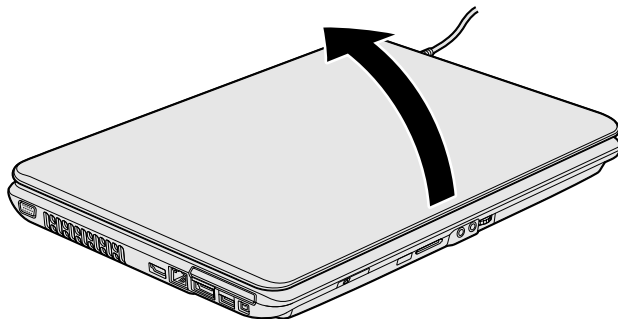
3 電源を入れる

お願い　本体液晶ディスプレイを開けるときは

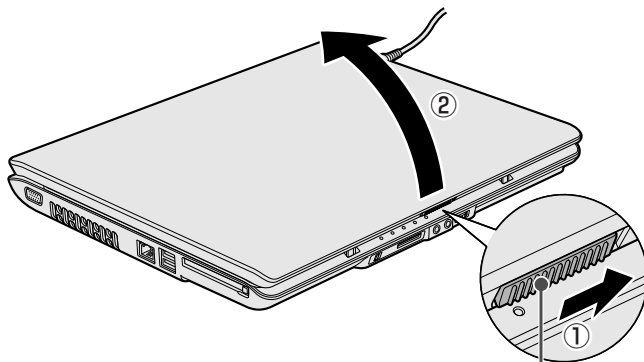
- 本体液晶ディスプレイを開き過ぎるとヒンジ（手順 2 参照）に力がかかり、破損や故障の原因となります。ヒンジに無理な力が加わらないよう開閉角度に注意してご使用ください。

1 パソコンのディスプレイを開ける

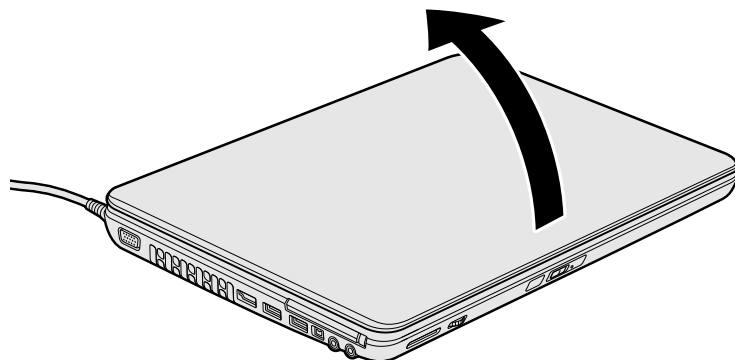
■TXシリーズ、TXWシリーズ、AXシリーズの場合

ディスプレイを開閉するときは、傷や汚れがつくのを防ぐために、液晶ディスプレイ（画面）部分には触れないようにしてください。

片手でパームレスト（キーボード手前部分）をおさえた状態で、ゆっくり起こしてください。

■EXシリーズ、EXWシリーズ、PXシリーズ、PXWシリーズの場合

ディスプレイを開閉するときは、傷や汚れがつくのを防ぐために、液晶ディスプレイ（画面）部分には触れないようにしてください。

ディスプレイ開閉ラッチをスライドし①、片手でパームレスト（キーボード手前部分）をおさえた状態で、ゆっくり起こしてください②。

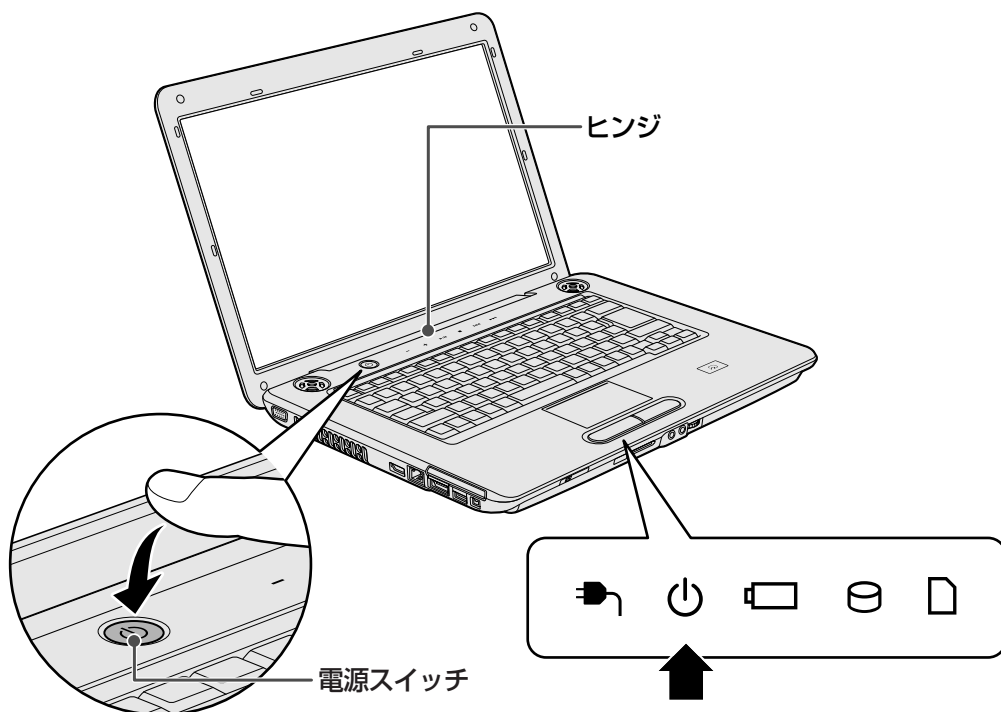
■CXシリーズ、CXWシリーズの場合

ディスプレイを開閉するときは、傷や汚れがつくのを防ぐために、液晶ディスプレイ（画面）部分には触れないようにしてください。

片手でパームレスト（キーボード手前部分）をおさえた状態で、ゆっくり起こしてください。

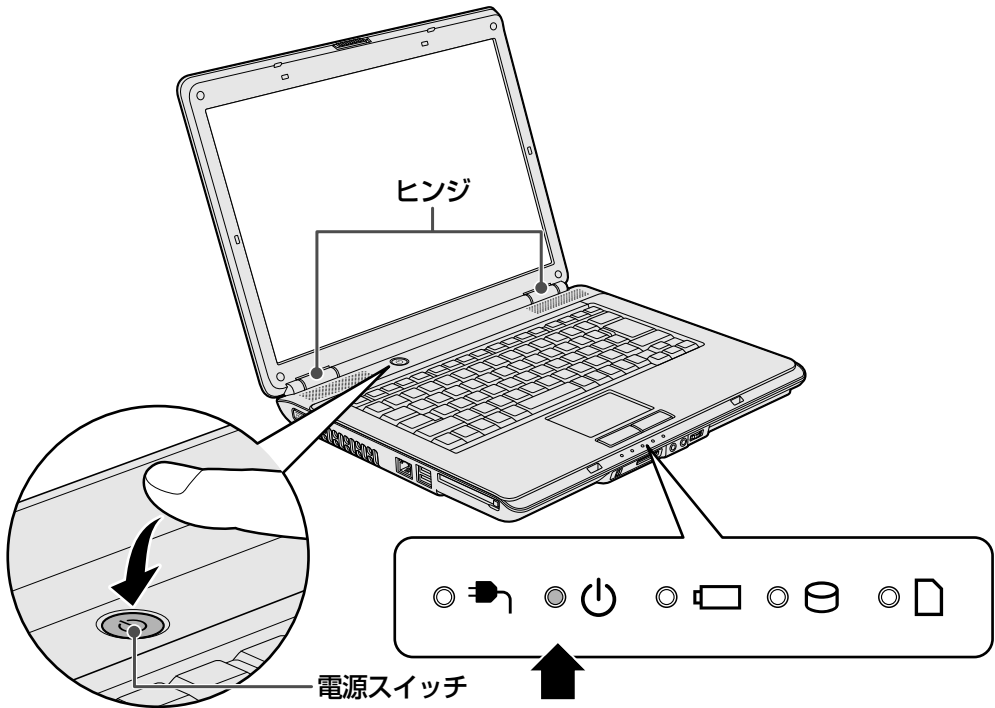
2 電源スイッチを約2秒間押し、指をはなす

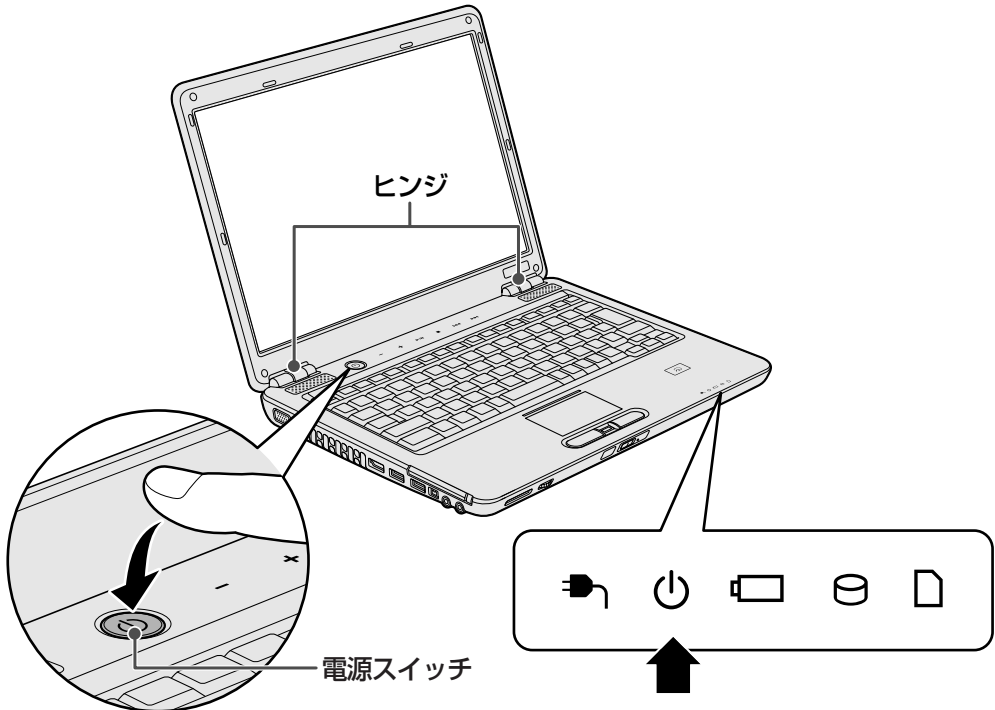
指をはなすと電源が入ります。

Power ⏻ LEDが点灯するのを確認してください。

■TXシリーズ、TXWシリーズ、AXシリーズの場合

これでパソコンの準備は完了です。

続いてWindowsのセットアップに進みます。

■EXシリーズ、EXWシリーズ、PXシリーズ、PXWシリーズの場合

これでパソコンの準備は完了です。
続いてWindowsのセットアップに進みます。

■CXシリーズ、CXWシリーズの場合

これでパソコンの準備は完了です。
続いてWindowsのセットアップに進みます。

4 Windowsのセットアップ

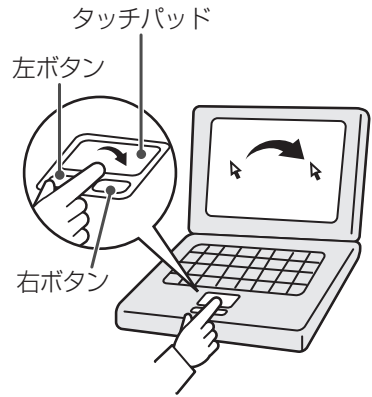
パソコンが起動したら、［Windowsのセットアップ］画面が表示されます。

1 ［国または地域］欄に「日本」と表示されていることを確認し、［次へ］をクリックする

■Premiumモデルの場合

■Basicモデルの場合

■ **クリックとは**

タッチパッドに指をおいて、上下左右に動かすと、指の動きに合わせてディスプレイ上の「 」（ポインタ）が動きます。
目的の位置にポインタを合わせたあと、左ボタンを1回押す操作を「クリック」といいます。

参照 詳しい使いかた『いろいろな機能を使おう 1章 2-1 タッチパッドで操作する』

［ライセンス条項をお読みになってください］画面が表示されます。

ライセンス条項に同意

ライセンス条項に同意しないと、セットアップを続行することはできず、Windowsを使用することはできません。

2 ライセンス条項の内容を確認し、［ライセンス条項に同意します］の左にある をクリックする

表示されている条項文の続きを表示するには、画面の右側にある ボタンをクリックします。

をクリックすると になります。

3 ［次へ］ボタンをクリックする

［ユーザー名と画像の選択］画面が表示されます。

ユーザの名前を入力する

Windows Vistaでは、複数のユーザが1台のパソコンを別々に使用することができます。
そのとき、使用するユーザによって違う環境でWindowsを起動できるので、Windows起動時にどのユーザが使用するのかを識別する必要があります。そのために、複数のユーザが使用する場合は、ユーザそれぞれを区別するための名前を登録します。
次の手順で入力するユーザ名は、管理者ユーザを登録するためのものです。どんな名前でも良いので、自分であることを識別できるような名前を入力してください。
管理者ユーザとは、複数のユーザでパソコンを使用する場合、全体を管理してほかのユーザの使用制限を設定したりできるユーザです。

4 ユーザの名前を入力する

［ユーザー名を入力してください］と書いてある下の欄に、管理者ユーザの名前を入力してください。**ユーザ名は、半角英数字で入力することをおすすめします。**「｜」（カーソル）が表示されている位置から文字の入力ができます。

文字の入力方法、入力に使うキーの位置については、『アシストシート』に簡単な説明がありますので、参照してください。
「dynabook」と入力するときは、キーボードで D Y N A B O O K と押します。

■キーを押しても表示されないときは

キーを押しても文字が表示されない場合は、入力欄に「｜」が点滅しながら表示されていることを確認してください。表示されている位置から文字などを入力できます。
表示されていないときは、［ユーザー名を入力してください］の下の欄をクリックしてください。

■入力を間違えたときは

入力を間違えたときは次の操作で文字を削除して、もう1度入力しましょう。

- カーソルの左側の文字を削除する .... BACKSPACE キーを押す
- カーソルの右側の文字を削除する .... DEL キーを押す

  カーソルを左右に動かすには、← キーまたは → キーを押します。

ほかのユーザは、あとで登録できます。

パスワードを入力する

パスワードとは、それを入力しないと次のステップに進めないようにできる、特定の文字列です。
ここでは、Windows Vistaを起動するときに入力しないと、起動できないようにするためのパスワードを設定します。これを「Windowsログオンパスワード」と呼びます。

5 パスワードを入力する

［パスワードを入力してください］と書いてある下の欄に、Windowsログオンパスワードとして設定したい文字を入力してください。
Windowsログオンパスワードは半角英数字で127文字まで設定できますが、8文字以上で設定することを推奨します。英字の場合、大文字と小文字は区別されます。
Windowsログオンパスワードを入力しないでそのまま次の画面へ進むこともできますが、セキュリティ上、設定することを強くおすすめします。

入力した文字は「●●●●●」で表示されるため、画面を見て確認することはできません。入力し間違えても画面ではわからないので、気をつけて入力してください。
Windowsログオンパスワードを入力すると、すぐ下に［パスワードをもう一度入力してください］という入力欄が表示されます。

6 パスワードをもう1度入力する

［パスワードをもう一度入力してください］と書いてある下の欄に、手順 5 で入力したWindowsログオンパスワードを、もう1度入力してください。

パスワードのヒントを入力する

設定したWindowsログオンパスワードを忘れてしまったときのために、ヒントを入力しておいて、パスワード入力画面で表示させることができます。

7 パスワードのヒントを入力する

［パスワードのヒントを入力してください］と書いてある下の欄に、それを読めば自分だけはパスワードを思い出せるようなヒントを入力してください。

ユーザの画像を選択する

どのユーザであるのかを示すために、ユーザ名のほかに画像を登録することもできます。

8 使いたい画像をクリックする

画面下部の画像群から、使いたい画像をクリックしてください。

9 ［次へ］ボタンをクリックする

［コンピュータ名を入力して、デスクトップの背景を選択してください。］画面が表示されます。

コンピュータの名前を入力する

コンピュータに名前をつけるのは、使用するパソコンをほかのパソコンと区別するためです。ネットワークに接続する場合は、必ず設定してください。

10 コンピュータの名前を入力する

［コンピュータ名を入力してください］と書いてある下の欄に、半角英数字で任意の文字列を入力してください。**半角英数字以外は使用しないでください。**またこのとき、同じネットワークに接続するコンピュータとは別の名前にしてください。

（表示例）

1章 パソコンの準備 －セットアップ－

背景画像を選択する

パソコンの画面（デスクトップといいます）の背景を設定します。

11 使いたい画像をクリックする

画面下部の画像群から、使いたい画像をクリックしてください。
クリックすると、選択した画像が実際の背景に表示されます。

（表示例）

12 ［次へ］ボタンをクリックする

（表示例）

［Windowsを自動的に保護するよう設定してください］画面が表示されます。

Windowsの保護の設定をする

13 ［推奨設定を使用します］をクリックする

［時刻と日付の設定の確認］画面が表示されます。

時刻と日付を確認する

コンピュータの内蔵時計の時刻と日付が合っているかどうか、確認します。

14 時刻と日付を確認する

合っていない場合は、正しい内容に設定してください。

（表示例）

［タイムゾーン］は、欄の右にある ▼ をクリックして、表示された地名から「大阪、札幌、東京」をクリックしてください。

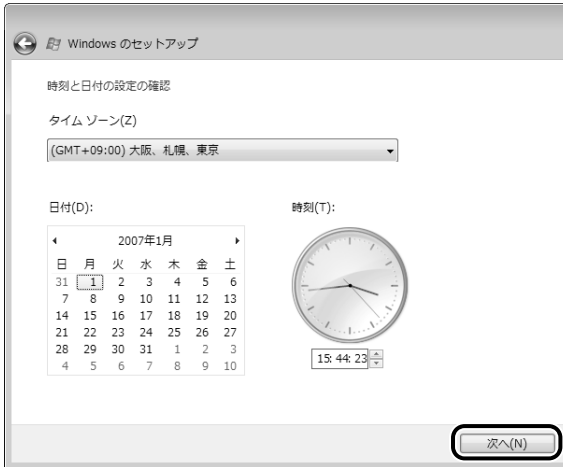
年・月の左右にある ◀ または ▶ をクリックすると、月ごとに順に表示が切り替わります。
年・月を合わせてから、下の該当する日をクリックしてください。

時刻表示の右にある ▲ または ▼ をクリックすると、順に数字が切り替わります。
変更したい時／分／秒をクリックしてから ▲ または ▼ をクリックしてください。

メモ

- 時刻と日付はWindowsセットアップ終了後に設定することもできます。
- 時刻と日付が合っていないと、本製品に用意されているウイルスチェックソフトなどの使用期限のあるアプリケーションでは、アプリケーションの設定後から適用される使用期限などが、正しく計測されないことがあります。そのため、この時点で、時刻と日付が合っていることを必ず確認してください。

参照 日付と時刻の設定『Windowsヘルプとサポート』

15 ［次へ］ボタンをクリックする

（表示例）

［ありがとうございます］画面が表示されます。

16 ［開始］ボタンをクリックする

セットアップ完了

17 パフォーマンスの確認が実行される

Windowsセットアップが終了すると、コンピュータのパフォーマンスを確認する画面が表示されます。
画面下部に［しばらくお待ちください。］と表示されている間は、何も操作しないでお待ちください。

パフォーマンスの確認が終了すると、Windowsログオンパスワードを入力する画面が表示されます。

18 手順 5 で入力したパスワードを入力し、ENTERキーを押す

（表示例）

Windowsが起動し、［ウェルカム センター］画面が表示されます。

「東芝サービスステーション」のメッセージが表示された場合は、次の「本節 5 「東芝サービスステーション」について」を確認してください。

メモ

- パソコンを起動するときに流れるWindowsの起動音がまれに途切れる場合がありますが、故障ではありません。

5 「東芝サービスステーション」について

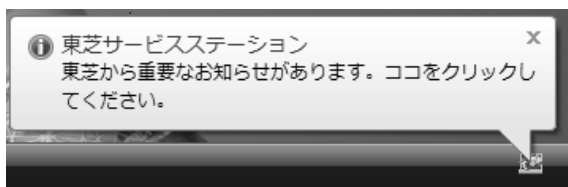
「東芝サービスステーション」は、ソフトウェアのアップデートや重要なお知らせを自動的に提供するためのソフトウェアです。以降の説明をお読みのうえ、「東芝サービスステーション」を使用して、本製品を最新の状態に保つことを強くおすすめします。
このソフトウェアは動作に必要な機器の識別情報などを弊社のサーバへ送信します。
使用できるように設定する前に、詳しい内容を説明した使用許諾書が表示されますので、よくお読みください。

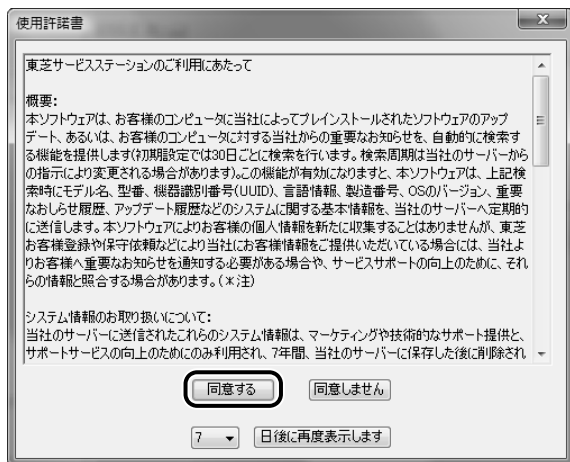
メモ

- 「東芝サービスステーション」を使用するには、インターネットに接続できる環境が必要です。
- 「東芝サービスステーション」は、本製品に用意されているアプリケーション、ユーティリティ、ドライバやBIOSのうち、一部についてアップデートをお知らせします。このため、「あなたのdynabook.com」や「dynabook.com」、「Microsoft Update」などのサイトにアクセスし、よくあるご質問FAQやウイルス・セキュリティ情報などとあわせてご利用ください。

設定方法

「東芝サービスステーション」を使用できるように設定する方法は、次のとおりです。

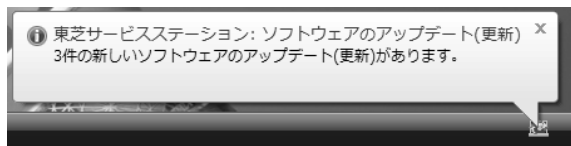
1 パソコン起動後、しばらくしてから通知領域に表示されるメッセージをクリックする

または、［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［サービスステーション］をクリックしてください。
初めて起動したときは、本ソフトウェアに関する詳しい説明（使用許諾書）が表示されます。

2 内容を確認し、[同意する] ボタンをクリックする

(表示例)

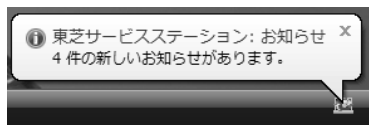
使用許諾書に同意すると、以降はソフトウェアのアップデートや弊社からのお知らせを検出する機能が、パソコンを起動すると自動的に動作します。

使用方法

■ソフトウェアのアップデートがある場合

本製品に用意されているアプリケーション、ユーティリティ、ドライバやBIOSのうち、一部についてアップデートがあることを検知すると、次のメッセージが表示されます。

メッセージをクリックし、画面の指示に従って操作してください。

■本製品に対するお知らせがある場合

本製品に対する弊社からのお知らせが準備されたことを検出すると、次のメッセージが表示されます。

メッセージをクリックし、画面の指示に従って操作してください。

手動で、ソフトウェアのアップデート、またはお知らせを確認したい場合は、[スタート] ボタン( ) → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [サービスステーション] をクリックしてください。

役立つ操作集

「dynabookランチャー」

デスクトップのガジェットに表示されています。

インターネット接続の設定が済んでいる場合、画面右上の（ ）をクリックすると、［サポート情報］にはdynabook.comの最新情報が、［メールマガジン］にはdynabook.com.magazine最新号などが表示されます。知りたい情報の項目をクリックしてください。

便利な機能のアイコンが次々に表示されます。クリックすると、それぞれのアプリケーションの起動やホームページへのアクセスが簡単に行えます。

表示されるアイコンは、次のとおりです。

「おたすけナビ」が起動します。

参照 「本章 マニュアルで見るパソコンの使いかた」

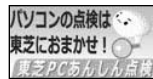
「動画で学ぶ YouTube」が起動します。

参照 「本章 マニュアルで見るパソコンの使いかた」

「動画で解決！操作ガイド」が起動します。

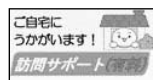
「あなたのdynabook.com」の説明画面が表示されます。

参照 『いろいろな機能を使おう 6章 1-3 トラブル事例を見てみる』

東芝PC有料サポートサービスの説明画面が表示されます。

参照 『東芝PCサポートのご案内』

東芝PCあんしん点検の説明画面が表示されます。

参照 『東芝PCサポートのご案内』

修理のお申し込みの説明画面が表示されます。

参照 『東芝PCサポートのご案内』

訪問サポートの説明画面が表示されます。

参照 『東芝PCサポートのご案内』

インターネット接続の設定が済んでいる場合は、「あなたのdynabook.com」、「東芝PC電話サポート予約サービス」、「遠隔支援サービス」、「PC i-repairサービス」、「訪問サポート」の説明画面上でクリックすると、該当のホームページへアクセスします。

- dynabookランチャーをガジェットから切り離して、dynabookランチャーの各アイコンを一覧表示することができます。次の手順で行います。
  ① dynabookランチャー上で右クリックし、表示されたメニューから［サイドバーから切り離す］をクリックする

日付と時刻の確認

時刻は、画面右下の［通知領域］に表示されています。日付は、時刻表示部分にポインタを合わせると表示されます。正しく設定されているかどうか確認してください。

（表示例）

正しく設定されていない場合は、『Windowsヘルプとサポート』を確認して設定してください。

Windows Vistaでわからない操作があったとき

Windows Vistaの使いかたについては、［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をクリックして、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。
Windows Vistaの最新情報は次のホームページから確認できます。

- **Windows Vistaについて**
  URL：http://www.microsoft.com/japan/windowsvista/

Windowsの基本操作については、《パソコンで見るマニュアル》をご覧ください。

Windowsセットアップが終了したら

Windowsセットアップやアプリケーションのインストールなどが終了したら、次の操作を行っておくことをおすすめします。

- **Windowsを最新の状態にする**
  「Windows Update」で更新プログラムをインストールしてください。

  参照 「Windows Update」《パソコンで見るマニュアル（検索）：Windowsを最新の状態にする》

- **リカバリディスクを作成する**
  リカバリディスクでは、システムやアプリケーションをご購入の状態に復元（リカバリ）することができます。

  参照 リカバリディスクについて「4章 3 リカバリディスクを作る」

  なお、リカバリディスクを使って実際にリカバリを行うときは、操作の流れをよくご確認ください。

  参照 リカバリについて「5章 買ったときの状態に戻すには」

4 使い終わりと使いはじめ

パソコンを使い終わったとき、電源を完全に切る方法のほかに、それまでの作業をメモリに保存して一時的に中断する方法があります。この機能を、「スリープ」と呼びます。
スリープ機能は、次に電源スイッチを押したときに素早く中断したときの状態を再現することができます。その場合スリープ中でもバッテリを消耗しますので、ACアダプタを取り付けておくことを推奨します。
なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（増設メモリの取り付け／取りはずしや、バッテリパックの取り付け／取りはずしなど）は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。

⚠ 警 告

- **電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る**
  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、ワイヤレスコミュニケーションスイッチを切った上で、パソコンの電源を切ってください。
  スリープの状態では、プログラムされているタスクの処理を始めたり、作業中のデータを保存したりするためにパソコンのシステムが自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、他のシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。

1 スリープにする

パソコンの使用を中断する場合は、パソコンを「スリープ」にしましょう。
スリープには、通常のスリープのほかに「ハイブリッド スリープ」という機能もあります。
作業を中断している間にバッテリの残量が少なくなった場合などは、通常のスリープでは保存されていないデータは消失します。ハイブリッド スリープを有効にすると、データは保持されます。

参照 ハイブリッド スリープ「本項 2 スリープ機能を強化する」

1 スリープの実行方法

1 ［スタート］ボタンをクリックする

2 ［電源］ボタンをクリックする

スリープ状態になります。
電源スイッチを押すと、中断したときの状態を再現します。

2 スリープ機能を強化する

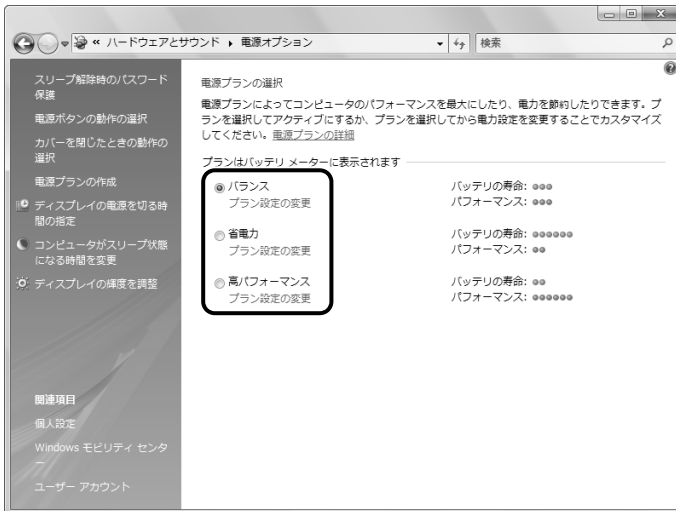
Windows Vistaには、通常のスリープのほかに「ハイブリッド スリープ」という機能が用意されています。
パソコンの使用を中断したとき、それまでの作業をメモリに保存するスリープに対して、ハイブリッド スリープはメモリとハードディスクドライブの両方に保存します。
作業を中断している間にバッテリの残量が少なくなった場合などは、通常のスリープでは保存されていないデータは消失します。ハイブリッド スリープを有効にしておくと、ハードディスクドライブから作業内容を復元できます。
ハイブリッド スリープを有効にしている状態でスリープを実行すると、ハイブリッド スリープとして機能します。
またスリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するようにも設定できます。

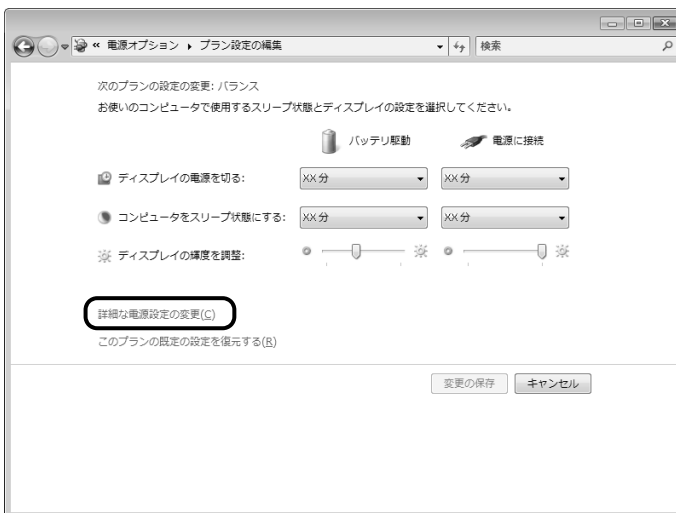
参照 休止状態《パソコンで見るマニュアル（検索）：休止状態》

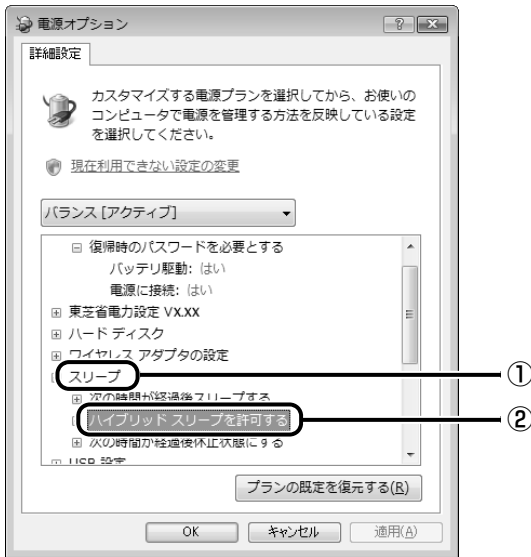
ハイブリッド スリープを有効にするには、次の手順で設定してください。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

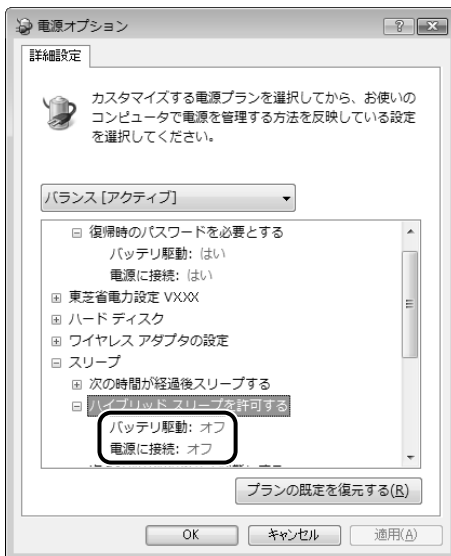
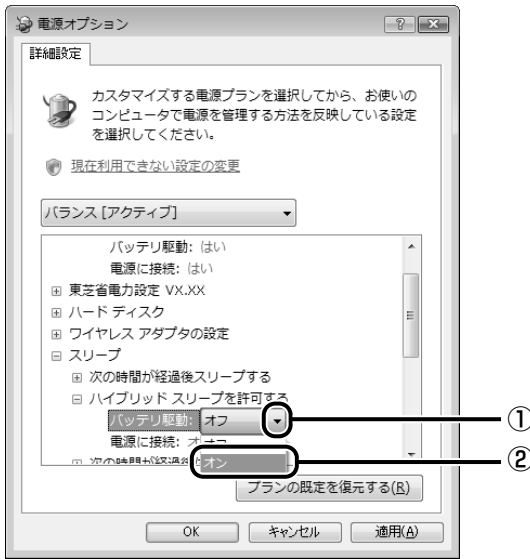
2 ［ バッテリ設定の変更］→選択している電源プランの［プラン設定の変更］をクリックする

［プラン設定の変更］は、各電源プランの下に表示されています。選択している電源プランの下に表示されている［プラン設定の変更］をクリックしてください。

ハイブリッド スリープの設定は、電源プランごとに必要です。
［プラン設定の編集］画面が表示されます。

3 ［詳細な電源設定の変更］をクリックする

［詳細設定］画面が表示されます。

4 ［スリープ］をダブルクリックし①、表示される項目から［ハイブリッド スリープを許可する］をダブルクリックする②

5 ハイブリッド スリープの有効にしたい状態をクリックする

それぞれの項目は、次のようになります。

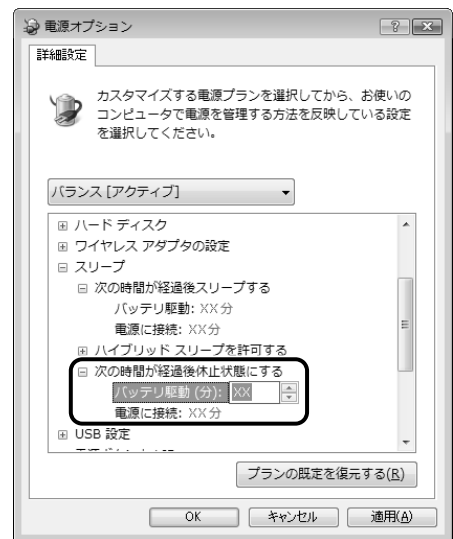
［バッテリ駆動］：バッテリ駆動時にハイブリッド スリープ機能を有効にしたい場合
［電源に接続］　：電源に接続してるときにハイブリッド スリープ機能を有効にしたい場合

6 項目の横に表示された ▾ をクリックし①、表示されたメニューから［オン］をクリックする②

7 ［OK］ボタンをクリックする

これでハイブリッド スリープを有効にする設定は完了です。
この状態でスリープを実行すると、ハイブリッド スリープとして機能します。

役立つ操作集

一定時間の経過後、休止状態にする

スリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するよう設定できます。
［詳細設定］画面で［次の時間が経過後休止状態にする］をダブルクリックし、表示された項目を選択して ▲ ▼ で時間を設定してください。
スリープを実行してから設定した時間が経過すると、自動的に休止状態に移行します。

参照 休止状態
《パソコンで見るマニュアル（検索）：休止状態》

2 電源を切る

数日以上パソコンを使わないときは、スリープではなく電源を切ってください。
間違った操作を行うと、故障したり大切なデータを失うおそれがあります。

お願い 電源を切る前に

- 必要なデータは必ず保存してください。保存されていないデータは消失します。
- 起動中のアプリケーションは終了してください。
- Disk LED、ブリッジメディアLED、ディスクトレイLEDが点灯中は、電源を切らないでください。データが消失するおそれがあります。

電源を切るには、次のように操作してください。

1 ［スタート］ボタンをクリックする

2 ボタンをクリックし①、表示されたメニューから［シャットダウン］をクリックする②

Windowsを終了したあと、パソコンの電源が自動的に切れます。
パソコン本体の電源が切れると、Power LEDが消灯します。

お願い 電源を切ったあとは

- パソコン本体に接続している機器（周辺機器）の電源は、パソコン本体の電源を切ったあとに切ってください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。強く閉じると衝撃でパソコン本体が故障する場合があります。
- パソコン本体や周辺機器の電源は、切ったあとすぐに入れないでください。故障の原因となります。

■再起動

Windowsを終了したあと、すぐにもう1度起動することを「再起動」といいます。パソコンの設定を変えたときやパソコンがスムーズに動かなくなってしまったときなどに行います。
再起動するには、次のように操作してください。

①［スタート］ボタン（ ）をクリックし、表示されたメニューから をクリックする
②表示されたメニューから［再起動］をクリックする

3 電源を入れる

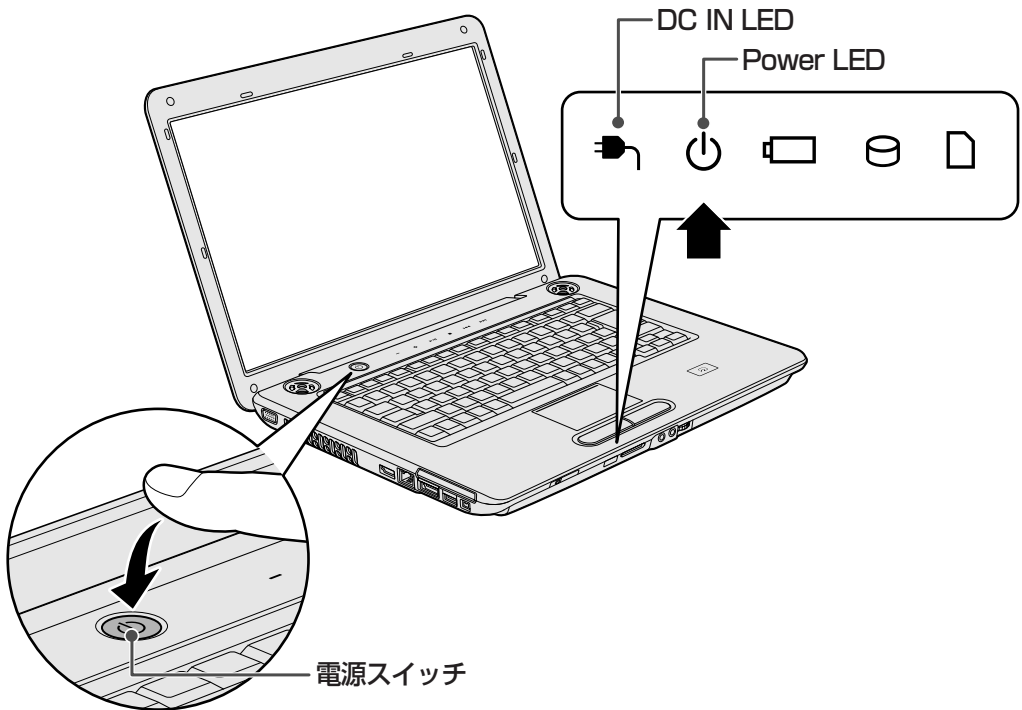
Windowsセットアップを終えたあとは、次の手順で電源を入れます。

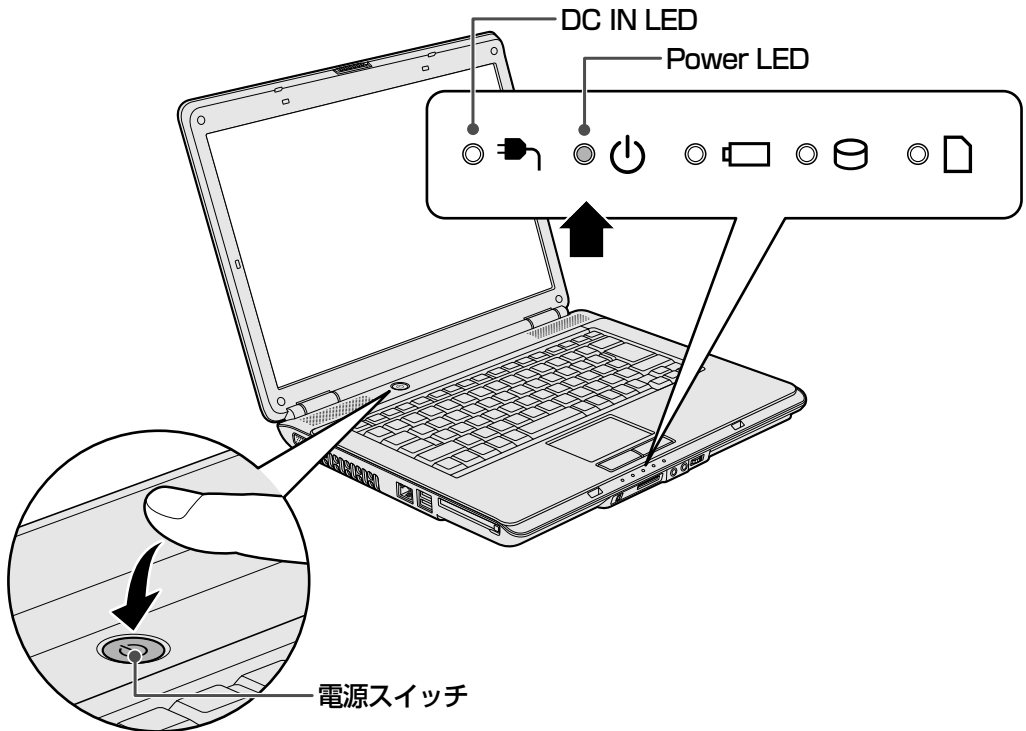
お願い 電源を入れる前に

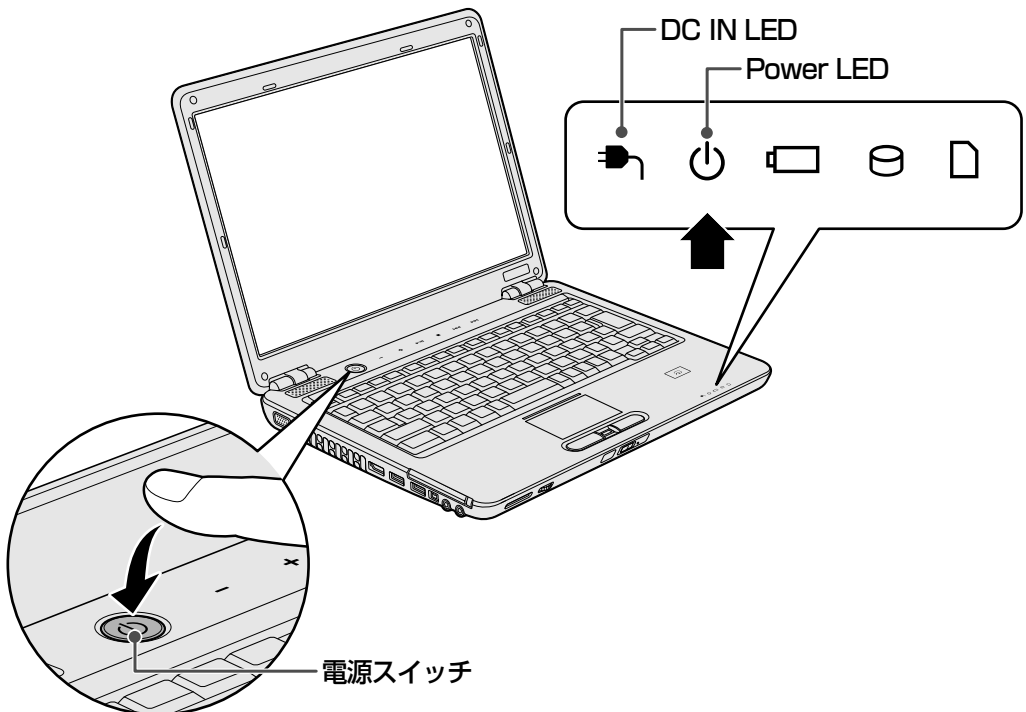
- 各スロットに記録メディアなどをセットしている場合は取り出してください。
- プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、パソコン本体より先に周辺機器の電源を入れてください。

1 電源スイッチを約2秒押し、指をはなす

指をはなすと電源が入ります。
Power ⏻ LEDが点灯するのを確認してください。

■TXシリーズ、TXWシリーズ、AXシリーズの場合

Windowsが起動し、デスクトップ画面が表示されます。

■EXシリーズ、EXWシリーズ、PXシリーズ、PXWシリーズの場合

Windowsが起動し、デスクトップ画面が表示されます。

■CXシリーズ、CXWシリーズの場合

Windowsが起動し、デスクトップ画面が表示されます。

電源に関する表示

電源の状態はシステムインジケータの点灯状態で確認することができます。
電源に関係あるインジケータとそれぞれの意味は次のとおりです。

	状態	パソコン本体の状態
DC IN LED	白または緑の点灯	ACアダプタを接続している
	消灯	ACアダプタを接続していない
Power LED	白または緑の点灯	電源ON
	オレンジの点滅	スリープ中
	消灯	電源OFF、休止状態

＊ 電源に関するトラブルについては、『いろいろな機能を使おう 6章 2 Q&A集』を参照してください。

マニュアルで見るパソコンの使いかた

Windowsのセットアップが終わったら、いろいろな機能を楽しみましょう。
本製品には、本書をはじめとした冊子のマニュアルと、パソコンの画面で見る電子マニュアルがあります。知りたいことに合わせて、各マニュアルをお読みください。

1 本製品に付属しているシート・冊子マニュアル

ここでは、本製品に付属している次のマニュアルについて説明します。

パソコンの操作方法が簡単に分かるシート

「アシストシート」

ローマ字での入力のしかたや、入力に使うキーの位置など、文字入力のちょっとしたわからないことを説明しています。

「困ったときに見るシート」

パソコンを使っていて、困ってしまったときの解決方法を紹介しています。

役立つ冊子マニュアル

「準備しよう」（本書）

「いろいろな機能を使おう」

本製品にはどんな機能があるのか、どんな周辺機器が使えるのか、接続のしかたや機器を使うときに気をつけていただきたいことについて説明しています。
また、パソコンの動作がおかしいと思ったときの解決策も説明しています。

「映像と音楽を楽しもう」

DVDをパソコンで見たり、映像をDVDに記録する方法、自分の好きな曲を集めたCDを作る方法など、オーディオ・ビジュアル機能の楽しみかたを説明しています。

「東芝PCサポートのご案内」

修理や訪問サポートの窓口など、サポート体制について紹介しています。

※冊子マニュアル「いろいろな機能を使おう」や、電子マニュアル「パソコンで見るマニュアル」の「困ったときは」に、トラブルが起きたときの基本的なQ&A集があるので参考にしてください。

2 パソコンで見るマニュアル

ここでは、パソコンの画面で見るマニュアルについて紹介します。

パソコンって何？

「はじめてガイド」

初めてパソコンを使うかたへ、パソコンを使うときの基本的なことがらについて説明しています。
デスクトップって何？ 画面に表示されている矢印は何？
コンピュータウイルスってなんのこと？
パソコンを使うときに知っておきたい基本を、ぱらちゃんが紹介します。

■起動方法

デスクトップ上の［おたすけナビ］をダブルクリック→［パソコンで見るマニュアル］タブをクリック→［はじめてガイド］をクリックします。

パソコンの基本操作や活用法、困ったときの対処法を知りたい

「パソコンで見るマニュアル」

パソコンの基本的な操作や、活用法、困ったときの対処法など紹介しています。知りたいことが載っているページを、キーワード検索で探すことができます。

■パソコンの基本操作

マウスの使いかたや文字入力、インターネット接続やメールの使いかたなど、パソコンの基本操作を説明しています。

■パソコンを使いこなす

パソコンで映像や音楽を楽しむ方法を紹介しています。
また、パソコンの設定を自分に合わせて変更する方法を説明しています。

■困ったときは

パソコンを使うときに役に立つ便利な使いかたや、困ったときの対処法をQ&A形式で紹介しています。わかりやすくパソコンの用語を解説した「用語集」もあります。
また、アプリケーションのお問い合わせ先を案内しています。

■起動方法

デスクトップ上の［おたすけナビ］をダブルクリック→［パソコンで見るマニュアル］タブをクリック→［パソコンで見るマニュアルTOP］をクリックします。

どのアプリケーションを使えばよいか知りたい

「おたすけナビ」

「おたすけナビ」には、お使いのパソコンに搭載されているアプリケーションの中から、目的のアプリケーションをすばやく探し出し、直接起動することができます。やりたいことはわかっているけれど、どのアプリケーションを使えばよいかわからないときに便利な機能です。

（表示例）

■起動方法

デスクトップ上の［おたすけナビ］をダブルクリックします。

［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［おたすけナビ］をクリックして起動することもできます。

Windows Vistaの使いかたを知りたい

「動画で学ぶ Windows Vista」

Windows Vistaの基本的な使いかたを、ぱらちゃんが動画で紹介します。

（表示例）

■起動方法

デスクトップ上の［おたすけナビ］をダブルクリック→［学習］タブをクリック→［動画で学ぶ Windows Vista］をクリックします。

［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［動画で学ぶ Windows Vista］をクリックして起動することもできます。

文書／メール／表やグラフを作りたい

「動画で学ぶ Office Personal 2007」

文書作成ソフト「Office Word 2007」、表計算ソフト「Office Excel 2007」、メールソフト「Office Outlook 2007」を、ぱらちゃんが動画で紹介します。

（表示例）

■起動方法

デスクトップ上の［おたすけナビ］をダブルクリック→［学習］タブをクリック→［動画で学ぶ Office Personal］をクリックします。

［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［動画で学ぶ Office Personal 2007］をクリックして起動することもできます。

プレゼンテーションのための資料を作りたい

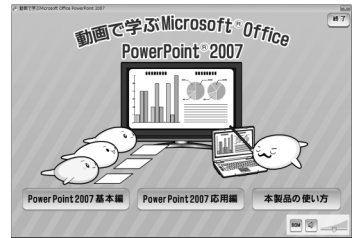
「動画で学ぶ Microsoft Office PowerPoint 2007」

プレゼンテーション作成ソフト「Microsoft Office PowerPoint 2007」を、ぱらちゃんが動画で紹介します。

（表示例）

■起動方法

デスクトップ上の（おたすけナビ）をダブルクリック→［学習］タブをクリック→（動画で学ぶ Office PowerPoint）をクリックします。

［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［動画で学ぶ Microsoft Office PowerPoint 2007］をクリックして起動することもできます。

YouTubeを使いこなしたい

「動画で学ぶ YouTube」

動画配信サイト「YouTube」を楽しく使う方法を、ぱらちゃんが動画で紹介します。

（表示例）

■起動方法

デスクトップ上の（おたすけナビ）をダブルクリック→［学習］タブをクリック→（動画で学ぶ YouTube）をクリックします。

［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［動画で学ぶ YouTube］をクリックして起動することもできます。

お願い

- インターネット上には、「YouTube」などのWebサイトに見せかけてアカウント情報を盗み出したり、ウイルスに感染させたりする悪質な偽Webサイトが存在します。動画の再生ボタンに見せかけたボタンなどをクリックするとウイルスに感染してしまったり、動画を再生するのに必要なソフトウェアだと偽って、ウイルスをインストールさせようとしたりといった例があります。
  インターネットをご利用の際は、
  ・表示しているサイトのURLをよく確認する
  ・よく表示するサイトは「お気に入り」にURLを登録する
  ・迷惑メールや身に覚えのないメールに記載されたURLやリンクはクリックしない
  ・少しでもおかしいと感じたらIDやパスワードを入力しない
  ・ウイルス対策ソフトウェアを常に有効にする
  など、十分注意するようにしてください。

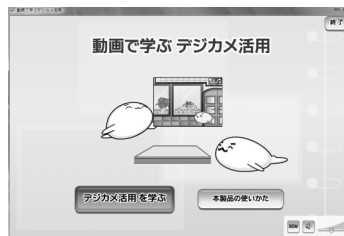
デジタルカメラで撮ったデータを活用したい

「動画で学ぶ デジカメ活用」

デジタルカメラで撮った写真データを活用する方法を、ぱらちゃんが動画で紹介します。

■起動方法

デスクトップ上の［おたすけナビ］をダブルクリック→［学習］タブをクリック→［動画で学ぶ デジカメ活用］をクリックします。

［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［動画で学ぶ デジカメ活用］をクリックして起動することもできます。

（表示例）

2章

買い替えのお客様へ

前のパソコンで使っていたデータを移行する便利なソフト「PC引越ナビ」について説明します。

1　前のパソコンのデータを移行する
－PC引越ナビ－ 52

1 前のパソコンのデータを移行する －PC引越ナビ－

パソコンを買い替えたときは、それまでに使用していたパソコンと同じ環境にするために、設定やデータの移行といった準備が必要です。
「PC引越ナビ」は、データや設定を1つにまとめ、新しいパソコンへの移行の手間を簡略化することができるアプリケーションです。事前に次の点を確認しておくと、よりスムーズに操作ができます。

ここでは、移行したい設定やデータが保存されているパソコンを「前のパソコン」、設定やデータを移行したいパソコンを「本製品」として説明します。

パソコンの仕様を確認する

■前のパソコンの動作環境を確認する

「PC引越ナビ」は、次のシステムに対応しています。

● **システム**＊1
Windows 98 SE／Windows Me／Windows 2000／Windows XP Home／Windows XP Professional／Windows Vista

＊1 マイクロソフト社が提供している最新のService Packを適用してください。また、「Internet Explorer」のバージョンが「6 SP1」以上であることを確認してください。それ以外のバージョンの場合は、「6 SP1」を適用してください。
システムの正式名称は次のとおりです。
Windows 98 SE…Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版
Windows Me…Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Windows 2000…Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
Windows XP Home…Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版
Windows XP Professinal…Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版

お願い 前のパソコンの動作環境について

● あらかじめ、「付録 1 - 2 「PC引越ナビ」について」を確認してください。

■使用できる記録メディアや環境を確認する

設定・データの移行をするには、次の方法があります。

● 記録メディアを使用する
● ネットワーク（LAN）を使用する
● クロスケーブル（LAN）を使用する

前のパソコンと、本製品の仕様を確認し、共通して使用できる方法のなかから、移行する設定・データの容量に適した方法を選んでください。

「PC引越ナビ」で使用できる記録メディアは次のとおりです。

● CD-R　● CD-RW　● DVD-R　● DVD-RW　● DVD+R
● DVD+RW　● DVD-RAM　● USBフラッシュメモリ

本製品で使用できる記録メディアについては、『いろいろな機能を使おう』で確認してください。前のパソコンでどの記録メディアが使用できるかを確認し、移行に使用する記録メディアを選択し、必要な場合は購入してください。また、フォーマットが必要な記録メディアは、あらかじめフォーマットしてください。
移行するファイルや設定内容に比べて、記録メディアの容量が小さいと、数回に分けてデータをコピーすることになりますので、大容量の記録メディアを移行用に使用することをおすすめします。

移行できる設定とデータ

「PC引越ナビ」で移行できる設定とデータは、次のものです。

- **Internet Explorerの設定**
  - ・［お気に入り］フォルダの設定
  - ・cookie
  - ・RSSフィード（Internet Explorer 7とInternet Explorer 7間の移行のみ）
  - ・ホームページ（スタートページ）の設定
  - ・ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定
- **Windows メールの設定**
  初期状態で登録されているメインユーザの次のデータを移行できます。
  - ・アドレス帳の内容
  - ・メールデータ
  - ・アカウント情報（メールアカウント、ニュースアカウント、ディレクトリサービスアカウント）
- **Microsoft Outlookの設定**
  ＊「Microsoft Outlook」はOffice搭載モデルにのみ付属およびインストールされています。Officeが搭載されていないモデルの場合、以前にご使用されていたパソコンに保存されている「Microsoft Outlook」のデータを本製品に移行したいときは、「PC引越ナビ」をご使用の前に市販の「Microsoft Outlook」を本製品にインストールする必要があります。
  - ・個人用フォルダに含まれるデータ
  - ・電子メールアカウント設定（Exchange Server、POP3、IMAP、HTTP）
  - ・その他の設定（個人アドレス帳、仕訳ルール（Outlook 2007では仕分けルール）、署名）
- **［ドキュメント］（Windows Vista以外では［マイドキュメント］）フォルダに保存されているファイル**
  「PC引越ナビ」を起動したときのユーザ名の［ドキュメント（マイドキュメント）］を移行できます。
- **デスクトップ上のファイル**
  「PC引越ナビ」を起動したときのユーザ名のデスクトップ上のファイルを移行できます。
- **任意のフォルダに含まれるファイル**
  移行したいファイルを指定することができます。指定はフォルダ単位で行います。

メモ

- 移行できる設定やデータについて、詳しくは、「PC引越ナビ」の［詳細説明 引っ越し可能なデータ］画面で確認してください。
  ［PC引越ナビ　機能選択］画面で［PC引越ナビを初めて使う方は、こちらを選択してください。］をクリックすると、2ページ目に表示されます。
  知りたい項目のアイコンをクリックしてください。

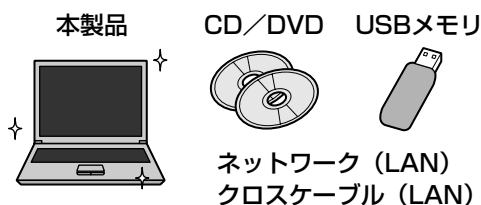
お願い 操作にあたって

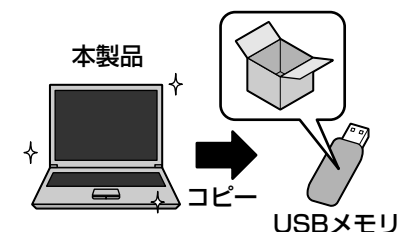
- あらかじめ、「付録 1-2 「PC引越ナビ」について」を確認してください。

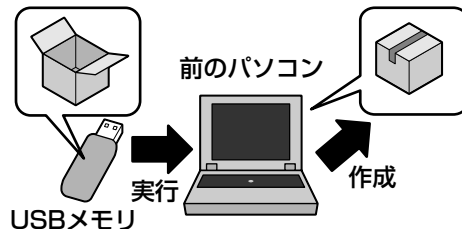
1 操作の流れ

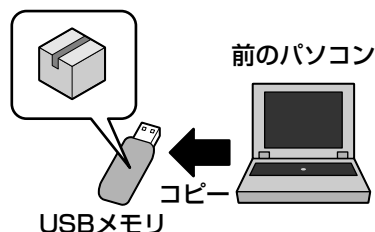
設定とデータの移行は、画面の指示に従って行います。移行する設定・データや使用する移行方法などで詳細の操作は異なりますが、大まかな流れは次のとおりです。
本製品と、前のパソコンとで交互に作業を行いますので、近くに設置して行うとよいでしょう。

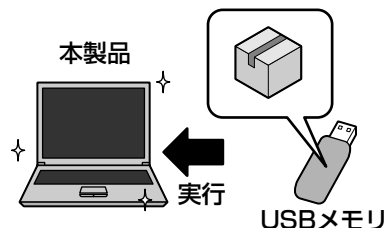
移行方法を決める

いくつかある移行方法のなかから、前のパソコンと本製品の仕様や、移行するデータの容量を元に移行方法を選択します。

「こん包プログラム」をコピーする

「こん包プログラム」は複数のファイルを1つにまとめるプログラムです。
移行方法をネットワークにした場合は、本製品の共有フォルダにコピーしてください。
移行方法を記録メディアにした場合は、記録メディアにコピーしてください。

「こん包プログラム」を実行する

コピーした「こん包プログラム」を実行し、移行する複数のデータを1つのファイル（「こん包ファイル」）にまとめます。

「こん包ファイル」をコピーする

作成した「こん包ファイル」をコピーします。移行方法をネットワークにした場合は、共有フォルダにコピーしてください。移行方法を記録メディアにした場合は、記録メディアにコピーしてください。移行するデータの容量によっては、「こん包ファイル」は複数作成されます。すべての「こん包ファイル」をコピーしてください。

「こん包ファイル」を開こんする

コピーした「こん包ファイル」を本製品で開き、コピーします。

2 起動方法

1 デスクトップ上の［PC引越ナビ］（ ）をダブルクリックする

「PC引越ナビ」が起動します。
［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［PC引越ナビ］をクリックして起動することもできます。

2 画面下の ? をクリックし、注意制限事項を確認する

「PC引越ナビ」のヘルプが表示されます。
「PC引越ナビ」の注意制限事項をお読みください。
目次で［注意制限事項］をクリックし、画面右側に表示される各項目をよくお読みください。

3 ［同意する］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

使用許諾契約に同意しないと、「PC引越ナビ」を使用することはできません。

注意事項が表示されます。内容を確認し、［OK］ボタンをクリックしてください。

引き続き、説明画面が表示されますので、内容を確認しながら、操作してください。

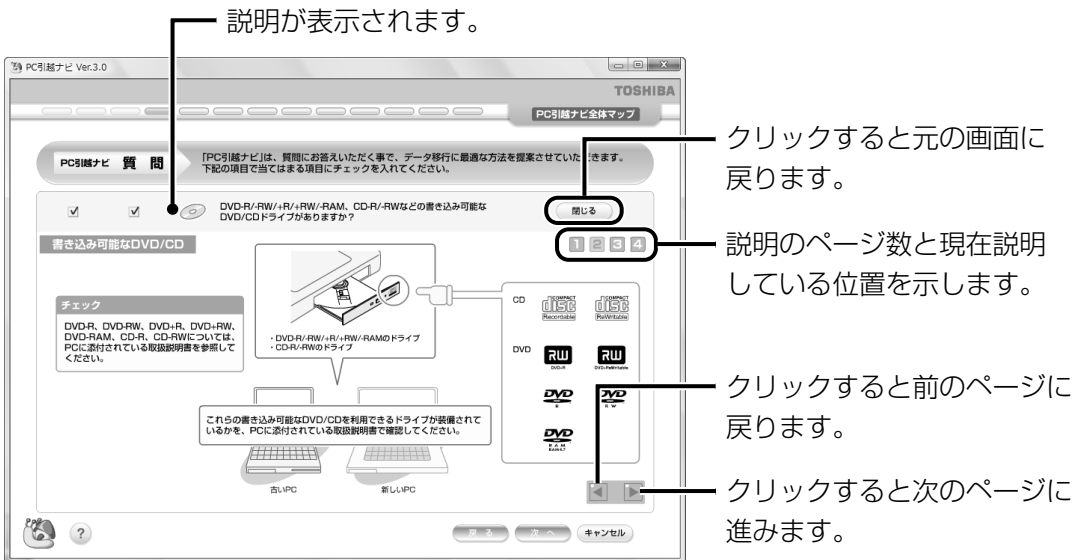
説明画面について

■操作に困ったとき

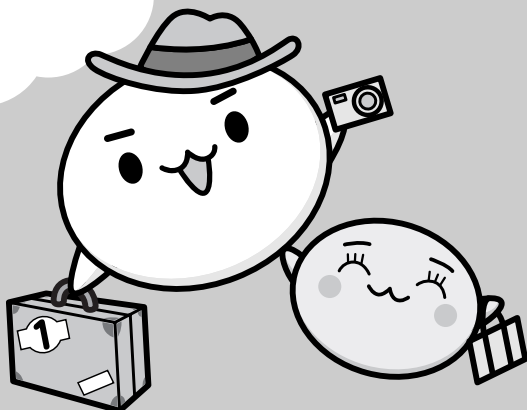
［説明］ボタン、または［詳細説明］ボタンをクリックすると、表示している画面の詳細説明が表示されます。

■説明画面の操作方法

画面の構造は、次のとおりです。

3章

インターネットを快適に利用するために
ーウイルスチェック／セキュリティ対策ー

コンピュータウイルス（パソコンにトラブルを発生させるプログラム）やハッカーやスパイウェアによる個人情報へのアクセスなど、インターネットを使っていると知らない間にトラブルが襲いかかってくるおそれがあります。
この章では、本製品に添付されている、より安全なインターネット使用をサポートするソフトについて説明します。

1　インターネットとメールを使うには 60
2　ウイルス感染や不正アクセスを防ぐには
　　ーウイルス・インターネットセキュリティー 67
3　ウイルスバスターによるウイルス対策 69
4　有害サイトの閲覧（アクセス）を制限する 73

1 インターネットとメールを使うには

ホームページの閲覧やメールのやり取りをするには、ケーブルの接続や設定が必要です。

準備

■ プロバイダに加入する

プロバイダとはインターネット接続の窓口となる会社のことです。会社によって使用料金やサービス内容が異なります。使用できるまでに数日かかる場合があります。

■ ブラウザソフトを用意する

標準装備の「Microsoft Internet Explorer」でホームページの閲覧ができます。

■ ケーブルを用意する

使用するLANケーブルは本製品には付属していません。市販のLANケーブルを購入してください。

■ メールソフトを用意する

標準装備の「Windows メール」でメールのやり取りができます。

インターネットやメールに添付されたファイルでコンピュータウイルスに感染する場合があります。コンピュータウイルスに感染してしまうと、パソコンのデータが破壊され、パソコンが使用できなくなることがありますので、インターネット接続やメールのやり取りをする前に、ウイルスチェックソフトの設定をしてください。

参照 ウイルスチェックソフトについて「本章 2 ウイルス感染や不正アクセスを防ぐには」

メモ

- 本製品に用意されているウイルスチェックソフトの設定をする前に、日付と時刻が合っていることを必ず確認してください。日付と時刻が合っていないと、アプリケーションの設定後から適用される使用期限などが、正しく計測されないことがあります。
  日付と時刻はWindowsセットアップ終了後に設定することもできます。

  参照 日付と時刻の設定『Windowsヘルプとサポート』

使用するまでの流れ

パソコンにケーブルを接続する
インターネットへの接続方法によって接続するケーブルは異なります。
ケーブルのもう一方の接続先は、プロバイダとの契約時に送られてきた説明書などを確認してください。

▼

インターネットとメールの設定をする
インターネット接続の設定をするときは、プロバイダとの契約時に送られてきた説明書などを用意してください。
メールのやり取りをする場合は、メールソフトの設定も必要です。「Windows メール」以外のメールソフトを使用する場合は、メールソフトの説明書やヘルプを確認してください。

▼

設定完了

参照 インターネット接続の設定《パソコンで見るマニュアル（検索）：インターネットについて》
参照 Windows メールの設定《パソコンで見るマニュアル（検索）：メールを使ってみよう》

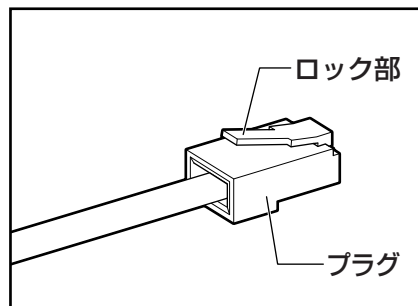
1 ブロードバンドで接続する

本製品には、ブロードバンド接続などに使用するLAN（ラン）機能が内蔵されています。
本製品のLANコネクタにブロードバンドの回線機器やブロードバンドルータなどをLANケーブルで接続することができます。
また、本製品のLAN機能は、Gigabit（ギガビット） Ethernet（イーサネット）（1000BASE-T）＊1、Fast（ファスト） Ethernet（イーサネット）（100BASE-TX）、Ethernet（イーサネット）（10BASE-T）に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。Gigabit Ethernet＊1、Fast Ethernet、Ethernetは、ご使用のネットワーク環境（接続機器、ケーブル、ノイズなど）により、自動で切り替わります。
＊1 Gigabit Ethernet対応モデルのみ

1 LANケーブルを接続する

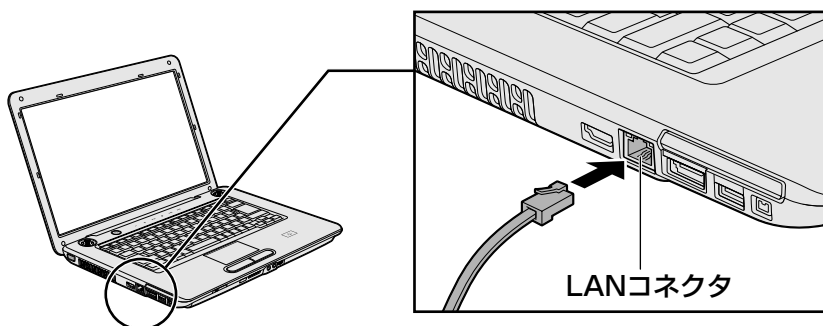
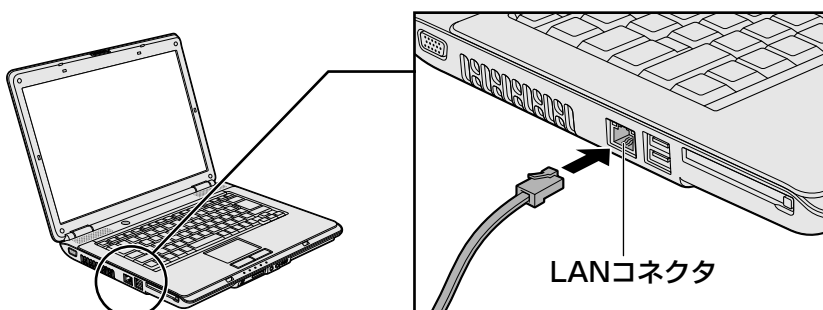
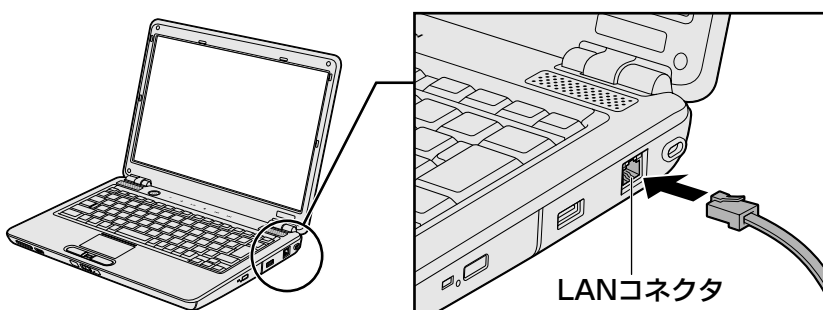
お願い LANケーブルの使用にあたって

- あらかじめ、「付録 1-3 有線LANについて」を確認してください。

LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LANケーブルのプラグをパソコン本体のLANコネクタに差し込む

ロック部を上にして、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

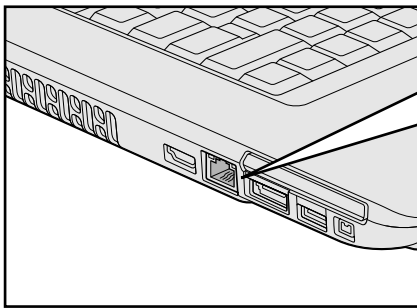
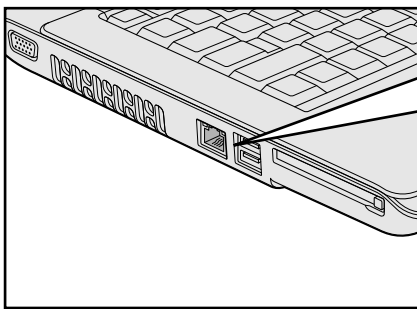
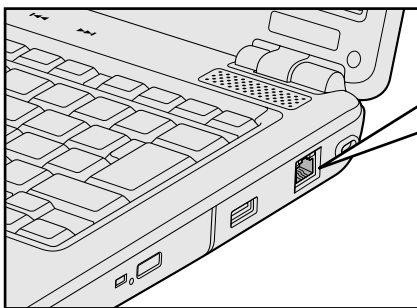
■TXシリーズ、TXWシリーズ、AXシリーズの場合

■EXシリーズ、EXWシリーズ、PXシリーズ、PXWシリーズの場合

■CXシリーズ、CXWシリーズの場合

3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

接続する機器の名称や以降の設定はプロバイダによって異なります。詳しくは契約しているプロバイダにお問い合わせください。

動作状態を確認するには

LANコネクタの両脇には、LANインタフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。

■TXシリーズ、TXWシリーズ、AXシリーズの場合

■EXシリーズ、EXWシリーズ、PXシリーズ、PXWシリーズの場合

■CXシリーズ、CXWシリーズの場合

2 メールの設定をする

メールを使用するには、メールソフトでの設定が必要です。
ここでは、Windows標準のメールソフト「Windows メール」での設定を説明します。プロバイダから送られてきた説明書を手元に置き、操作を進めてください。

メールの送受信を行う前にウイルスチェックソフトをインストールすることをおすすめします。

参照 ウイルスチェックソフトについて「本章 2 ウイルス感染や不正アクセスを防ぐには」

メモ

- 「Windows メール」を初めて起動したときや、インターネット接続の設定が完了していない場合は、設定画面が表示されます。《パソコンで見るマニュアル（検索）：インターネットについて》を確認し、設定を行ってください。

1 Windows メールの設定

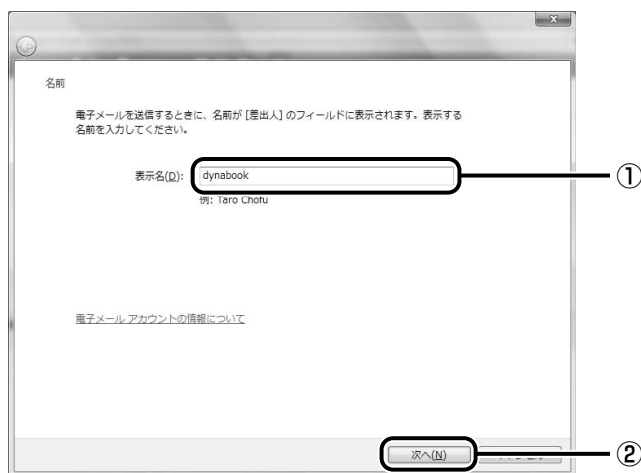
1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［Windows メール］をクリックする

「Windows メール」が起動し、設定画面が表示されます。

■確認画面が表示された場合

- 「通常使用するメールクライアントとして選択しますか？」という画面が表示された場合は、［はい］ボタンをクリックしてください。

2 メールを届けるときの名前を入力し①、［次へ］ボタンをクリックする②

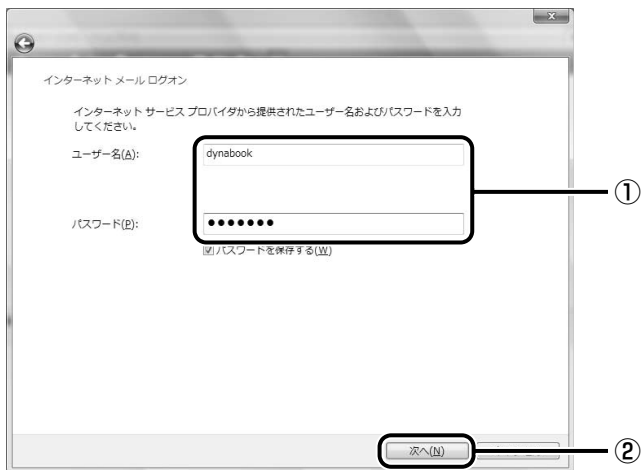
「表示名」は、メールが相手に届いたときに表示される名前です。

3 電子メールアドレスを入力し①、［次へ］ボタンをクリックする②

プロバイダから発行された自分の電子メールアドレスを入力してください。

4 メールサーバ名を入力し①、［次へ］ボタンをクリックする②

メールサーバ名はプロバイダから送られてきた説明書に記載されています。

5 メールのユーザ名とパスワードを入力し①、[次へ] ボタンをクリックする②

ユーザ名は「メールアカウント名」「POPアカウント名」「メールログイン名」「ユーザ名」など、プロバイダによって用語が異なります。プロバイダから送られてきた説明書に記載されています。

6 [完了] ボタンをクリックする

電子メールをあとでダウンロードしたい場合は、[今は電子メールをダウンロードしない] をチェックしてから [完了] ボタンをクリックしてください。

設定が完了しました。

メモ

- 「Windows メール」を使用したメールの送受信について、詳しくは《パソコンで見るマニュアル（検索）：メールの送受信と表示》で紹介しています。

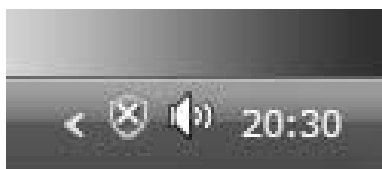
2 ウイルス感染や不正アクセスを防ぐには －ウイルス・インターネットセキュリティ－

本製品に用意されているウイルス・インターネットセキュリティ用のアプリケーションを紹介します。

お願い 使用するにあたって

- あらかじめ、「付録 1-4 ウイルスチェック・セキュリティ対策について」を確認してください。

役立つ操作集

Windows セキュリティセンターについて
「Windows セキュリティセンター」は、セキュリティの設定をしたり、Windows ファイアウォール、自動更新、ウイルスチェックソフトの状態をチェックしたりするなど、パソコンのセキュリティを向上させるお手伝いをします。

セキュリティセンターはパソコンが危険にさらされている場合、通知領域に アイコンなどで警告します。
詳しい操作方法は《パソコンで見るマニュアル（検索）：セキュリティの状態を確認するには》を確認してください。

1 コンピュータウイルス対策

コンピュータウイルスは、インターネットや、メールに添付されたファイルを介してパソコン内部に入り込んでしまうことがあります。
コンピュータウイルスに感染すると、次のようなことがおこる可能性があります。

- パソコンのデータが破壊され、パソコンを使用できなくなる
- インターネットを経由して、パソコンに残している個人情報にアクセスされる

コンピュータウイルスの感染や不正アクセスからパソコンを保護するため、インターネットへの接続やメールの送受信をする前に、ウイルスチェックソフトをインストールして、普段から定期的にコンピュータウイルスの検出を行うようにしてください。

本製品には、次のウイルスチェックソフトが用意されています。

- **ウイルスバスター**
  ウイルスの発見や駆除はもちろん、個人情報保護やネットワークセキュリティ対策ができるアプリケーションです。初心者のかたにも使いやすくなっています。

参照 「本章 3 ウイルスバスターによるウイルス対策」

市販のウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを使用する場合

市販のウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを使用する場合は、本製品に用意されているウイルスチェックソフトをパソコンからアンインストール（削除）してから、市販のウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトをインストールしてください。
アンインストールは、「コントロールパネル」の「プログラムのアンインストール」で行います。

参照 アンインストール方法《パソコンで見るマニュアル（検索）：アプリケーションの削除》

2 インターネットをより安全に楽しむために

インターネットを利用すると、パソコン画面上でいろいろな情報を見ることができ、大変便利です。しかし、インターネットは、いい情報だけを入手できるとは限りません。また、情報を入手するだけでなく、知らない間にこちらのパソコンの情報を引き出されてしまうこともあります。
「よくない情報」の例として代表的なものは、「コンピュータウイルス」があります。こちらはウイルスチェックソフトで予防することができます。特に気をつけたいものは、インターネットを通じて、こちらのパソコンの情報（氏名やパスワード、ホームページの閲覧履歴など）を第三者に流出する「スパイウェア」と、閲覧したユーザに悪影響を与えるおそれのある「有害サイト」です。

ウイルスチェックソフト、スパイウェア対策ソフト、有害サイト閲覧制限ソフトを上手に使って、快適にインターネットを楽しみましょう。

メモ

- 本製品にはユーザの年齢やホームページのカテゴリによって表示するサイトを制限できる「i-フィルター5.0」が用意されています。

参照 「本章 4 有害サイトの閲覧（アクセス）を制限する」

3 ウイルスバスターによるウイルス対策

「ウイルスバスター」は、個人情報保護、コンピュータウイルスの発見、駆除、ネットワークセキュリティ対策ができるアプリケーションです。

1 ウイルスチェックの方法

1 最新の対策法を手に入れる

コンピュータウイルスは、次々と新しいものが出現します。ウイルスチェックは、パターンファイルに基づいて行いますので、最新のコンピュータウイルスに対応したパターンファイルを入手する必要があります。「ウイルスバスター」ではアップデート機能を使ってパターンを更新できます。
「ウイルスバスター」の無料更新サービスを使用するには、インターネットに接続してお申し込みを行っていただく必要があります。
あらかじめインターネットに接続する設定を行ってから操作を始めてください。

参照 インターネットの接続について
《パソコンで見るマニュアル（検索）：インターネットについて》

アップデート機能を有効にする

アップデート機能を利用するには、アップデート機能を有効にしてください。有効にするには、メールアドレスの入力が必要です。

1 通知領域の［ウイルスバスター］アイコン（ ）をダブルクリックする

［ウイルスバスター］アイコンが通知領域に表示されていない場合は、［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［ウイルスバスター2009］→［ウイルスバスター2009を起動］をクリックしてください。
［ウイルスバスター］画面が表示されます。

（表示例）

［現在の状況］タブで、「ウイルスバスター」のセキュリティ状況が確認できます。

アップデート機能を有効にしていない場合は、［ウイルスバスター］画面の［現在の状況］タブで、「アップデート機能を利用できません」と表示されます。［アップデート機能を利用できません］の［有効にする］ボタンをクリックしてください。
アップデート機能を有効にするための画面が表示されます。［ご使用前に必ずお読みください］と［個人情報の取り扱いについて］の内容を確認し、メールアドレスを入力して、［ウイルスバスターを有効にする］ボタンをクリックしてください。
以降は、表示される画面の指示に従って操作してください。

アップデート機能を実行する

1 通知領域の［ウイルスバスター］アイコン（ ）をダブルクリックする

［ウイルスバスター］画面が表示されます。

2 ［現在の状況］タブで［アップデート開始］ボタンをクリックする

（表示例）

2 ウイルスをチェックする

ウイルスチェックは、パソコンで使用しているソフトウェアやファイルの動きを監視するリアルタイム検索や、定期的に検索を実行する予約検索もありますが、ここでは手動での検索を説明します。

1 通知領域の［ウイルスバスター］アイコン（ ）をダブルクリックする

［ウイルスバスター］画面が表示されます。

2 ［現在の状況］タブで［検索開始］ボタンをクリックする

（表示例）

検索を開始します。
ウイルスのチェックが終わると、結果画面が表示されます。
ウイルスが発見された場合、初期設定ではウイルスやファイルの種類によって適切な処理が実行されるように設定されています。特別な理由がない限り設定を変更しないで使用することをおすすめします。
詳しくは、ヘルプを確認してください。

3 ［閉じる］ボタンをクリックする

2 ウイルス対策以外の機能

「ウイルスバスター」には、コンピュータウイルスを検出／除去する総合ウイルス対策機能のほかに次の機能があります。

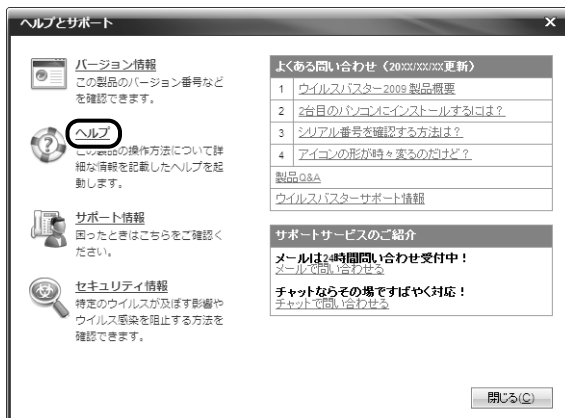
- フィッシング詐欺への対策をする
- スパイウェアを検出して処理する
- 個人情報の漏えいを防止する
- 不正アクセスを防止する（パーソナルファイアウォール）
- 迷惑メールや詐欺メールを判定して処理する
- ネットワークへの不正侵入を監視する
- ネットワーク上の複数台の「ウイルスバスター」を管理する
- 有害サイトへのアクセスを制限する

詳しくは、ヘルプを確認してください。

ヘルプの起動

1 ［ウイルスバスター］画面で［ヘルプとサポート］をクリックする

［ヘルプとサポート］画面が表示されます。

2 表示された画面で［ヘルプ］をクリックする

（表示例）

［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［ウイルスバスター2009］→［ウイルスバスター2009 ヘルプ］を順にクリックしても表示されます。

ウイルスバスターのお問い合わせ先

＊ 2009年2月現在の内容です。

ウイルスバスターサービスセンター

受付時間　：9:30〜17:30
TEL　：0570-008326
　03-5334-1035（IP電話・光電話からのお問い合わせ）
ホームページ：http://tmqa.jp/toshiba/

4 有害サイトの閲覧（アクセス）を制限する

インターネットに接続すると、世界中のいろいろなホームページを見ることができます。パソコン画面上でニュースを読む、買い物をする、調べ物をするなど便利な使いかたもできますが、なかには有害なホームページもあります。
有害なホームページへのアクセスを遮断する「i-フィルター5.0」を使用することをおすすめします。

1 i-フィルター5.0

本製品には、フィルタリング機能をもつアプリケーションとして「i-フィルター5.0」が用意されています。「i-フィルター5.0」は、ユーザの年齢やホームページのカテゴリによってアクセスを制限し、有害なホームページは表示しないように設定することができます。

お願い **使用期限について**

- あらかじめ、「付録 1 - 5 「i-フィルター5.0」について」を確認してください。

「i-フィルター5.0」の使いかたについては、《パソコンで見るマニュアル（検索）：有害サイトの遮断》をご確認ください。

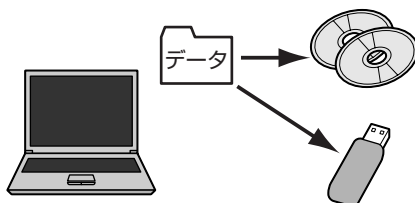
4章

大切なデータを失わないために
－バックアップ－

この章では、バックアップ全般についてとWindows メールのバックアップ方法、CD／DVDにコピーをとる方法を紹介しています。パソコンが故障したり、誤ってファイルなどを削除したときに、バックアップをとっていないと、なくしたデータを復旧することはできません。万一のために必ずバックアップをとりましょう。

1　バックアップをとる......................76
2　データのバックアップをとる..................80
3　リカバリディスクを作る....................95

1 バックアップをとる

保存したファイルやフォルダを誤って削除してしまったり、パソコンのトラブルなどによってファイルが使えなくなってしまうことがあります。
このような場合に備えて、あらかじめファイルをCD-R、CD-RWなど、ハードディスクドライブ以外の記録メディアにコピーしておくことをバックアップといいます。

大切なデータは、こまめにバックアップをとってください。
本製品に添付されている「TOSHIBA（トウシバ） Disc（ディスク） Creator（クリエイタ）」を使って、DVD-RW、DVD-R、DVD-R DL（Dual Layer DVD-R）、DVD+RW、DVD+R、DVD+R DL（DVD+R Double Layer）、CD-RW、CD-R にバックアップをとることができます。

お願い バックアップをとるにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 6 バックアップについて」を確認してください。

役立つ操作集

Windowsのバックアップ機能
Windows Vistaのバックアップ機能を使ってバックアップをとることもできます。
［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックして、表示された画面で［ バックアップの作成］をクリックしてください。

参照 詳細について『Windowsヘルプとサポート』

バックアップが必要なデータ

バックアップをとることを推奨するデータには、次のようなものがあります。

- リカバリ（再セットアップ）ツール
- 自分で作成したデータ（文書、画像、映像、音楽など）
- 送受信したメール
- メールのアドレス帳
- インターネットの［お気に入り］

メール、アドレス帳、［お気に入り］のバックアップ方法については、《パソコンで見るマニュアル》の［便利な使いかた］で説明しています。

■MS-IMEで登録した単語について

日本語入力システムMS-IMEの「単語の登録」で登録したユーザー辞書データをバックアップすることができます。
詳しくは「MS-IME」のヘルプを確認してください。

- **ヘルプの起動方法**

①IMEツールバーの［ヘルプ］ボタン（ ）をクリックし、表示されたメニューから［Microsoft® Office IME 2007］または［Microsoft(R) IME］→［目次とキーワード］をクリックする

■インターネット接続の設定情報について

インターネット接続の設定情報は、データのバックアップがとれません。
設定情報はプロバイダから送られてきた書類に記載されています。書類を大切に保管し、設定に必要な情報を忘れないようにしてください。
書類が手元にない場合は、次のインターネットの設定を控えてください。

- ユーザID
- パスワード
- 電子メールアドレス
- メールパスワード
- プライマリDNS サーバ
- セカンダリDNS サーバ
- インターネットメールサーバ
- ニュースサーバ
- アクセスポイントの電話番号

1 ファイルやフォルダのバックアップをとる

ファイルやフォルダのバックアップをとる前に保存場所を確認してください。

ファイルやフォルダの保存場所

ファイルやフォルダは次の場所に保存されています。
これらのファイルやフォルダは、そのままバックアップ用の記録メディアにコピーすることができます。記録メディアにバックアップのデータを書き込む場合は、「本章 2 データのバックアップをとる」を確認してください。

自分で作成したファイルやフォルダ	保存時に指定した場所に保存されます。わかりやすい場所に保存してください。保存先を忘れた場合は、[スタート] ボタン（ ）をクリックし、[検索の開始] で探すことができます。
[ドキュメント]	[コンピュータ] -ハードディスクドライブ（C:）-[ユーザー] 内の各ユーザ名のフォルダに保存されています。
[お気に入り]	
[デスクトップ]	

参照 ファイルの検索《パソコンで見るマニュアル（検索）：ファイル／フォルダの検索》

複数のユーザで使っている場合は、それぞれのユーザ名でログオンし、データのバックアップをとってください。
記録メディアに保存したデータのバックアップをとる場合は、いったんハードディスクドライブに保存してから、バックアップ用の記録メディアにコピーすることをおすすめします。

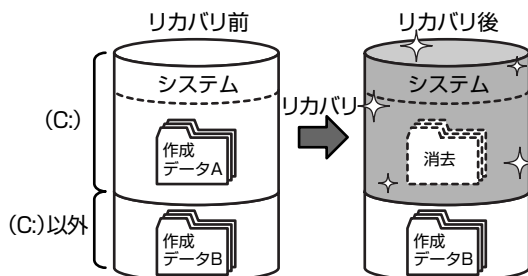
■バックアップのデータを利用する

バックアップをとった［ドキュメント］、［お気に入り］、［デスクトップ］を利用する方法を説明します。
①［スタート］ボタン（ ）→［コンピュータ］をクリックする
②ハードディスクドライブ（C:）をダブルクリックする
③［ユーザー］フォルダをダブルクリックする
④バックアップしたデータを利用するユーザのフォルダをダブルクリックする
⑤バックアップをとった記録メディアをセットする
⑥手順⑤でセットした記録メディア内に保存されている［ドキュメント］、［お気に入り］、［デスクトップ］フォルダを、ユーザのフォルダ内にコピーする
メッセージが表示されたら、確認してボタンをクリックしてください。
それぞれのフォルダが上書きされます。

おすすめするバックアップ方法

次の2ステップでバックアップをとることをおすすめします。

■データはシステムとは別のハードディスクドライブに保存する

ハードディスクドライブは1台内蔵され、ハードディスクドライブ（C:）とハードディスクドライブ（D:）に分かれています。
システムはハードディスクドライブ（C:）にセットアップされています。
システムに不具合が起きたとき、「リカバリ」という作業を行うと、ハードディスクドライブ（C:）のシステムが復元されます。ただし、ハードディスクドライブ（C:）に保存されていたデータも同時に消去されるため、作成したファイルやフォルダは、ハードディスクドライブ（C:）以外に保存することをおすすめします。
本製品に用意されているリカバリツールの［パーティションサイズを変更せずに復元］を選択してリカバリを行うと、ハードディスクドライブ（C:）以外に保存されているデータは、リカバリを行っても保持されます。

参照 リカバリ「5章 買ったときの状態に戻すには」

メモ

- データの保存先は［名前を付けて保存］画面の左側で指定します。

画面の下半分が表示されていない場合は、［フォルダの参照］をクリックしてください。

■定期的にバックアップをとる

ハードディスクドライブ（C:）以外のハードディスクドライブに保存されているデータも、ハードディスクドライブの故障などの原因で、使えなくなってしまうことがあります。
ハードディスクドライブ（C:）以外のハードディスクドライブに保存されているデータも、定期的に記録メディアにバックアップをとってください。

2 データのバックアップをとる

1 バックアップ用に使用できる記録メディア

バックアップ用に使用できる記録メディアは次のようなものがあります。

- 記録用のCD／DVDメディア
- SDメモリカードなどの記録メディア

お使いのモデルによって、使用できる記録メディアが異なります。
また、ファイルやフォルダの容量によって、使用する記録メディアを選び、あらかじめ用意してください。

参照 使用できる記録メディア『いろいろな機能を使おう 1章 パソコンの基本操作を覚えよう』

2 データをコピーしてバックアップをとる

SDメモリカード、メモリースティック、USBフラッシュメモリ、DVD-RAMなどはフォルダやファイルをコピーすることができます。

1 記録メディアをセットする

参照 記録メディアのセット
『いろいろな機能を使おう 1章 パソコンの基本操作を覚えよう』

2 データが保存してあるフォルダを右クリックし、表示されたメニューから［送る］→手順 1 の記録メディアをクリックする

（表示例）

3 CD／DVDにデータのバックアップをとる

CD-R、CD-RW、DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RWにデータをコピーするには、本製品に添付されている「TOSHIBA Disc Creator（トウシバ ディスク クリエイタ）」を使います。
データをコピーする（書き込む）際に気をつけていただきたいことがあります。また、それぞれ対応している記録メディアが異なります。以降の説明をよくお読みになってから書き込んでください。
Windows Vistaに用意されているCD／DVDへの書き込み機能については、《パソコンで見るマニュアル（検索）：CD／DVDに書き込むには》を参照してください。

メモ

- DVD-RAMにデータを書き込む場合は、バックアップしたいファイルやフォルダを［DVD-RAMドライブ］にコピーしてください。
- CD-R、CD-RWなどにバックアップをとった場合、そのデータは書き込み不可になっている場合があります。この場合、バックアップをとったデータを使うときには、1度ハードディスクドライブなどにコピーしてからそのデータを右クリック→［プロパティ］で、［読み取り専用］のチェックをはずしてください。

お願い CD／DVDに書き込む前に、書き込みを行うにあたって

- あらかじめ、「付録 1-7 CD／DVDにデータのバックアップをとる」を確認してください。

1 TOSHIBA Disc Creator

使用できる記録メディアは次のとおりです。
記録メディアについての詳細は、『いろいろな機能を使おう 1章 4-1 使える記録メディアを確認しよう』を参照してください。

○：使用できる　×：使用できない

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
○	○	○＊1・2	○＊1	○＊1・3	○＊1	×

＊1 DVD-Video、DVD-VR、DVD-Audioの作成はできません。また、DVDプレーヤなどで使用することはできません。
＊2 DVD-R DLを含みます。なお、DVD-R DLには追記ができません。
＊3 DVD+R DLを含みます。

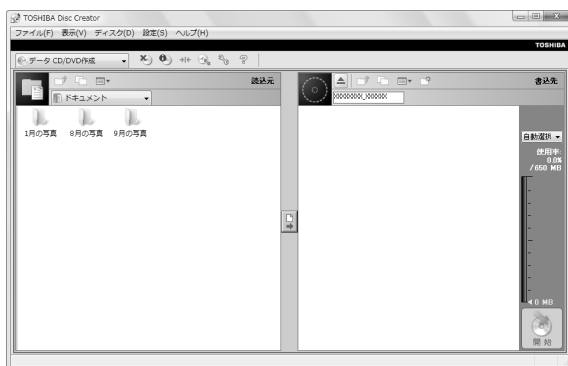
使用方法

あらかじめ書き込みを始める前にCD／DVDをドライブにセットしてください。

1 [スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [CD&DVD アプリケーション] → [Disc Creator] をクリックする

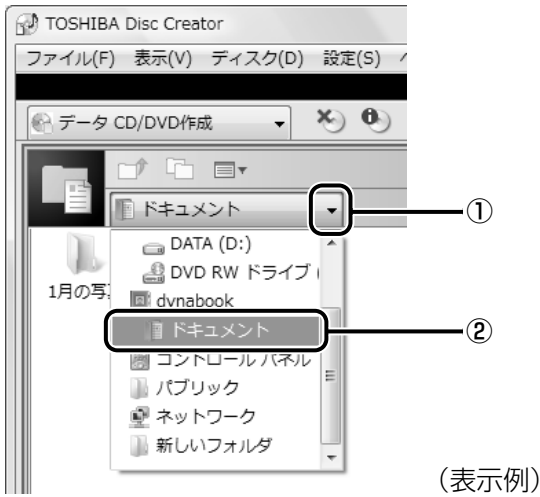
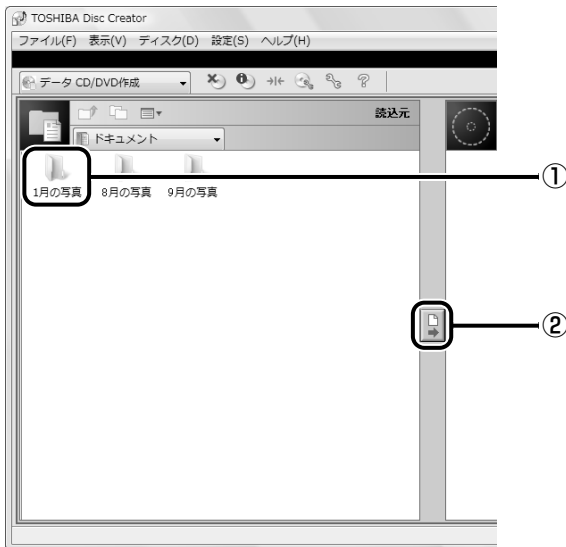
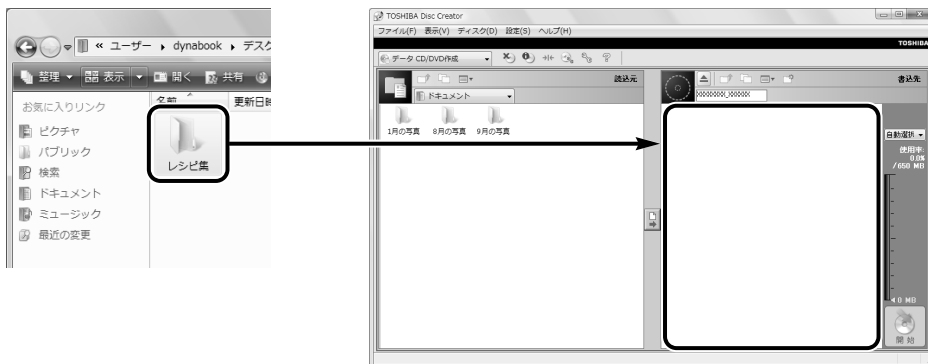
「TOSHIBA Disc Creator」の［Startup Menu］画面が表示されます。

2 [データCD/DVD作成] をクリックする

メインウインドウが表示されます。

3 「書込先」にファイルを追加する

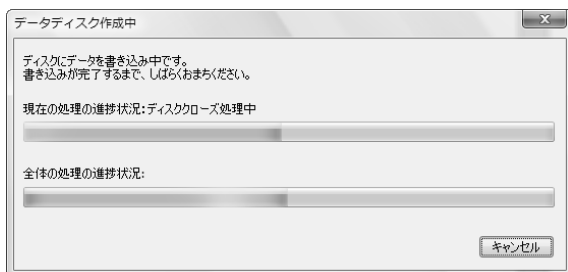
●方法1 「読込元」でファイルを選択する

1. ▼ボタンをクリックし①、記録するファイルやフォルダの保存先を選択する②

（表示例）

2. 記録するファイルやフォルダをクリックし①、[書き込み先にデータを追加する]ボタン（ ）をクリックする②

●方法2　記録するファイルやフォルダを「書込先」にドラッグアンドドロップする

4 「書込先」の［開始］ボタン（ ）をクリックする

メッセージが表示されます。

5 ［はい］ボタンをクリックする

書き込みが開始されます。
CD／DVDをセットしていない場合は、メッセージ画面が表示されます。CD／DVDをセットして、［OK］ボタンをクリックしてください。
データの書き込みが開始され、進捗を示す画面が表示されます。

書き込みが終了すると、購入時の設定では元のデータと書き込んだCD／DVDのデータを比較します。

比較して問題ないことが確認されると、完了のメッセージが表示され、自動的にディスクトレイが開きます。

もう1枚、同じCD／DVDを作成する場合は、［はい］をクリックしてください。
［追記ディスクへの書き込みが正常に終了しました。］というメッセージが表示された場合は、［OK］ボタンをクリックしてください。

ヘルプの起動方法

■方法1

① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［CD&DVDアプリケーション］→［Disc Creatorヘルプ］をクリックする

■方法2

① メインウインドウの［ヘルプ］→［ヘルプ］をクリックする

「TOSHIBA Disc Creator」のヘルプが表示されます。

参照 「TOSHIBA Disc Creator」のお問い合わせ先
『いろいろな機能を使おう 7章 1 お問い合わせ先』

4 Windowsが起動しない状態で、データのバックアップをとる

「東芝ファイルレスキュー」を使うと、Windowsが起動しなくても、データのバックアップ＝救助（レスキュー）することができます。
Windowsが起動せず、リカバリをしなくてはならない場合などは、「東芝ファイルレスキュー」を使って、あらかじめデータを救助しておいてください。

お願い データを救助するにあたって

- パソコンを人に譲るときなどに、ハードディスクドライブの内容をすべて消去するのと同時に「システム回復オプション」を消去すると、「東芝ファイルレスキュー」は使用できなくなります。再度使用したい場合は、リカバリを行ってください。
- その他の注意事項については、あらかじめ、「付録 1-8 「東芝ファイルレスキュー」について」を確認してください。

データの救助用に使用できる記録メディア

「東芝ファイルレスキュー」では、記録メディアにデータの救助を行います。使用できる記録メディアは、次のとおりです。

- USB接続型などの外付けハードディスクドライブ
- USBフラッシュメモリ
- CD／DVD（本製品のドライブを使用）

1 データを救助する

1 **救助するデータの保存先となる記録メディアをパソコンに接続する**

2 **「詳細ブート オプション」を起動する**

モデルよって起動方法が異なります。次のように起動してください。

● **TXシリーズ、TXWシリーズ、AXシリーズ、CXシリーズ、CXWシリーズの場合**

①電源を入れる
②［dynabook］画面が表示されて消えたらすぐに、F8キーを数回押す

● **EXシリーズ、EXWシリーズ、PXシリーズ、PXWシリーズの場合**

①電源を入れる
②［dynabook］画面が表示されたらF8キーを押し、［dynabook］画面が消えたら手をはなす

メモ

EXシリーズ、EXWシリーズ、PXシリーズ、PXWシリーズでパスワードなどを設定している場合は、手順②の後で、パスワードを入力する画面が表示されますので、パスワードを入力後、すぐにF8キーを押してください。

「詳細ブート オプション」が表示されます。

3 [コンピュータの修復]を選択し、ENTERキーを押す

キーボードの選択画面が表示されます。

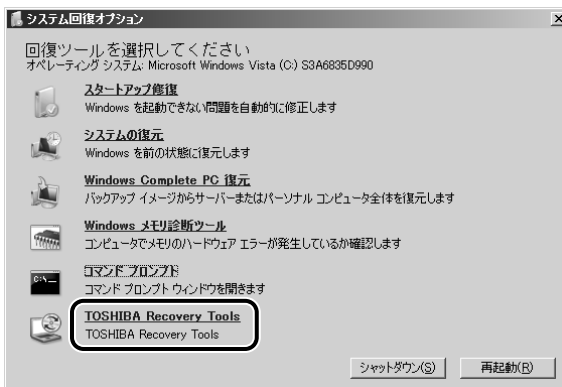
4 [日本語]を選択し①、[次へ]ボタンをクリックする②

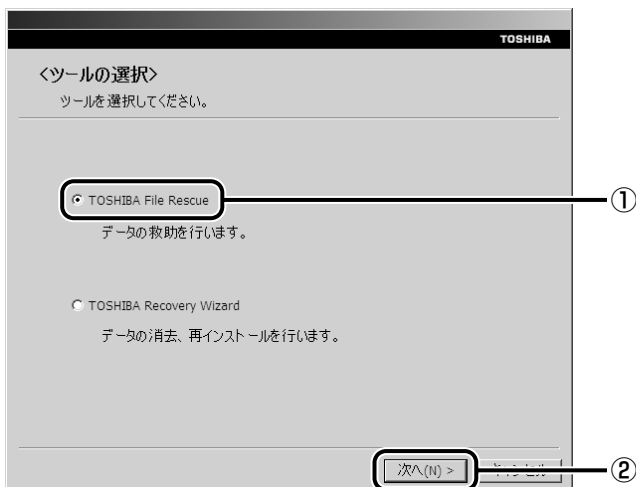
ログオン画面が表示されます。

5 ユーザ名を選択し①、Windowsログオンパスワードを入力し②、[OK]ボタンをクリックする③

管理者ユーザのアカウントでログオンすることをおすすめします。

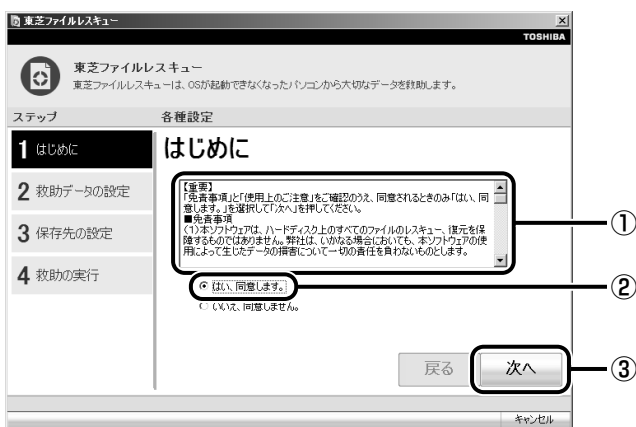
回復ツールの選択画面が表示されます。

6 [TOSHIBA Recovery Tools]をクリックする

ツールの選択画面が表示されます。

7 ［TOSHIBA File Rescue］を選択し①、［次へ］ボタンをクリックする②

「東芝ファイルレスキュー」が起動します。

8 「免責事項」と「使用上のご注意」を確認し①、同意される場合は、［はい、同意します。］を選択し②、［次へ］ボタンをクリックする③

同意しないと、操作を先に進めることはできません。

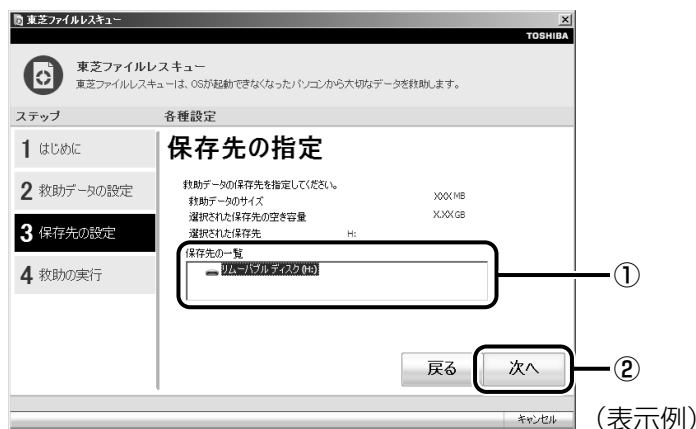
東芝ファイルレスキュー
TOSHIBA
東芝ファイルレスキュー
東芝ファイルレスキューは、OSが起動できなくなったパソコンから大切なデータを救助します。
ステップ
各種設定
1 はじめに
2 救助データの設定
3 保存先の設定
4 救助の実行
はじめに
【重要】
「免責事項」と「使用上のご注意」をご確認のうえ、同意されるときのみ「はい、同意します。」を選択して「次へ」を押してください。
■免責事項
(1)本ソフトウェアは、ハードディスク上のすべてのファイルのレスキュー、復元を保障するものではありません。弊社は、いかなる場合においても、本ソフトウェアの使用によって生じたデータの損害について一切の責任を負わないものとします。
はい、同意します。
いいえ、同意しません。
戻る
次へ
キャンセル
①
②
③

9 ［次へ］ボタンをクリックする

何もしないで［次へ］ボタンをクリックすると、すべてのユーザのユーザデータを救助します。
ユーザデータとは、［コンピュータ］-ハードディスクドライブ（C:）-［ユーザー］内の各ユーザ名のフォルダに保存されるファイルやフォルダです。〈ユーザ名〉フォルダにはアドレス帳やお気に入りなどのデータが保存されています。この画面で確認してください。
救助するファイルやフォルダを、任意で好きなように指定したい場合は、「役立つ操作集」を参照してください。

役立つ操作集

「救助するファイルやフォルダを任意で指定したい場合」
救助するファイルやフォルダを好きなように指定するには、次のように操作してください。
① 手順 9 で、［任意のファイルやフォルダを手動で指定する］にチェックを付け、［次へ］ボタンをクリックする
② 救助したいファイルやフォルダにチェックを付け、［次へ］ボタンをクリックする
以降は、手順 10 から操作してください。

10 **救助データの保存先を指定し①、［次へ］ボタンをクリックする②**

（表示例）

外付けハードディスクドライブまたはUSBフラッシュメモリの容量が足りない場合や、記録メディアを何も接続していない場合などは、赤い字でメッセージが表示されます。
メッセージに従って、適切な記録メディアを選択してください。

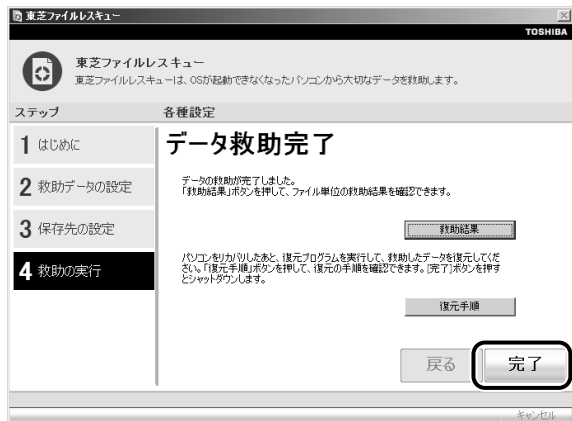
救助データの確認画面が表示されます。

11 **救助するデータと保存先を確認し①、［実行］ボタンをクリックする②**

データの救助を開始するメッセージが表示されます。

12 **［OK］ボタンをクリックする**

データの救助の進捗状況を示す画面が表示されます。救助には、長時間かかることがあります。必ず電源コードを接続した状態でご利用ください。
救助中は保存先の記録メディアを取りはずさないでください。
データの救助が完了すると、完了画面が表示されます。

13 **［完了］ボタンをクリックする**

［救助結果］ボタンをクリックすると、ファイル単位で救助の結果を表示します。
このとき、ファイルが壊れているなどの理由で救助できなかったデータがあると、そのファイル名の左に赤い「×」が表示されます。
［復元手順］ボタンをクリックすると、救助データを復元する手順を表示します。

電源が切れます。

引き続き、リカバリを行う場合は「5章 買ったときの状態に戻すには」を参照してください。
標準ユーザのデータを復元するときは管理者ユーザの認証が必要になりますので、リカバリをしたあとは、必ずWindowsセットアップでWindowsログオンパスワードを設定してください。

参照 Windowsセットアップ「1章 3-4 Windowsのセットアップ」

2 救助したデータを復元する

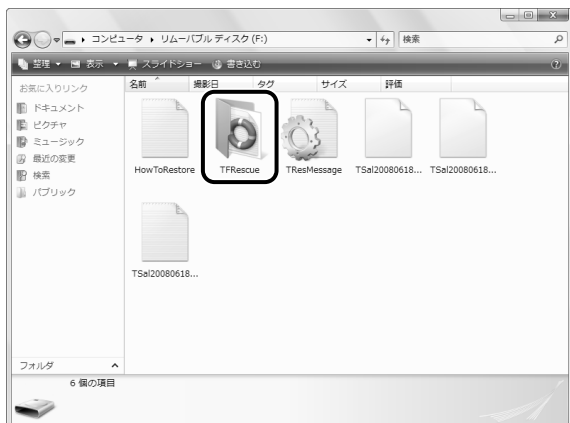
「東芝ファイルレスキュー」で救助したデータの復元方法は、次のとおりです。

1 **パソコンに電源を入れ、Windowsを起動する**

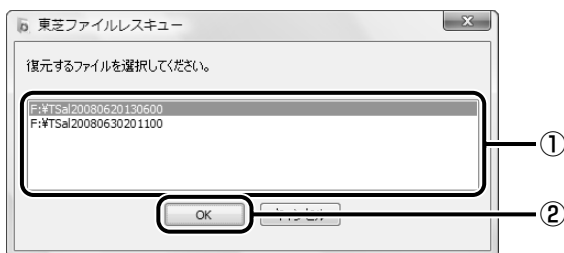
このとき、データを復元したいユーザアカウントでログインしてください。

2 **データを保存した記録メディアをパソコンに接続する**

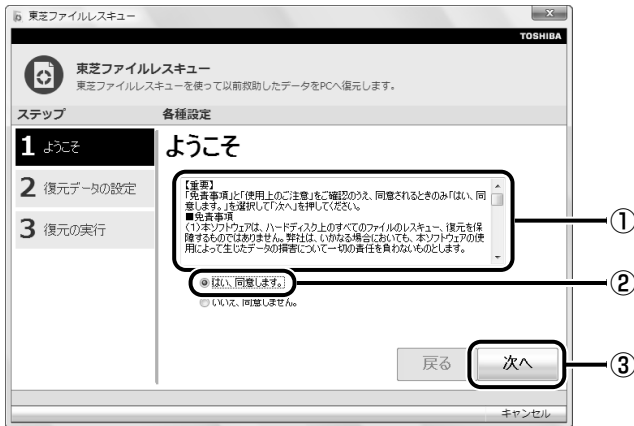
3 **［スタート］ボタン（ ）→［コンピュータ］をクリックし、記録メディアのドライブのアイコンをダブルクリックする**

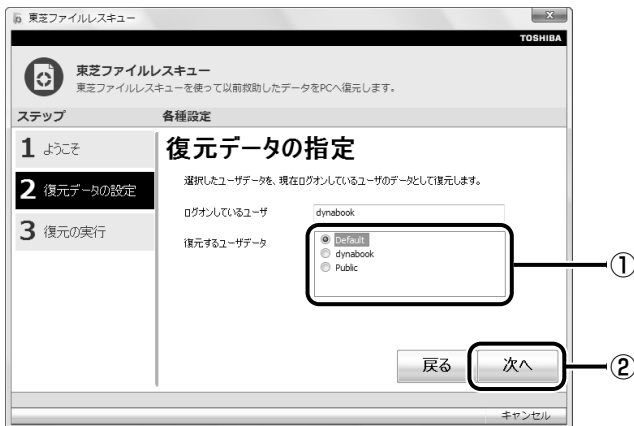
4 「TFRescue」ファイルをダブルクリックする

標準ユーザのアカウントで復元プログラムを実行するときは、管理者ユーザの認証が必要です。
接続した記録メディアに、救助したファイルが複数存在する場合は、手順 **5** へ進んでください。
救助したファイルが1つの場合は、手順 **6** へ進んでください。

5 復元するファイルを選択し①、［OK］ボタンをクリックする②

復元するファイルの名称は、「Tsal」のあとが、年号／月日／時分秒を示す数字となっています。これは、救助を行った日時ですので、よく確認して復元したいファイルを選択してください。

［ようこそ］画面が表示されます。

6 **「免責事項」と「使用上のご注意」を確認し①、同意される場合は、［はい、同意します。］を選択し②、［次へ］ボタンをクリックする③**

同意しないと、操作を先に進めることはできません。

復元データを指定する画面が表示されます。

7 **復元したいユーザデータを選択し①、［次へ］ボタンをクリックする②**

復元データの確認画面が表示されます。

8 復元するデータを確認し①、［実行］ボタンをクリックする②

メッセージが表示されます。

9 ［OK］ボタンをクリックする

データ復元の進捗状況を示した画面が表示されます。
復元が完了すると、データ復元完了の画面が表示されます。

10 ［完了］ボタンをクリックする

［復元結果］ボタンをクリックすると、ファイル単位で復元結果を表示します。
パソコンのハードディスク内のどこに復元されたかを確認することができます。

メモ　復元データ

- 復元データと同じファイルが復元先にある場合、復元データのファイル名の先頭に「_（アンダーバー）」が付きます。
- ユーザデータ以外の任意のファイルやフォルダを救助して復元した場合、次の場所に保存されます。
  - ・救助時にハードディスクドライブ（C:）に保存されていたデータ
    ：「C:¥ユーザー¥［ユーザー名のフォルダ］¥C」の中
  - ・救助時にハードディスクドライブ（D:）に保存されていたデータ
    ：「C:¥ユーザー¥［ユーザー名のフォルダ］¥D」の中

3 リカバリディスクを作る

パソコン本体には、システムやアプリケーションを購入時の状態に復元するためのリカバリ（再セットアップ）ツールが搭載されています。「TOSHIBA Recovery Disc Creator」を使ってリカバリディスクを作成し、あらかじめ、リカバリツールのバックアップをとっておくことをおすすめします。
何らかのトラブルでハードディスクドライブからリカバリできない場合でも、リカバリディスクからリカバリをすることができます。
リカバリディスクがない状態で、ハードディスクドライブからリカバリが行えない場合は、修理が必要になる可能性があります。東芝PCあんしんサポートに相談してください。

参照 修理のお問い合わせ『東芝PCサポートのご案内』

■リカバリ（再セットアップ）とは

リカバリ（再セットアップ）をすると、ハードディスクドライブ内に保存されているデータ（文書ファイル、画像・映像ファイル、メールやアプリケーションなど）はすべて消去され、設定した内容（インターネットやメールの設定、Windowsログオンパスワードなど）も購入時の状態に戻る、つまり何も設定していない状態になります。
詳細は、「5章 1 リカバリとは」を参照してください。
また、データのバックアップについては、普段から定期的に行っておくことをおすすめします。

リカバリディスクを作成できる記録メディア

「TOSHIBA Recovery Disc Creator」では、次の記録メディアを使用できます。
作成する記録メディアの種類は、[TOSHIBA Recovery Disc Creator] 画面の [ディスク構成] で確認できます。

リカバリディスクの場合

- DVD-R
- DVD-R DL
- DVD-RW
- DVD+R
- DVD+R DL
- DVD+RW

あらかじめバックアップ用の記録メディアを用意してください。[TOSHIBA Recovery Disc Creator] 画面で表示されるディスク番号が、必要な枚数です。複数枚使用する場合は、同じ規格の記録メディアで統一してください。

お願い 記録メディアについて／記録メディアの使用推奨メーカ

＊ **使用できる記録メディアと推奨メーカについて、別紙の『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。**
- 推奨するメーカの記録メディアを使用してください。
- 書き込み速度に対応した記録メディアを使用してください。
- 規格に準拠した記録メディアを使用してください。

お願い リカバリディスクの作成にあたって

＊ **リカバリディスクを作成するには、下記以外にもお願い事項があります。**
「付録 1 - 7 CD／DVDにデータのバックアップをとる」を確認してください。

- 「TOSHIBA Recovery Disc Creator」ではDVD-RAMを使用できません。
- 「TOSHIBA Recovery Disc Creator」を使ってリカバリディスクなどを作成するときは、ほかのアプリケーションソフトをすべて終了させてから、行ってください。

リカバリツールのリカバリディスクを作成するには、以降の説明を参照してください。

1 起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［リカバリディスク作成ツール］をクリックする

「TOSHIBA Recovery Disc Creator」が起動します。

（表示例）

「TOSHIBA Recovery Disc Creator」で作成するディスクは、画面に表示される枚数分、記録メディアが必要になります。

2 リカバリディスクを作成する

1 ［タイトル］で作成するディスクをチェックする（ ）

チェックボックスにチェックがついているディスクを作成します。作成する必要のないディスクは、チェックをはずしてください。

2 ［作成］ボタンをクリックする

作成するリカバリディスクの確認と記録メディアのセットを求める画面が表示されます。

3 記録メディアをセットする

参照 DVDのセット『いろいろな機能を使おう 1章 4 CDやDVDを使う』

4 ［OK］ボタンをクリックする

作成が開始され、［現在のディスク］に作成しているディスクの進捗状況が表示されます。
作成を途中で中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

作成が終了すると、自動的にディスクトレイが開きます。
作成するディスクが複数枚ある場合は、メッセージに従って記録メディアを入れ替えてください。

5 メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

ディスク作成後は、作成したディスクの種類（リカバリディスクなど）と番号がわかるように、ディスクに目印をつけてください。例えば、「リカバリディスクXX（番号）」というように、レーベル面に油性のフェルトペンなどで記載してください。リカバリをするとき、この番号どおりにディスクを使用しないと、正しくリカバリされません。必ずディスク番号がわかるようにして保管してください。

6 ［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

［TOSHIBA Recovery Disc Creator］画面が閉じ、ディスクの作成を終了します。

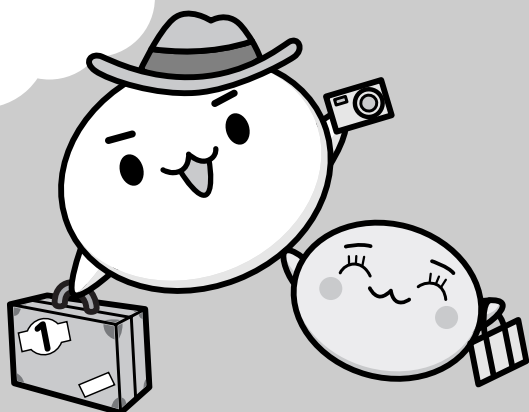
リカバリディスクからリカバリをする操作手順については、「5章 2-3 リカバリディスクからリカバリをする」を参照してください。

参照 「TOSHIBA Recovery Disc Creator」のお問い合わせ先
『いろいろな機能を使おう 7章 1 お問い合わせ先』

5章

買ったときの状態に戻すには
ーリカバリー

この章では、パソコンの動作がおかしくなり、いろいろなトラブル解消方法では解決できないときに行う「リカバリ」について説明しています。リカバリを行うことでシステムやアプリケーションを購入時の状態に復元できます。作成したデータなどが消去されますので、よく読んでから行ってください。

1　リカバリとは 100
2　リカバリ＝再セットアップをする 105
3　リカバリをしたあとは.....................117

1 リカバリとは

リカバリ（再セットアップ）とは、お客様が作成したデータや、購入後にインストールしたアプリケーション、現在の設定などをすべて削除し、もう1度ご購入時の状態に復元する作業です。ハードディスクドライブ内に保存されているデータ（文書ファイル、画像・映像ファイル、メールやアプリケーションなど）はすべて消去され、設定した内容（インターネットやメールの設定、Windowsログオンパスワードなど）も購入時の状態に戻る、つまり何も設定していない状態になります。

一度リカバリを始めると、途中で中止したり、パソコンの電源を切ることができません。
次のような場合で、どうしても改善する方法がないときにリカバリをしてください。

- パソコンの動作が非常に遅くなった
- 周辺機器が使えなくなった
- ハードディスクドライブにあるシステムファイルを削除してしまった
- コンピュータウイルスやスパイウェアなどに感染し、駆除できない＊1
- パソコンの調子がおかしく、いろいろ試したが解消できない
- 東芝PC あんしんサポートに相談した結果、「リカバリが必要」と診断された

＊1 アプリケーションが正常に起動できない場合など、状態によってはウイルスチェックができない場合があります。

1 リカバリをする前に確認すること

パソコンの動作がおかしいと感じたとき、次の方法を実行してみてください。リカバリをしなくても、状態が改善される場合があります。次の方法をすべて試してみても状態が改善されない場合に、リカバリを実行してください。

ウイルスチェックソフトで、ウイルス感染のチェックを実行する

本製品に用意されているウイルスチェックソフトを使って、ウイルスに感染していないかどうかを確認してください。ウイルスが検出されたら、ウイルスチェックソフトで駆除できます。その際、ウイルス定義ファイル（パターンファイル）は、最新のものに更新しておいてください。場合によっては、ウイルスチェックソフトで駆除できないウイルスもあります。そのときは、リカバリを実行してください。

参照 ウイルスチェックソフト「3章 インターネットを快適に利用するために」

セーフ モードで起動できるか実行してみる

Windowsが起動できないときは、次のように実行してみてください。

■TXシリーズ、TXWシリーズ、AXシリーズ、CXシリーズ、CXWシリーズの場合

1 電源を入れる

2 ［dynabook］画面が表示されて消えたらすぐに、F8キーを数回押す

「詳細ブート オプション」が表示されます。

3 メニューが表示されたら、［セーフモード］を選択し、ENTERキーを押す

■EXシリーズ、EXWシリーズ、PXシリーズ、PXWシリーズの場合

1 電源を入れる

2 ［dynabook］画面が表示されたらF8キーを押し、［dynabook］画面が消えたら手をはなす

「詳細ブート オプション」が表示されます。

メモ

パスワードなどを設定している場合は、手順 2 の後で、パスワードを入力する画面が表示されますので、パスワードを入力後、すぐにF8キーを押してください。

3 メニューが表示されたら、［セーフモード］を選択し、ENTERキーを押す

最低限の機能でWindowsを起動させることができます。これで起動できた場合は、リカバリをする前に東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

周辺機器をすべて取りはずし、再度確認する

増設メモリやUSB対応機器など、購入後に追加で増設した機器が障害の原因となっている場合があります。それらを取りはずしてから、再度確認してみてください。また、電源関連のトラブルの場合は、バッテリをいったん取りはずし、再度取り付けてから起動し直してみてください。

参照 機器の取りはずし『いろいろな機能を使おう 3章 周辺機器を使って機能を広げよう』

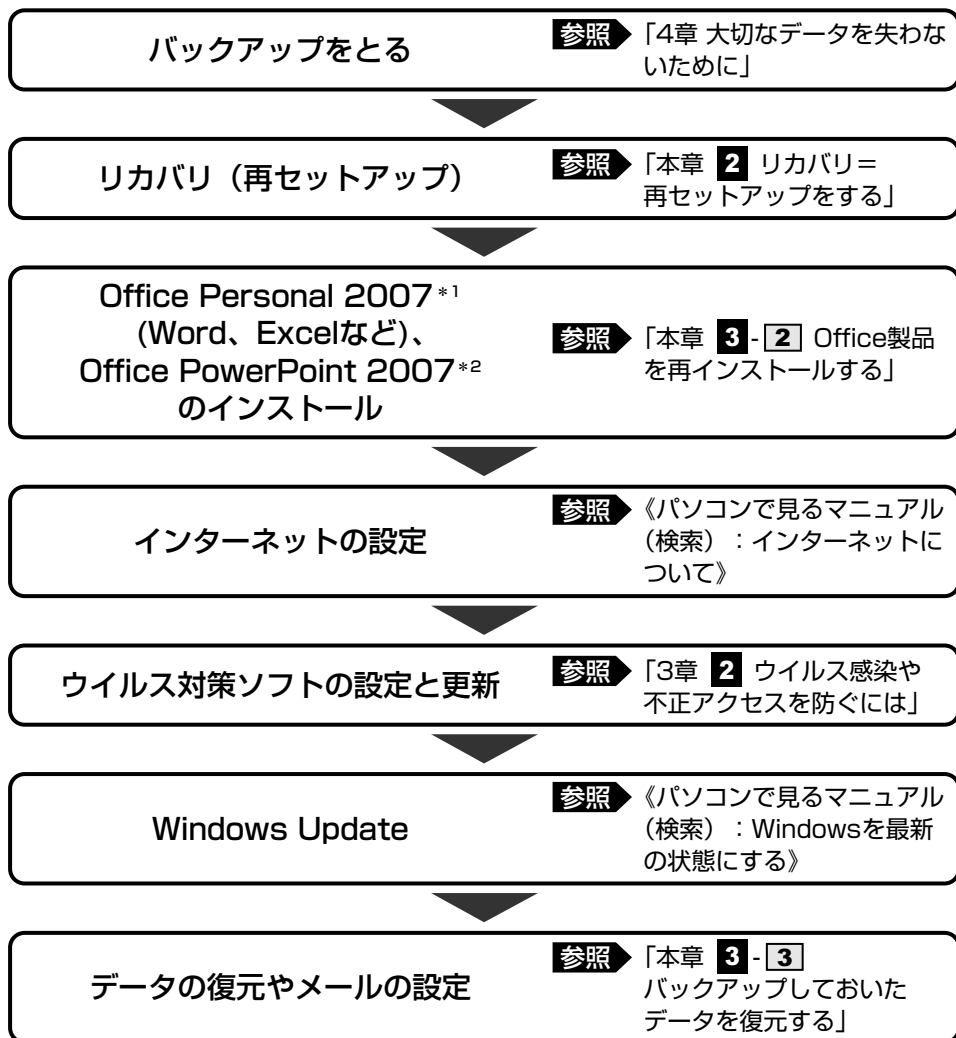
ほかのトラブル解消方法を探す

パソコンの調子がおかしいと思ったときは、『いろいろな機能を使おう 6章 パソコンの動作がおかしいときは』で解消へのアプローチを確認してください。いろいろな解消方法を紹介しています。
それでも解消できないときに、リカバリをしてください。

システムの復元で以前の状態に復元する

「システムの復元」は、パソコンに問題が発生したときに、個人用のデータを失わずにパソコンを以前の状態に復元するための機能です。
詳しくは、『Windowsヘルプとサポート』または、《パソコンで見るマニュアル（検索）：システムの復元》を確認してください。

2 リカバリ（再セットアップ）の流れ

リカバリをする場合は、次のような流れで作業を行ってください。

＊1 Office搭載モデルの場合
＊2 PowerPoint搭載モデルの場合

3 リカバリをはじめる前にしておくこと

リカバリをはじめる前に、次の準備と確認を行ってください。

準備するもの

- 『準備しよう』（本書）
- 『いろいろな機能を使おう』
- 巻末のリカバリチェックシートをコピーしたもの
- リカバリディスク（作成したリカバリディスクからリカバリする場合）

必要なデータのバックアップをとる

リカバリをすると、購入後に作成したデータやインストールしたアプリケーションなど、ハードディスクドライブに保存していた内容は削除されて、設定が初期化されます。次のようなデータは削除されますので、可能な場合は、記録メディア（CD／DVDやUSBフラッシュメモリなど）にバックアップをとってください。

- ドキュメントのデータ
- デスクトップに保存したデータ
- インターネットエクスプローラのお気に入り
- メール送受信データ
- メールアドレス帳
- プレインストールされているアプリケーションのデータやファイル
- お客様がインストールされたアプリケーションのデータ
- お客様が作成されたフォルダとファイル

また、リカバリ後も現在と同じ設定でパソコンを使いたい場合は、現在の設定を控えておいてください。
ただし、ハードディスクドライブをフォーマットしたり、システムファイルを削除した場合は、バックアップをとることができません。また、リカバリを行っても、ハードディスクドライブに保存されていたデータは復元できません。

参照 バックアップについて「4章 大切なデータを失わないために」

なお、システムが起動しない場合は、「東芝ファイルレスキュー」を使うと、データのバックアップをとることができます。

参照 東芝ファイルレスキュー
「4章 2-4 Windowsが起動しない状態で、データのバックアップをとる」

アプリケーションのセットアップ用記録メディアを確認する

「Microsoft Office」や、購入後に追加でインストールしたアプリケーション、プリンタなどの周辺機器のドライバは、リカバリ後にインストールする必要があります。これらを再度インストールするための記録メディア（CDなど）が、お手元にあることを確認してください。
また、アプリケーションによっては、再度インストールするときにID番号などが必要です。あらかじめ確認してください。

各種設定を確認する

インターネットやLANの設定、Windowsログオン時のアカウント名などの設定項目を、メモなどに控えておいてください。ウイルスチェックソフトなど、有償で購入した認証キーなどがセットアップ時に必要なアプリケーションは、それらの番号を控えておいてください。確認方法は各アプリケーションのヘルプやお問い合わせ先にご確認ください。

音量を調節する

リカバリ後、Windows セットアップが終了するまで音量の調節はできません。あらかじめ、ボリュームダイヤルで音量を調節してください。FN＋ESCキーを使って、内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にしている場合は、もう1度 FN＋ESCキーを押して元に戻しておいてください。

周辺機器をすべて取りはずす

増設メモリやUSB対応機器など、パソコン本体に取り付けている物は、ACアダプタのケーブル以外すべて取りはずしてください。このとき、パソコン本体の電源を切ってから行ってください。

参照 機器の取りはずし『いろいろな機能を使おう 3章 周辺機器を使って機能を広げよう』

お願い

- 市販のソフトウェアを使用してパーティションの構成を変更すると、リカバリができなくなることがあります。

2 リカバリ=再セットアップをする

本製品にプレインストールされているWindowsやアプリケーションを復元する方法について説明します。
本製品のリカバリは、ユーザ権限に関わらず、誰でも実行できます。誤ってほかの人にリカバリを実行されないよう、ユーザパスワードを設定しておくことをおすすめします。

参照 ユーザパスワード《パソコンで見るマニュアル（検索）：ユーザパスワード》

1 いくつかあるリカバリ方法

リカバリには、次の方法があります。

- ハードディスクドライブからリカバリをする
- リカバリディスクからリカバリをする

通常はハードディスクドライブからリカバリをしてください。
リカバリディスクからのリカバリは、ハードディスクドライブのリカバリ（再セットアップ）ツール（システムを復元するためのもの）を消してしまったり、ハードディスクドライブからリカバリができなかった場合などに行うことをおすすめします。
リカバリディスクからリカバリをする場合は、「4章 3 リカバリディスクを作る」を確認して、リカバリディスクを用意してください。

2 ハードディスクドライブからリカバリをする

ハードディスクドライブのリカバリツールでは、次のメニューのなかからリカバリ方法を選択することができます。あらかじめリカバリ方法を決めておくとスムーズに操作できます。

■ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）

ハードディスクドライブをパソコンを購入したときの状態（パーティションが2個の状態）に戻し、購入時にプレインストールされていたシステムとアプリケーションを復元します。
購入後に作成したデータや設定などはすべて消去されます。

■パーティションサイズを変更せずに復元<推奨>

パーティションサイズを変更して使用していた場合、そのパーティションの構造を保ったままシステムを復元します。ハードディスクドライブ（C:）に保存されていたデータは消去され、購入時の状態に戻りますが、その他のドライブに保存されていたデータや設定は、そのまま残ります。ただし、BIOS情報やコンピュータウイルスなどの影響でデータが壊れている場合、ハードディスクドライブ（C:）以外の領域にあるデータも使えないことがあります。

■パーティションサイズを指定して復元

ハードディスクドライブ（C:）のサイズを指定して復元することができます。ハードディスクドライブ（C:）以外のハードディスクドライブの領域は1つの領域になり、データや設定などはすべて消去されます。

メモ

- ハードディスクドライブからリカバリを行う場合は、ドライブに記録メディアをセットしていない状態で実行してください。ドライブに記録メディアがセットされていると、エラーになる場合があります。
- どのメニューを選択しても、ハードディスクドライブ（C:）にはリカバリツールから購入時と同じシステムが復元されます。

ここでは、「パーティションサイズを変更せずに復元」する方法を例にして説明します。

1 パソコンの電源を切る

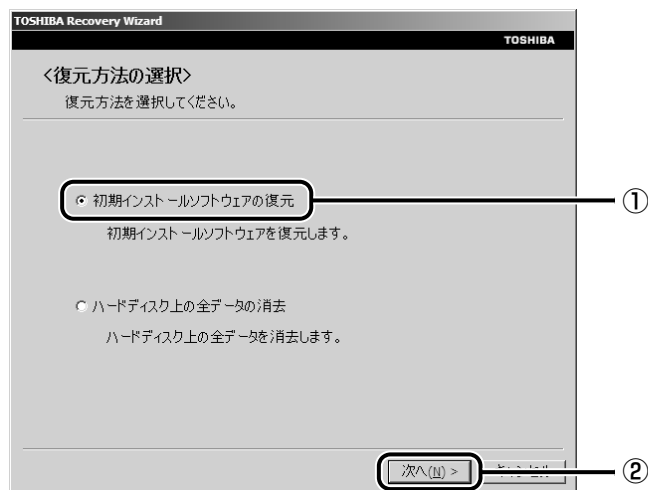
2 ACアダプタと電源コードを接続する

3 キーボードの 0 （ゼロ）キーを押しながら電源スイッチを押し、［dynabook］画面が表示されてから手をはなす

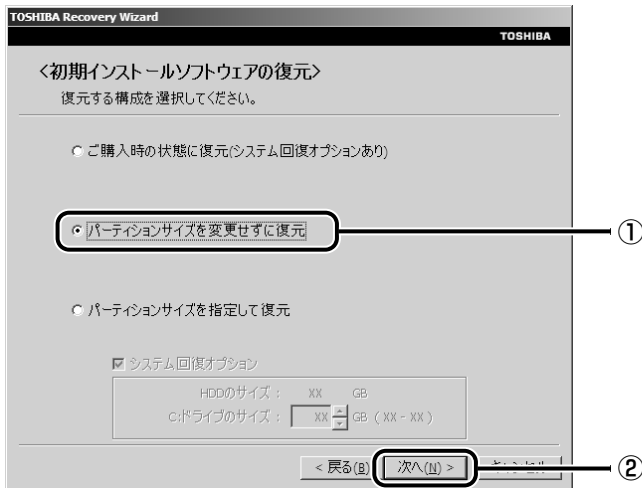
ユーザパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面が表示されます。
ユーザパスワードを入力して ENTER キーを押してください。
メッセージ画面が表示されます。

4 画面の内容を確認し、［はい］ボタンをクリックする

［復元方法の選択］画面が表示されます。

5 ［初期インストールソフトウェアの復元］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

［ハードディスク上の全データの消去］は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏えいを防ぐために、ハードディスクドライブのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、ハードディスクドライブ上にある、リカバリツールの領域以外のすべてのデータが削除されます。

参照 ハードディスクドライブの消去について
「6章 2-2 ハードディスクドライブの内容をすべて消去する」

6 ［パーティションサイズを変更せずに復元］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

［パーティションサイズを変更せずに復元］を選択した場合の意味と動作は、次のとおりです。
ほかのメニューを選択した場合については、次のページを参照してください。

- ［ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）］：P.109
- ［パーティションサイズを指定して復元］：P.109

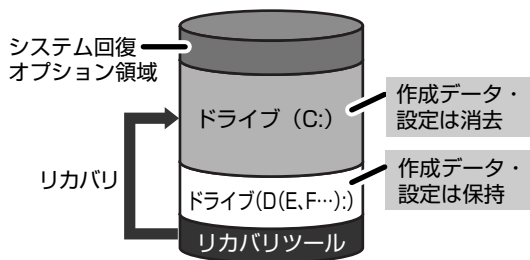
- **［パーティションサイズを変更せずに復元］とは**

［パーティションサイズを指定して復元］を使って、すでにハードディスクドライブの領域を分割している場合などに使用します。ハードディスクドライブ（C:）がリカバリされ、それ以外の領域のデータはそのまま残ります。

ハードディスクドライブ（C:）（　）にあたる領域は、作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

（ハードディスクドライブの領域を分割している場合の表示例）

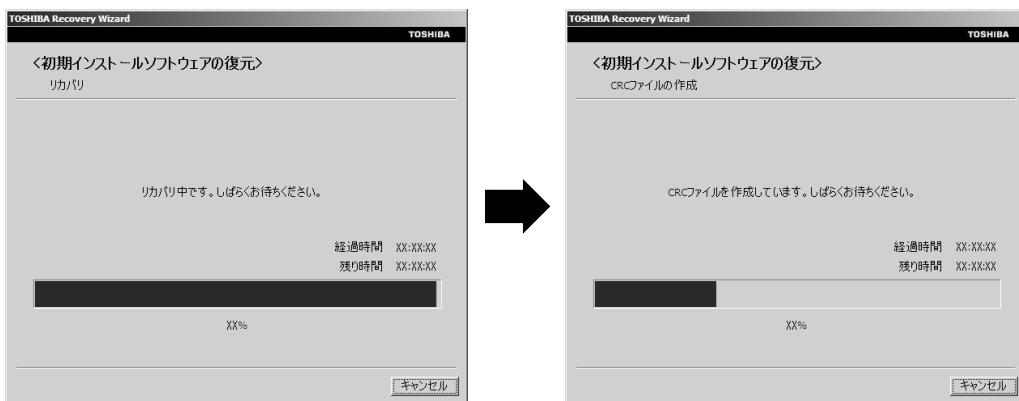
「先頭パーティションのデータは、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

メモ

- ［ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）］と［パーティションサイズを変更せずに復元］は、リカバリツールとシステム回復オプションの領域が確保されているため、ハードディスクドライブの100%を使用することはできません。

7 ［次へ］ボタンをクリックする

処理を中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

［次へ］ボタンをクリックすると、復元が実行され、［パーティションを初期化しています。しばらくお待ちください。］画面が表示されます。

長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。
復元中は、次の画面が表示されます。リカバリの経過に従い、画面が変わります。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

8 ［終了］ボタンをクリックする

システムが再起動します。
［Windowsのセットアップ］画面が表示されるまで、しばらく時間がかかります。また、アプリケーションをインストールしているメッセージ画面が表示される場合がありますが、この間に絶対に電源を切らないようにしてください。

9 Windowsのセットアップを行う

参照 詳細について「1章 3 Windowsを使えるようにする」

メモ

- 一部のアプリケーションは、リカバリ後にアプリケーションのインストールをする必要があります。

参照 詳細について「本章 3-1 アプリケーションを再インストールする」

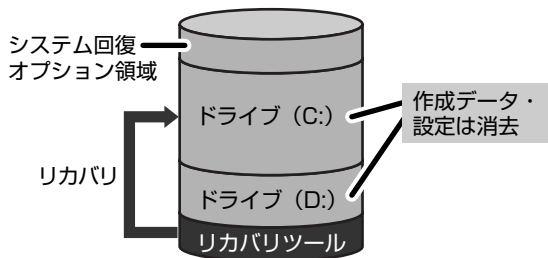
購入後に変更した設定がある場合は、Windowsのセットアップ後に、もう1度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windowsのセットアップ後に行ってください。

参照 周辺機器の接続『いろいろな機能を使おう 3章 周辺機器を使って機能を広げよう』

［初期インストールソフトウェアの復元］画面のリカバリメニューについて

「本項 ハードディスクドライブからリカバリをする」の手順 6 の［初期インストールソフトウェアの復元］画面で表示されるリカバリメニューの意味と動作は次のようになります。

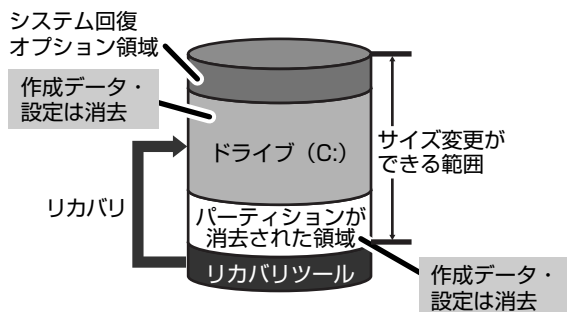
■ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）

パソコンを購入したときの状態（パーティションが2個の状態）に戻します。

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

手順 6 のあとは「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

■パーティションサイズを指定して復元

ハードディスクドライブ（C:）のサイズを変更します。
ハードディスクドライブ（C:）以外の領域区分（パーティション）は消去され、1つの領域になります。その領域（□）は「ディスクの管理」から再設定を行うと、再びドライブとして使用できるようになります。
［システム回復オプション］のチェックをはずしてリカバリを行うと、システム回復オプション領域は消去されます。その領域（■）も、「ディスクの管理」から設定するとドライブとして使用できます。

参照 ディスクの管理「本章 3-パーティションを変更してリカバリをした場合は」

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

① ［システム回復オプション］にチェックをする、またはチェックをはずす
② ［C：ドライブのサイズ］で ▲ ▼ をクリックしてパーティション（ハードディスクドライブ（C:））のサイズを指定する
③ ［次へ］ボタンをクリックする
手順 6 のあとは「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

3 リカバリディスクからリカバリをする

リカバリディスクのリカバリツールでは、次のメニューのなかからリカバリ方法を選択することができます。あらかじめリカバリ方法を決めておくとスムーズに操作できます。

■ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）

ハードディスクドライブをパソコンを購入したときの状態（パーティションが2個の状態）に戻し、購入時にプレインストールされていたシステムとアプリケーションを復元します。
購入後に作成したデータや設定などはすべて消去されます。

■パーティションサイズを変更せずに復元<推奨>

パーティションサイズを変更して使用していた場合、そのパーティションの構造を保ったままシステムを復元します。ハードディスクドライブ（C:）に保存されていたデータは消去され、購入時の状態に戻りますが、その他のドライブに保存されていたデータや設定は、そのまま残ります。

■パーティションサイズを指定して復元

ハードディスクドライブ（C:）のサイズを指定して復元することができます。ハードディスクドライブ（C:）以外のハードディスクドライブの領域は1つの領域になり、データや設定などはすべて消去されます。

メモ

- どのメニューを選択しても、ハードディスクドライブ（C:）には購入時と同じシステムが復元されます。

1 ACアダプタと電源コードを接続する

2 リカバリディスクをセットして、パソコンの電源を切る

リカバリディスクが複数枚ある場合は、「ディスク1」からセットしてください。

参照 リカバリディスクのセット『いろいろな機能を使おう 1章 4 CDやDVDを使う』

3 キーボードの F12 キーを押しながら電源スイッチを押す

4 [dynabook] 画面が表示されたら、F12 キーから手をはなす

ユーザパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面が表示されます。
ユーザパスワードを入力して ENTER キーを押してください。

5 ↑ または ↓ キーで [CD/DVD] を選択し、ENTER キーを押す

[復元方法の選択] 画面が表示されます。

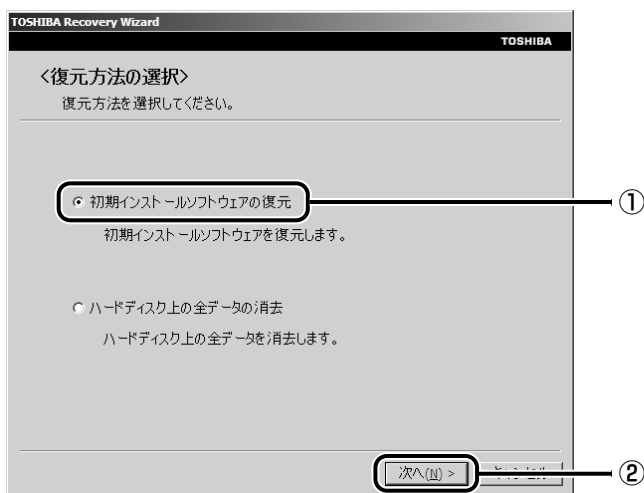
6 [TOSHIBA Recovery Wizard] をチェックし①、[次へ] ボタンをクリックする②

[システム回復オプション] には、パソコンを使用するうえでのさまざまなトラブルやデータ保護に対応したメニューが用意されています。詳細は《パソコンで見るマニュアル（検索）：「システム回復オプション」で調べる》を参照してください。

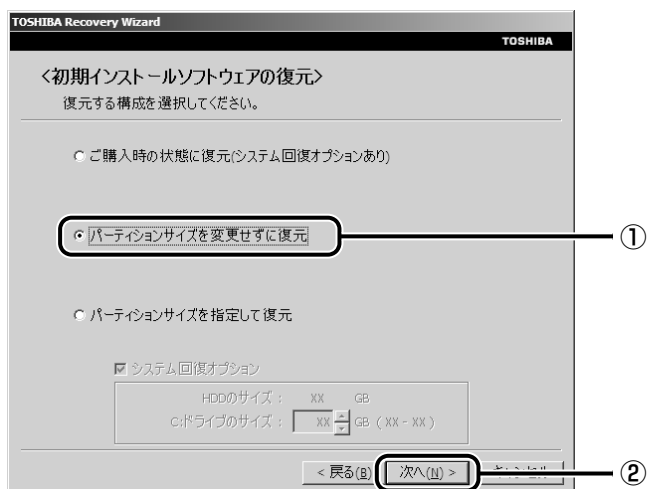
メッセージ画面が表示されます。

7 **画面の内容を確認し、［はい］ボタンをクリックする**

2枚目の［復元方法の選択］画面が表示されます。

8 **［初期インストールソフトウェアの復元］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②**

［ハードディスク上の全データの消去］は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏えいを防ぐために、ハードディスクドライブのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、ハードディスクドライブ上にある、すべてのデータが削除されます。

参照 ハードディスクドライブの消去について
「6章 2 - 2 ハードディスクドライブの内容をすべて消去する」

9 ［パーティションサイズを変更せずに復元］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

［パーティションサイズを変更せずに復元］を選択した場合の意味と動作は、次のとおりです。
ほかのメニューを選択した場合については、次のページを参照してください。

- ［ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）］：P.115
- ［パーティションサイズを指定して復元］：P.116

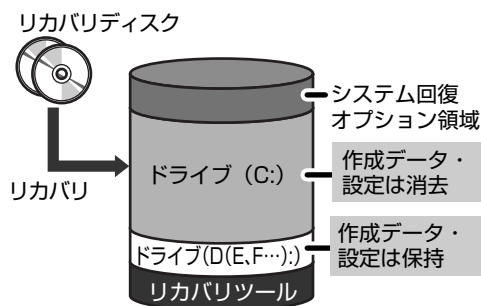
- **［パーティションサイズを変更せずに復元］とは**

［パーティションサイズを指定して復元］を使って、すでにハードディスクドライブの領域を分割している場合などに使用します。ハードディスクドライブ（C:）がリカバリされ、それ以外の領域のデータはそのまま残ります。

ハードディスクドライブ（C:）（■）にあたる領域は、作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

（ハードディスクドライブの領域を分割している場合の表示例）

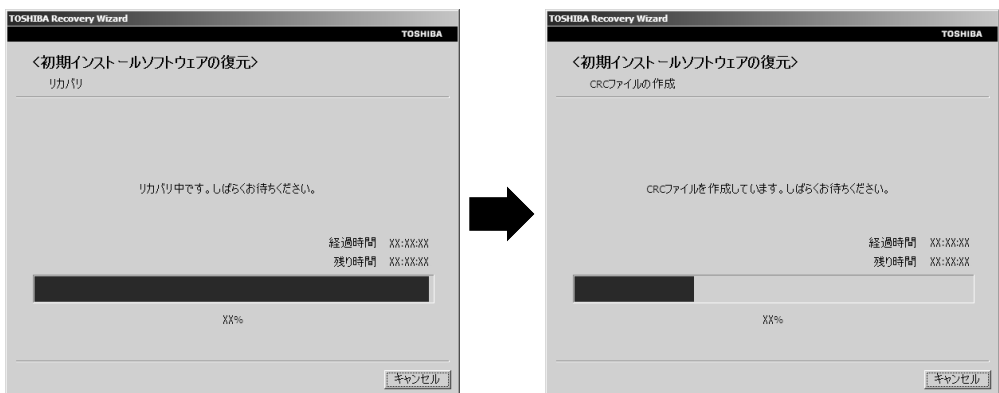
「先頭パーティションのデータは、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

メモ

- ［ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）］と［パーティションサイズを変更せずに復元］は、リカバリツールとシステム回復オプションの領域が確保されているため、ハードディスクドライブの100%を使用することができません。

10 ［次へ］ボタンをクリックする

処理を中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

［次へ］ボタンをクリックすると、復元が実行され、［パーティションを初期化しています。しばらくお待ちください。］画面が表示されます。

長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。
復元中は、次の画面が表示されます。リカバリの経過に従い、画面が変わります。

＊最初に［コピーしています。］画面が表示される場合があります。長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

リカバリディスクが複数枚ある場合は、ディスクを入れ替えるメッセージが表示され、ディスクトレイが開きます。ディスクの番号順に入れ替え、［OK］ボタンをクリックしてください。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

11 ［終了］ボタンをクリックする

自動的にディスクトレイが開きます。

12 リカバリディスクを取り出す

システムが再起動します。
［Windowsのセットアップ］画面が表示されるまで、しばらく時間がかかります。また、アプリケーションをインストールしているメッセージ画面が表示される場合がありますが、この間に絶対に電源を切らないようにしてください。

13 Windowsのセットアップを行う

参照 詳細について「1章 3 Windowsを使えるようにする」

メモ

- 一部のアプリケーションは、リカバリ後にアプリケーションのインストールをする必要があります。

参照 詳細について「本章 3-1 アプリケーションを再インストールする」

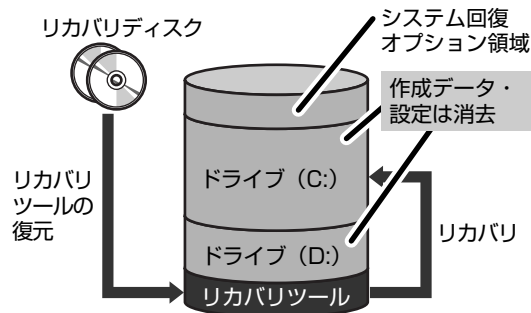
購入後に変更した設定がある場合は、Windowsのセットアップ後に、もう1度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windowsのセットアップ後に行ってください。

参照 周辺機器の接続『いろいろな機能を使おう 3章 周辺機器を使って機能を広げよう』

［初期インストールソフトウェアの復元］画面のリカバリメニューについて

「本項 リカバリディスクからリカバリをする」の手順 9 の［初期インストールソフトウェアの復元］画面で表示されるリカバリメニューの意味と動作は次のようになります。

■ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）

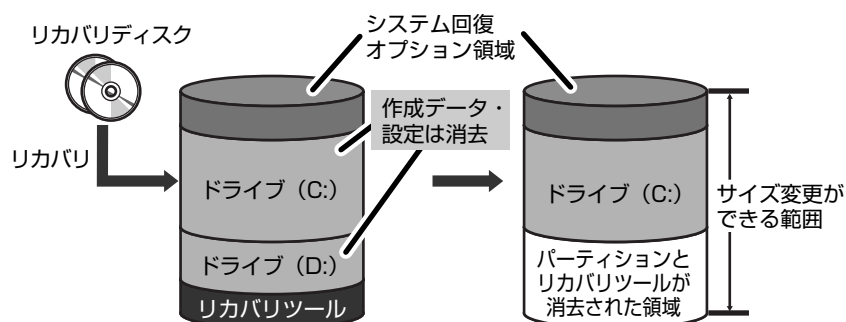
パソコンを購入したときの状態（パーティションが2個の状態）に戻します。

設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

手順 9 のあとは「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

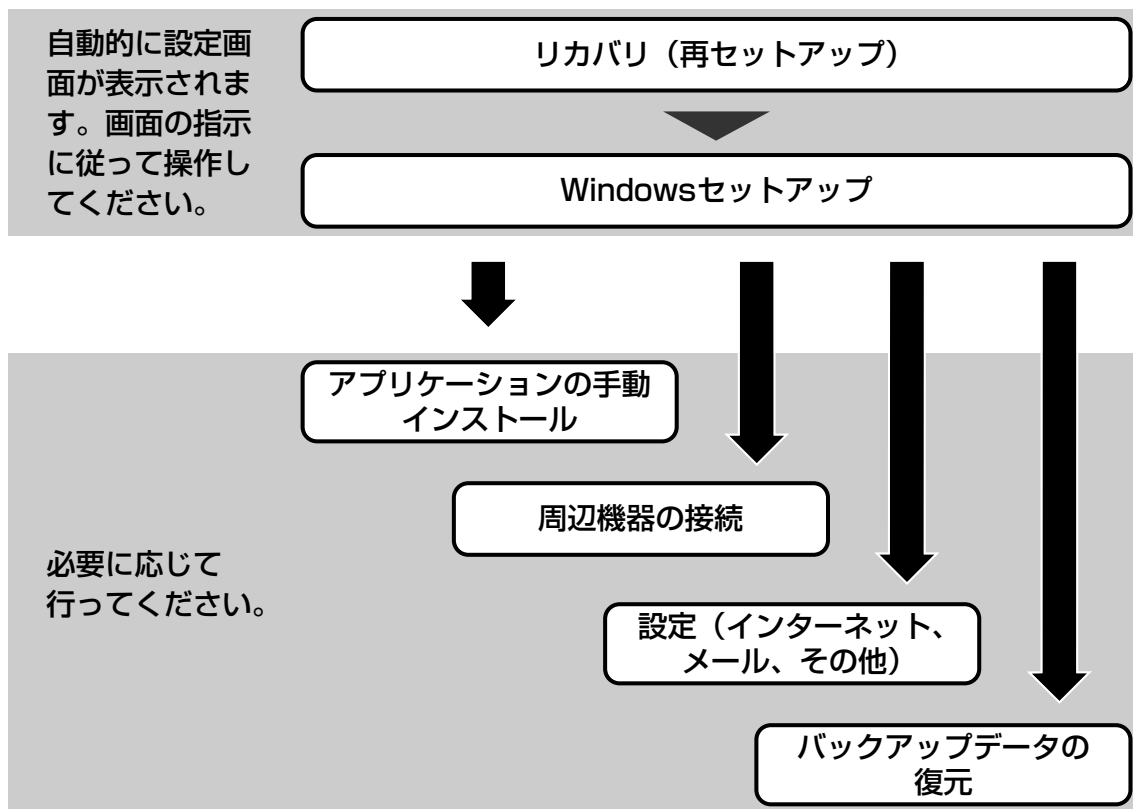
■ パーティションサイズを指定して復元

ハードディスクドライブ（C:）のサイズを変更します。
ハードディスクドライブ（C:）以外の領域区分（パーティション）とリカバリツールの領域は消去され、1つの領域になります。その領域（□）は「ディスクの管理」から再設定を行うと、再びドライブとして使用できるようになります。
［システム回復オプション］のチェックをはずしてリカバリを行うと、システム回復オプション領域は消去されます。その領域（■）も、「ディスクの管理」から設定するとドライブとして使用できます。

参照 ディスクの管理「本章 3 - パーティションを変更してリカバリをした場合は」

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

①［システム回復オプション］にチェックをする、またはチェックをはずす
②［C：ドライブのサイズ］で をクリックしてパーティション（ハードディスクドライブ（C:））のサイズを指定する
③［次へ］ボタンをクリックする
手順 9 のあとは「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

3 リカバリをしたあとは

リカバリ後は次の流れで設定を行います。

ここでは次の点を説明します。

- パーティションの設定
- プレインストールアプリケーションの手動インストール
- Office Personal 2007、Office PowerPoint 2007の再インストール＊1

＊1 Office搭載モデル、PowerPoint搭載モデルの場合

パーティションを変更してリカバリをした場合は

リカバリメニューで［パーティションサイズを指定して復元］を選択してリカバリをした場合のみ、リカバリ後すみやかに次の設定を行ってください。

お願い　パーティションを設定するにあたって

- Windows の「ディスクの管理」を使用すると、ボリュームがないプライマリパーティションが表示されます。このパーティションにはリカバリ（システムの復元）するためのデータが保存されていますので、削除しないでください。削除した場合、リカバリはできなくなります。

1　コンピュータの管理者になっているユーザアカウントでログオンする

2　［スタート］ボタン（　）→［コントロールパネル］をクリックする

3　［ システムとメンテナンス］→［ 管理ツール］をクリックする

4　［ コンピュータの管理］をダブルクリックする

5　左画面の［ ディスクの管理］をクリックする

設定していないパーティションは［未割り当て］と表示されます。

6　［ディスク0］の［未割り当て］の領域を右クリックする

7　表示されるメニューから［新しいシンプル ボリューム］をクリックする

［新しいシンプル ボリューム ウィザード］が起動します。

8　［次へ］ボタンをクリックし、ウィザードに従って設定する

次の項目を設定します。

・ボリューム サイズの指定
・ドライブ文字またはパスの割り当て
・パーティションのフォーマット
　　・ファイルシステム
　　・アロケーションユニットサイズ
　　・ボリュームラベル

9　設定内容を確認し、［完了］ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。
パーティションの状態が［正常］と表示されれば完了です。
詳細については「コンピュータの管理」のヘルプを参照してください。

■ヘルプの起動

①メニューバーから［ヘルプ］→［トピックの検索］をクリックする

1 アプリケーションを再インストールする

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、一度削除してしまっても、必要なアプリケーションやドライバを指定して再インストールすることができます。
Office搭載モデルのOffice Personal 2007、PowerPoint搭載モデルのOffice PowerPoint 2007は、リカバリ後に付属のCD-ROMで再インストールする必要があります。
「本節 2 Office製品を再インストールする」を確認してください。

■必要なもの

- 『準備しよう』（本書）

アプリケーションによっては、再インストール時にID番号などが必要です。あらかじめ確認してから、再インストールすることを推奨します。

同じアプリケーションがすでにインストールされているときは、コントロールパネルの「プログラムのアンインストール」または各アプリケーションのアンインストールプログラムを実行して、アンインストールを行ってください。
アンインストールを行わずに再インストールを実行すると、正常にインストールできない場合があります。ただし、上記のどちらの方法でもアンインストールが実行できないアプリケーションは、上書きでインストールしても問題ありません。

参照 アプリケーションの削除《パソコンで見るマニュアル（検索）：アプリケーションの削除》

1 操作手順

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 ［セットアップ画面へ］をクリックする

アプリケーションやドライバのセットアップメニュー画面が表示されます。アプリケーションやドライバのセットアップメニューは、カテゴリごとのタブに分かれています。

初めて起動したときは、［ドライバ］タブが表示されています。タブをクリックして再インストールしたいアプリケーションを探してください。
画面左側にはアプリケーションの一覧が表示されています。
画面右側にはアプリケーションの説明が書かれていますので、よくお読みください。

3 画面左側のアプリケーション名を選択し、画面右側の「XXXのセットアップ」をクリックする

「XXX」にはアプリケーション名が入ります。選択したメニューによっては別の言葉が表示されます。
説明文の下の、下線が引かれている言葉をクリックしてください。

4 表示されるメッセージに従ってインストールを行う

［ファイルのダウンロード］画面が表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。

2 Office製品を再インストールする

＊Office搭載モデル、PowerPoint搭載モデルのみ

文書作成ソフトの「Word」や表計算ソフト「Excel」を使いたい場合はOffice Personal 2007をインストールする必要があります。
プレゼンテーションソフト「PowerPoint」を使いたい場合はOffice PowerPoint 2007をインストールする必要があります。
ここでは、Office Personal 2007、Office PowerPoint 2007を再インストールする方法を説明します。

■必要なもの

付属のパッケージに、必要なものが一式入っています。

「Microsoft® Office Personal 2007」一式
「Microsoft® Office PowerPoint® 2007」一式

再インストールした場合、ライセンス認証が必要になります。

再インストール方法とセットアップ方法

詳細は、『Microsoft® Office Personal 2007 スタート ガイド』、『Microsoft® Office PowerPoint® 2007 スタート ガイド』を確認してください。

■Service Pack 1について

添付のCDからOffice Personal 2007、Office PowerPoint 2007を再インストールした場合、Service Pack 1は組み込まれません。
次の手順を行って、インストールしてください。

① [スタート] ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする
② [セットアップ画面へ］をクリックする
③ [Windows関連］タブをクリックする
④ 画面左側の［2007 Microsoft Office system Service Pack 1］をクリックし、表示された画面に従ってセットアップする

■Office ナビの場合

「Microsoft® Office ナビ 2007」は、アプリケーションの再インストールから再インストールします。

① [スタート] ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする
② [セットアップ画面へ］をクリックする
③ [Windows関連］タブをクリックする
④画面左側の［Microsoft Office ナビ 2007］をクリックし、表示された画面に従ってセットアップする

3 バックアップしておいたデータを復元する

バックアップをとっておいたデータを使いたい場合は、バックアップした記録メディアからデータを読み込んでください。

■インターネット接続の設定情報

インターネット接続の設定情報は、データのバックアップがとれません。
プロバイダから送られてきた書類や、お客様ご自身で設定情報を控えておいたメモなどを元に、もう1度設定し直してください。

■[ドキュメント]、[お気に入り]のデータ

バックアップをとったデータを利用することができます。
バックアップ方法に対応した復元方法で復元してください。

参照 [ドキュメント]、[お気に入り]のバックアップについて
「4章 1-1 ファイルやフォルダのバックアップをとる」

参照 [お気に入り]のバックアップについて
《パソコンで見るマニュアル(検索):「お気に入り」のバックアップ手順
「お気に入り」の復元手順》

■Windows メールのデータ

- メールアカウント
- メール送受信データ
- メールフォルダ
- メールアドレス帳

バックアップをとったデータを、「Windows メール」で読み込んでください。

参照 《パソコンで見るマニュアル(検索): メールのバックアップ手順
メールデータをバックアップから復元する手順》

■MS-IMEで登録した単語

詳しくは「MS-IME」のヘルプを確認してください。

■その他のファイルやフォルダなど

- プレインストールされているアプリケーションのデータやファイル
- お客様がインストールされたアプリケーションのデータ
- お客様が作成されたフォルダとファイル

など

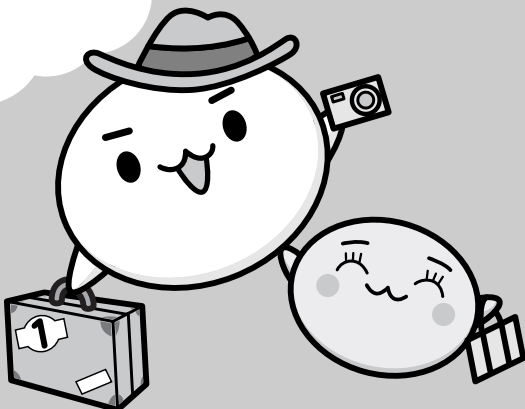
バックアップした記録メディアから、バックアップをとったデータが保存されていた場所に、データをコピーして復元してください。
「東芝ファイルレスキュー」など、アプリケーションによってバックアップ方法や復元方法が用意されている場合は、その方法に従って復元してください。詳しくは、アプリケーションのヘルプを参照してください。

参照 東芝ファイルレスキュー
「4章 2-4 Windowsが起動しない状態で、データのバックアップをとる」

6章

お客様登録と廃棄／譲渡について

この章では、お客様登録の手続きや廃棄や譲渡に関することを説明しています。
パソコン本体を捨てるときや人に譲るときの処置について知っておいて欲しいことを説明しています。

1　お客様登録の手続き 124
2　捨てるとき／人に譲るとき 126

1 お客様登録の手続き

パソコンやアプリケーションを使用するときは、自分が製品の正規の使用者（ユーザ）であることを製品の製造元へ連絡します。これを「お客様登録」または「ユーザ登録」といいます。
お客様登録は、パソコン本体、使用するアプリケーションごとに行い、方法はそれぞれ異なります。
お客様登録を行わなくても、パソコンやアプリケーションを使用できますが、お問い合わせをいただくときにお客様番号（「ユーザID」など、名称は製品によって異なります）が必要な場合や、お客様登録をしているかたへは製品に関する大切な情報をお届けする場合がありますので、使い始めるときに済ませておくことをおすすめします。

1 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ

東芝では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝ID（TID）のご登録をおすすめしております。
サービス内容は、『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

詳しくは、次のアドレス「東芝ID（TID）とは？」をご覧ください。
https://room1048.jp/onetoone/info/about_tid.htm

登録方法

お客様の環境に応じて、登録方法を選択できます。

■方法1 - 「おたすけナビ」からのご登録方法

インターネットに接続後、登録用のホームページに簡単にアクセスできます。

■方法2 - インターネットからのご登録方法

インターネットに接続後、URLを入力して登録用のホームページにアクセスしていただきます。
登録用ホームページ：http://room1048.jp

商品の追加登録は「方法1」または「方法2」で行います。
ここでは、「方法1」を紹介します。

1 「おたすけナビ」からのご登録方法

インターネット接続の設定やインターネットプロバイダとの契約をしてある場合に、「おたすけナビ」からTID登録を行う方法を説明します。インターネットに接続しているあいだの通信料金やプロバイダ使用料などの費用はお客様負担となりますので、あらかじめご了承ください。

メモ

- インストールしているウイルスチェックソフトの設定によって、インターネット接続を確認する画面が表示される場合があります。インターネット接続を許可する項目を選択し、操作を進めてください。
- 初めて「Internet Explorer」を起動したときは、操作の途中で、検索ツールの利用を確認する画面が表示される場合があります。
  画面に従って操作してください。

1 デスクトップ上の［おたすけナビ］（ ）をダブルクリックする

「おたすけナビ」が起動します。
［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［おたすけナビ］をクリックして起動することもできます。

2 ［まずはじめに］タブをクリックし、［お客様登録］（ ）をクリックする

［「お客様登録」のお願い］画面が表示されます。
以降は、画面の指示に従って操作してください。

2 捨てるとき／人に譲るとき

1 お客様登録の削除について

● **ホームページから削除する**

東芝ID（TID）をお持ちの場合はこちらからお願いします。

①インターネットで「http://room1048.jp」へ接続する

②［ログイン］ボタンをクリックする

［セキュリティの警告］画面が表示された場合は、内容を確認し、［OK］ボタンをクリックしてください。

③［東芝ID（TID）］と［パスワード］に入力し、［ログイン］ボタンをクリックする

お客様専用ページにログインします。

④ページ右上の［登録情報変更］をクリックする

［登録情報変更メニュー］画面が表示されます。

⑤［退会］をクリックし、登録を削除する

※退会ではなく、商品の削除のみのお客様は「登録情報変更メニュー」で、商品削除を行ってください。

※TIDを退会されますと、「Shop1048」でのTID会員メニュー、およびポイントサービスなどもご利用いただけなくなりますので、あらかじめご了承ください。

● **電話で削除する**

「東芝ID事務局（お客様情報変更）」までご連絡ください。

● 東芝ID事務局（お客様情報変更）

TEL　　　：0570-09-1048（ナビダイヤル）

受付時間 ：10:00～17:00（土・日、祝日、東芝特別休日を除く）

紹介しているホームページ、電話番号はお客様登録の内容変更、削除に関するお問い合わせ窓口です。

保守サービス、修理などの技術的な相談は、『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

法人のお客様の場合は、ログインで表示される画面が異なります。

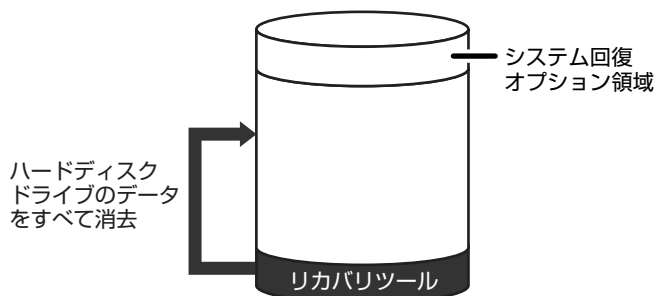
登録情報の変更および退会は「登録情報変更」のメニューで、ご自身で行っていただくことができますが、商品の削除ができませんので、その場合は東芝ID事務局までお電話でご連絡くださいますようお願いいたします。

● 詳しくは、次のホームページを参照してください。

URL：https://room1048.jp/onetoone/info/business.htm

またリサイクルに関しては、『東芝PCサポートのご案内』を参照してください。

2 ハードディスクドライブの内容をすべて消去する

パソコン上のデータは、削除操作をしても実際には残っています。普通の操作では読み取れないようになっていますが、特殊な方法を実行すると削除したデータでも再現できてしまいます。そのようなことができないように、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、他人に見られたくないデータを読み取れないように、消去することができます。

（ハードディスクドライブのリカバリツールを使用する場合）

なお、ハードディスクドライブに保存されている、これまでに作成したデータやプログラムなどはすべて消失します。これらを復元することはできませんので、注意してください。

操作手順

ハードディスクドライブの内容を削除するには、ハードディスクドライブのリカバリツールまたは作成したリカバリディスクを使用します。
ハードディスクドライブのリカバリツールを使用すると、ハードディスクドライブ内のデータはすべて消去されますが、リカバリツールは残ります。
作成したリカバリディスクを使用すると、ハードディスクドライブ内のデータと共にリカバリツールも消去されます。
ここでは、ハードディスクドライブのリカバリツールから行う方法を例にして説明します。リカバリディスクから行う場合は、手順 1 の前にリカバリディスク（ディスク1）をセットしてください。

1 パソコンの電源を切る

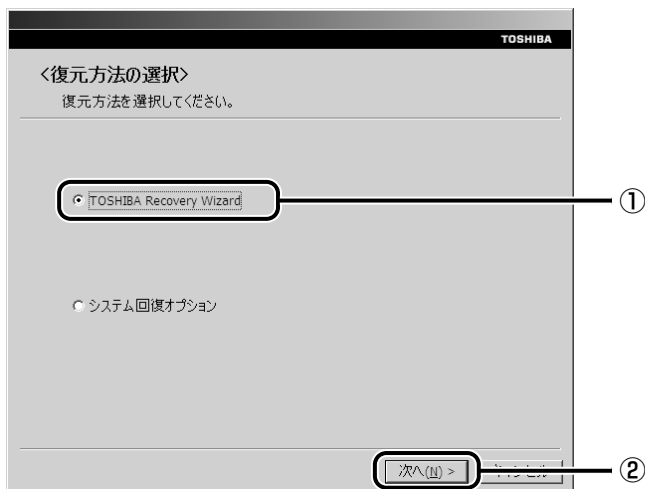
2 ACアダプタと電源コードを接続する

3 キーボードの 0 （ゼロ）キーを押しながら電源スイッチを押し、［dynabook］画面が表示されてから手をはなす

メッセージ画面が表示されます。手順 5 に進んでください。

■リカバリディスクをセットしている場合

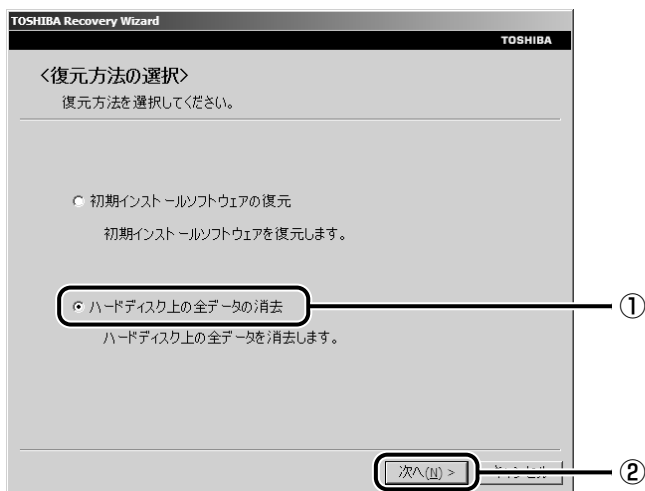
キーボードの F12 キーを押しながら電源スイッチを押し、［dynabook］画面が表示されてから手をはなします。
その後、↓ ↑ キーで［CD/DVD］を選択し、ENTER キーを押してください。
［復元方法の選択］画面が表示されます。

4 **［TOSHIBA Recovery Wizard］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②**

［システム回復オプション］には、パソコンを使用するうえでのさまざまなトラブルやデータ保護に対応したメニューが用意されています。詳細は《パソコンで見るマニュアル（検索）：「システム回復オプション」で調べる》を参照してください。

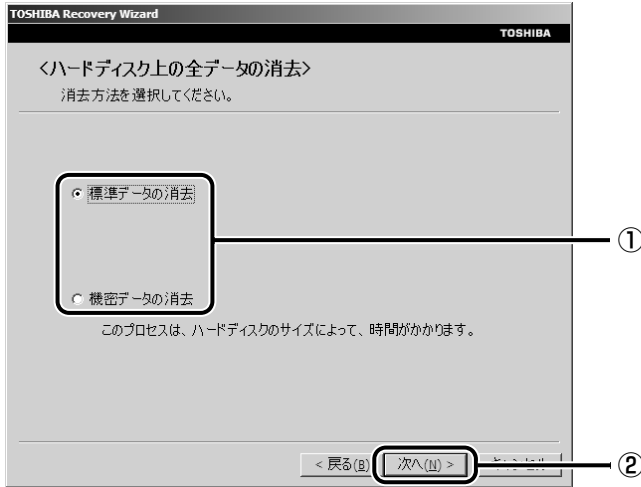
メッセージ画面が表示されます。

5 **画面の内容を確認し、［はい］ボタンをクリックする**

［復元方法の選択］画面が表示されます。

6 **［ハードディスク上の全データの消去］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②**

消去方法を選択する画面が表示されます。

7 目的に合わせて、［標準データの消去］または［機密データの消去］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

通常は［標準データの消去］を選択してください。データを読み取れなくなります。
より確実にデータを消去するためには、［機密データの消去］を選択してください。
数時間かかりますが、データは消去されます。

［ハードディスクの内容は、すべて消去されます。］画面が表示されます。

8 ［次へ］ボタンをクリックする

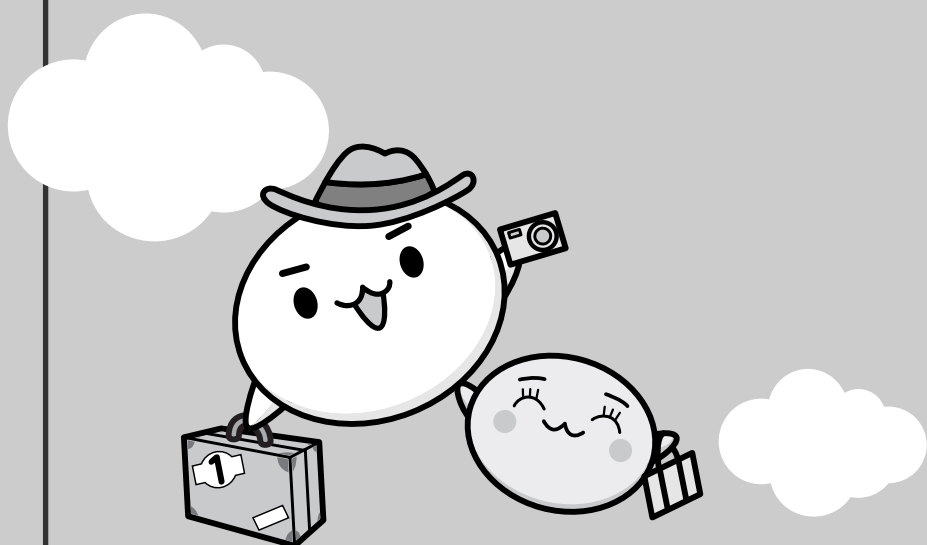
処理を中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
［次へ］ボタンをクリックすると、消去が実行されます。
消去中は、次の画面が表示されます。

消去が完了すると、終了画面が表示されます。

9 ［終了］ボタンをクリックする

リカバリディスクから行った場合は、自動的にディスクトレイが開きます。リカバリディスクを取り出してください。

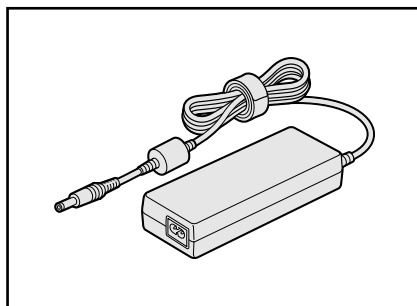
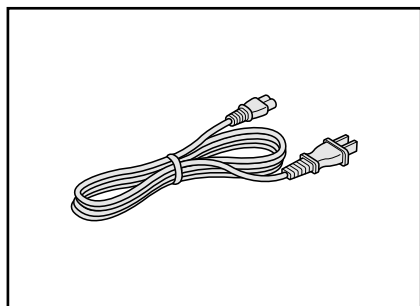
付録

1　ご使用にあたってのお願い 132

1 ご使用にあたってのお願い

本書で説明している機能をご使用にあたって、知っておいていただきたいことや守っていただきたいことがあります。次のお願い事項を、本書の各機能の説明とあわせて必ずお読みください。

1 電源コード、ACアダプタの取り扱いについて

- 電源コードやケーブルは束ねずに、ほどいた状態で使用してください。ご使用時は、あらかじめ『安心してお使いいただくために』に記載されている記述をよく読み、必ず指示を守ってください。
- 電源コードやACアダプタを持ち運ぶときには、次の図のように正しくケーブルを束ねてください。

付録

2 「PC引越ナビ」について

前のパソコンの動作環境について

- すべてのパソコンでの動作確認は行っておりません。したがって、すべてのパソコンでの動作は保証できません。

操作にあたって

- 「2章 1 - 2 起動方法」を参照して、注意制限事項を確認してください。
- こん包プログラムが作成するこん包ファイルを分割される場合、分割されるこん包ファイルの大きさは、最大2GBとなります。
- 「PC引越ナビ」がこん包ファイルで同時に移行できるファイル数は、最大65,000ファイルです。
- こん包プログラムからこん包ファイルを作成するには、作成される予定のこん包ファイルの大きさの約2.3倍の空き容量が、保存先の装置に必要です。

3 有線LANについて

LANケーブルの使用にあたって

- LANケーブルは市販のものを使用してください。
- LANケーブルをパソコン本体のLANコネクタに接続した状態で、LANケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LANコネクタが破損するおそれがあります。
- LANインタフェースを使用するとき、1000BASE-T規格は、エンハンストカテゴリ（CAT5E）以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。
  100BASE-TX規格は、カテゴリ5（CAT5）以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。
  10BASE-T規格は、カテゴリ3（CAT3）以上のケーブルが使用できます。

4 ウイルスチェック・セキュリティ対策について

使用するにあたって

- ウイルスチェックソフトがあらかじめインストールされていますが、ご使用になる場合には必ずウイルス定義ファイルの最新版をダウンロードしてください。
- ウイルス感染を防止するには、常に最新のウイルス定義ファイルをダウンロードしてください。
- 本製品に添付されている「ウイルスバスター」は90日間の使用期限があります。使用期限が切れたあとは、延長の申し込み、または市販品をご検討ください。
- 市販のウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトをインストールする場合は、すでにインストールしているウイルスチェックソフトをすべてアンインストールしてから行ってください。
- Windows ファイアウォールと「ウイルスバスター」のセキュリティ機能（ファイアウォールなど）が両方とも有効になっていると、アプリケーションなどが正常に動作しない場合があります。1つのセキュリティ機能のみ有効にしてください。

参照 Windows ファイアウォールについて
《パソコンで見るマニュアル（検索）：セキュリティの状態を確認するには》

参照 ウイルスチェックソフトのセキュリティ機能について
「ウイルスバスター」のヘルプ

5 「i-フィルター5.0」について

使用期限について

- 無料使用期間はご使用開始より90日間です。無料使用期間が過ぎますと、設定がすべて解除されフィルタリング機能がご使用できなくなります。無料使用期間中に有料にて正規サービスをお申し込みいただくことで、継続して使用することができます。

6 バックアップについて

バックアップをとるにあたって

- ユーザ名がリカバリ後と異なる場合、バックアップしたデータが復元できない場合があります。リカバリをする前にユーザ名を控えてください。

参照 リカバリについて「5章 買ったときの状態に戻すには」

- ハードディスクドライブや記録メディアに保存しているデータは、万一故障が起きた場合や、変化／消失した場合に備えて定期的にバックアップをとって保存してください。
  ハードディスクドライブや記録メディアに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いません。

7 CD／DVDにデータのバックアップをとる

CD／DVDに書き込む前に

CD／DVDに書き込みを行うときは、市販のライティングソフトウェアは使用しないでください。
CD／DVDに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。
守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、記録メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- 書き込みに失敗したCD／DVDの損害については、当社は一切その責任を負いません。また、記録内容の変化・消失など、CD／DVDに保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- CD／DVDに書き込むときには、それぞれの書き込み速度に対応し、それぞれの規格に準拠した記録メディアを使用してください。また、推奨するメーカの記録メディアを使用してください。

参照 CD／DVDについて
『いろいろな機能を使おう 1章 4-1 使える記録メディアを確認しよう』
『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』

- バッテリ駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ずACアダプタを接続してパソコン本体を電源コンセントに接続して使用してください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スリープ、休止状態、シャットダウンまたは再起動を実行しないでください。

参照 省電力機能について《パソコンで見るマニュアル（検索）：省電力の設定をする》

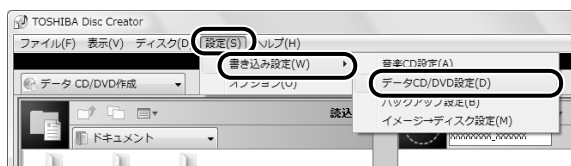
- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
  ・スクリーンセーバ
  ・ウイルスチェックソフト
  ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
  ・音楽CDやDVDの再生アプリケーション
  ・モデムなどの通信アプリケーション　など
  ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となります。
- SDメモリカード、SDHCメモリカード、USB接続などのハードディスクドライブなど、本製品の内蔵ハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込むときは、データをいったん本製品の内蔵ハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LANを経由する場合は、データをいったん本製品の内蔵ハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- 「TOSHIBA Disc Creator」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-RAMにデータを書き込むことはできません。
- 本製品に付属している「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-Video、DVD-VR、DVD-Audioを作成することはできません。
- 書き込み可能なDVDをバックアップする場合は、同じ種類の書き込み可能なDVDメディアでないとバックアップできない場合があります。詳細は「TOSHIBA Disc Creator」のヘルプを参照してください。
- 著作権保護されているDVD-Video を「TOSHIBA Disc Creator」を使用してバックアップを作成しても、作成された記録メディアで映像を再生することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してCD-ROM、CD-R、CD-RWからDVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rにバックアップを作成することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-ROM、DVD-Video、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R からCD-R、CD-RWにバックアップを作成することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用して、ほかのソフトウェアや、家庭用DVDビデオレコーダで作成したDVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rのバックアップを作成できないことがあります。

書き込みを行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 書き込み中は、周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

参照 周辺機器について『いろいろな機能を使おう 3章 周辺機器を使って機能を広げよう』

- パソコン本体から、携帯電話およびほかの無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

- 「TOSHIBA Disc Creator」では、データが正常に書き込まれたことを確認（簡易チェック）するように設定されています。
  次の手順で確認できます。
  ① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［CD&DVDアプリケーション］→［Disc Creator］をクリックする
  「TOSHIBA Disc Creator」の［Startup Menu］画面が表示されます。
  ② ［データCD/DVD作成］をクリックする
  ③ メインウインドウで［設定］をクリックし、［書き込み設定］→［データCD/DVD設定］をクリックする

  ［データCD/DVD設定］画面が表示されます。
  ④ ［データチェック］で［書き込み後にデータをチェックする］がチェックされているか確認する
  ［簡易チェック］と［詳細チェック］を選択することができます。

8 「東芝ファイルレスキュー」について

データを救助／復元するにあたって

- 本ソフトウェアは、ハードディスク上のすべてのファイルの救助、復元を保証するものではありません。
  弊社は、いかなる場合においても、本ソフトウェアの使用によって生じたデータの損害について一切の責任を負わないものとします。
- ハードディスクが破損している場合、または、ハードディスク上のファイルが破損している場合は、救助、復元することができません。
- 東芝ファイルレスキューは、OSが起動しないときに、ハードディスク上のファイルを別の保存用記録メディアへ退避するためのものです。その他の用途では使用しないでください。
- データを救助するとき、データ保存用の記録メディアは、パソコンの電源を入れる前に接続してください。電源を入れたあとに接続すると正しく認識されないことがあります。
- プログラムファイル、または、プログラム用のデータファイルを救助しても、復元後に正常に動作することを保証できません。

- 著作権保護、または、コピープロテクションによって保護されたファイルを救助しても、復元後に正常に動作することを保証できません。
- システム属性を持つファイル、および、暗号化されたファイルは救助できません。暗号化されたハードディスクからは、救助できません。これらの救助できないファイルは、救助対象を選択、または、確認する一覧の中に表示されません。
- データを救助するときはすべてのユーザのユーザデータを一度に救助することができますが、データを復元するときは一回の復元実行によって一つのユーザアカウント分のデータだけを復元します。復元したファイルは、復元処理を実行したユーザアカウントの所有ファイルとなります。
  ファイルの所有者となるユーザアカウントでログオンし、復元処理を実行してください。
- 復元実行中にスリープ／休止状態へ移行する操作を行わないでください。
- データ保存用の記録メディアとしてCD／DVDを使用するときは、データを確実にレスキューするために、新しい記録メディアを使用することをおすすめします。

さくいん

A

ACアダプタ 132

D

DC IN LED 44
dynabookランチャー. 34

I

i-フィルター 73, 133

L

LANケーブル 61, 133

P

PC引越ナビ 52, 132
Power LED 44
Product Key. 12

T

TOSHIBA Disc Creator. 81
TOSHIBA Recovery Disc Creator . . . 95

W

Windows セキュリティセンター 67
Windowsのセットアップ. 21
Windowsヘルプとサポート 35
Windows メール 64
Windowsログオンパスワード 24

ア

アプリケーションの再インストール . . . 119

イ

インターネット. 60

ウ

ウイルス. 67
ウイルスチェックソフト 67, 133
ウイルスバスター. 69

オ

お客様登録. 124
おたすけナビ 48

カ

カーソル. 24
管理者ユーザ 23

ク

クリック. 22

サ

再起動 41
再セットアップ 100
冊子マニュアル. 46

シ

シート 45

ス

スリープ. 37
スリープ機能を強化する. 37

セ

セーフ モード. 101

テ

ディスクの管理 118
電源コード. 132
電源コードとACアダプタを接続する. . . . 15
電源を入れる 42
電源を切る 41

ト

動画で学ぶ Microsoft Office PowerPoint 2007 49
動画で学ぶ Office Personal 2007 . . . 48
動画で学ぶ Windows Vista 48
動画で学ぶ YouTube. 49
動画で学ぶ デジカメ活用 50
東芝ID 124
東芝サービスステーション 32
東芝ファイルレスキュー 86, 136

ハ

パーティション 118
ハードディスクドライブの内容をすべて消去する 127
ハイブリッド スリープ 37
はじめてガイド. 47
パスワード 24
パソコンで見るマニュアル 47
バックアップ 76, 134

ヒ

日付と時刻の確認 35

フ

ブロードバンド接続 61
プロバイダ 60

メ

メール 64

リ

リカバリ. 100, 105
リカバリチェックシート. 140
リカバリディスク 95, 110
リリース情報. 9

リカバリ（再セットアップ）チェックシート

リカバリは、本ページをコピーするなどして、次の項目を順番にチェックしながら実行してください。本ページに記載されている各チェック項目の詳細は、「5章 買ったときの状態に戻すには」で説明しています。

1 リカバリをする前に確認すること

□ウイルスチェックソフトで、ウイルス感染のチェックを実行する
□セーフモードで起動できるかどうか実行してみる
□周辺機器をすべて取りはずし、再度確認してみる
□ほかのトラブル解消方法を探してみる

参照 『いろいろな機能を使おう 6章 パソコンの動作がおかしいときは』

2 リカバリをはじめる前にしておくこと

□**①準備するもの**
□『準備しよう』（本書）　□『いろいろな機能を使おう』
□このリカバリチェックシートをコピーしたもの
□リカバリディスク（作成したリカバリディスクからリカバリする場合）

□**②必要なデータのバックアップをとる**
バックアップをとることができる場合は、とっておいてください。リカバリをすると、購入後に作成したデータはすべて消失します。
□ドキュメントのデータ　□購入後にデスクトップに保存したデータ
□インターネットエクスプローラのお気に入り
□メール送受信データ　□メールアドレス帳
□プレインストールされているアプリケーションのデータやファイル
□購入後にインストールしたアプリケーションのデータ
□購入後に作成したフォルダやファイル

参照 バックアップについて「4章 大切なデータを失わないために」

□**③アプリケーションのセットアップ用のメディアを確認する**
「Microsoft Office」や、購入後にインストールしたアプリケーションなどは、リカバリ後にインストールする必要があります。リカバリした直後は、お客様がインストールしたソフトなどは復元されません。ご購入されたメディアなどから再度インストールしてください。

□**④各種設定を確認する**

□**⑤あらかじめ、音量を調節する**
リカバリ後、Windowsセットアップが終了するまで音量の調節ができないためです。

□**⑥周辺機器をすべて取りはずす**

3 リカバリ（再セットアップ）の流れ

リカバリをする場合は、次のような流れで作業を行ってください。
□リカバリ（再セットアップ）
□Office製品のインストール　□アプリケーションのインストール
□周辺機器（マウス・メモリ・プリンタなど）を取り付けて、設定する
□インターネットの設定　□ウイルスチェックソフトの更新
□Windows Update　□データの復元やメールの設定

PRINTED WITH SOYINK™ この取扱説明書は植物性大豆油インキを使用しております。
この取扱説明書は再生紙を使用しております。

東芝PC総合情報サイト

http://dynabook.com/

東芝PCあんしんサポート

技術的なご質問、お問い合わせ、修理のご依頼をお受けいたします。

全国共通電話番号 **0120-97-1048**（通話料·電話サポート料無料）

おかけいただくと、アナウンスが流れます。
アナウンスに従ってご希望の窓口に該当する番号をプッシュしてください。

電話番号は、お間違えのないよう、ご確認の上おかけください。
海外からの電話、携帯電話、PHSまたは直収回線など回線契約によってはつながらない場合がございます。その場合はTEL 043-298-8780（通話料お客様負担）にお問い合わせください。
ご相談の内容により、別のサポート窓口をご案内する場合がございます。
技術相談窓口受付時間：9：00～19：00（年中無休）
修理相談窓口受付時間：9：00～22：00（年末年始12/31～1/3を除く）

▼インターネットで修理のお申し込み
http://dynabook.com/assistpc/repaircenter/i_repair.htm

お問い合わせの詳細につきましては、『東芝PCサポートのご案内』をご参照ください。

株式会社 東芝 PC&ネットワーク社

PC第一事業部 〒105-8001 東京都港区芝浦1-1-1

GX1C000P4120
Printed in China